
インストールガイド

Enhanced Support Facility 2.5.1

for Solaris™ Operating System

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。

お客さまは本製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客さまがハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

UNIX は、米国およびその他の国におけるオーブングループの登録商標です。

Sun, Solaris, HotJava, SunVTS は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標もしくは登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

FLEXlm は、米国 GLOBEtrötter 社の米国における登録商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Netscape, Netscape Navigator, Netscape Communications は、米国 Netscape Communications Corporation の商標です。

PostScript は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

そのほか、本書に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Copyright 1998- Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

Copyright 1995- GLOBEtrötter Software, Inc.

Copyright 1995- Software Research Associates, Inc.

All Rights Reserved.

All Rights Reserved, Copyright © FUJITSU LIMITED 2005

まえがき

本書では、System Control Facility ドライバを以降、SCF ドライバと省略します。System Control Facility ハードウェアを以降、SCF と省略します。

本書ではサポートしている本体装置モデル名に対し独自に略称を使用しています。モデル名略称および Enhanced Support Facility 2.2 まで使用していたプラットフォーム名との対応について”付録 F.モデル名略称とプラットフォーム名について”に記載しています。

目次

1. 構成プログラム	5
1.1 Solaris™ 2.6 Operating Systemの場合	5
1.2 Solaris™ 7 Operating Systemの場合	7
1.3 Solaris™ 8 Operating Systemの場合	9
1.4 Solaris™ 9 Operating Systemの場合	13
1.5 Solaris™ 10 Operating Systemの場合	17
2. 適用マニュアル	21
2.1 オンラインマニュアル	21
2.1.1 参照方法(HTML形式)	21
2.1.1.1 パソコンで参照する場合	21
2.1.1.2 サーバ(Solaris™ オペレーティング環境)で参照する場合	21
2.1.2 参照方法(PostScript™形式)	22
2.2 印刷マニュアル(製品添付)	22
3. 動作環境	23
3.1 ソフトウェア環境	23
3.2 ハードウェア環境	26
3.3 静的ディスク資源	26
3.3.1 必要とするディスク容量	26
3.3.1.1 PRIMEPOWER900/1500(SPARC64™ V搭載モデル)/2500/HPC2500 の場合	26
3.3.1.2 PRIMEPOWER1500(SPARC64™ GP搭載モデル)の場合	26
3.3.1.3 PRIMEPOWER250/450 の場合	26
3.3.1.4 PRIMEPOWER650(SPARC64™ V搭載モデル)/850(SPARC64™ V搭載モデル) の場合	26
3.3.1.5 PRIMEPOWER650(SPARC64™ GP搭載モデル)/850(SPARC64™ GP搭載モデル) の場合	27
3.3.1.6 PRIMEPOWER800/1000/2000 の場合	27
3.3.1.7 GP7000Fモデル 1000/2000 の場合	27
3.3.1.8 PRIMEPOWER200/400/600,GP7000Fモデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R の場合	27
3.3.1.9 PRIMEPOWER1/100 の場合	27
3.3.1.10 富士通S series, GP-Sファミリーの場合	28
3.3.2 必要とする作業域	28
3.4 動的ディスク資源	29
3.4.1 必要とするディスク容量	29
3.5 メモリ容量	30
3.6 スワップ容量	30
4. 制限、注意事項	31
4.1 制限事項	31
4.2 移行上の注意	31
4.2.1 ユーザデータの互換	31
4.2.2 環境定義ファイルの互換	31
4.3 注意事項	31
5. インストール手順	34
5.1 PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000Fモデル 1000/2000 の場合	34
5.1.1 前準備	34
5.1.1.1 システム環境の確認	34
5.1.1.2 環境設定ファイルの退避方法	36
5.1.1.3 注意	37
5.1.1.4 インストール時間	37
5.1.2 ソフトウェアのインストール	38
5.1.3 インストール後の環境復元	41
5.1.4 システムの再起動	42
5.1.5 インストール後の環境設定	42
5.1.6 修正の適用	44
5.2 PRIMEPOWER1/100/200/250/400/450/600/650/850, GP7000Fモデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R, 富士通S seriesおよびGP-Sファミリーの場合	45

5.2.1 前準備	45
5.2.1.1 システム環境の確認	45
5.2.1.2 環境設定ファイルの退避方法	47
5.2.1.3 注意	47
5.2.1.4 インストール時間	47
5.2.2 ソフトウェアのインストール	48
5.2.3 インストール後の環境復元	51
5.2.4 システムの再起動	52
5.2.5 インストール後の環境設定	52
5.2.6 修正の適用	54
6. ソフトウェアの削除方法	55
6.1 PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000Fモデル 1000/2000 の場合	55
6.2 PRIMEPOWER1/100/200/250/400/450/600/650/850, GP7000Fモデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R, 富士通S seriesおよびGP-Sファミリーの場合	59
付録A コマンドリファレンス	63
A.1 esfadd(1M)コマンド	63
A.2 esfrm(1M)コマンド	65
A.3 esfver(1M)コマンド	66
付録B インストール時のトラブル対応	68
B.1 パッケージインストール時のトラブル対応 1	69
B.2 パッケージインストール時のトラブル対応 2	70
B.3 パッケージインストール時のトラブル対応 3	70
B.4 パッケージ削除時のトラブル対応 1	71
B.5 パッケージ削除時のトラブル対応 2	72
付録C CPUパフォーマンスカウンタのインストールと削除	73
C.1 CPUパフォーマンスカウンタのインストール (アップグレードも含む)	73
C.2 CPUパフォーマンスカウンタの削除	74
付録D シングルユーザ・モードにおけるCD-ROMの手動マウントについて	75
付録E Solaris Live Upgradeについて	75
E.1 制約事項	76
E.2 アップデート手順	76
E.2.1 新ブート環境の作成準備および環境の確認	77
E.2.1.1 Enhanced Support Facility CD-ROMのマウント	77
E.2.1.2 システム環境の確認	77
E.2.1.3 注意事項	78
E.3 新ブート環境の作成とソフトウェアの削除	78
E.3.1 新ブート環境の作成とマウント	78
E.3.2 環境設定ファイルの退避	78
E.3.2.1 環境設定ファイルがあるパッケージ	78
E.3.2.2 環境設定ファイルの退避手順	79
E.3.3 新ブート環境からのソフトウェアの削除	80
E.3.4 新ブート環境のアンマウント	82
E.4 オペレーティング環境のアップグレード	82
E.5 ソフトウェアのインストール	82
E.5.1 新ブート環境のマウント	82
E.5.2 新ブート環境へのソフトウェアのインストール	83
E.6 新ブート環境への環境の復元	85
E.7 ブート環境の切り換え	86
E.7.1 新ブート環境のアンマウント	86
E.7.2 アクティブブート環境の切り換え	86
E.7.3 新ブート環境によるシステムの起動	86
E.8 新ブート環境起動後に行う環境復元	87
E.8.1 環境の復元	87
E.8.2 コンポーネントの再起動	87
E.8.3 インストール後の環境設定	87

付録F モデル名略称とプラットフォーム名について.....	88
付録G コンポーネントグループを指定したインストール.....	89
G.1 コンポーネントグループ指定オプション使用時の注意事項.....	89
G.2 コンポーネントグループ.....	89
G.2.1 構成プログラム（BASICコンポーネントグループ）.....	90
G.2.2 構成プログラム（COREコンポーネントグループ）.....	95
G.3 コンポーネントグループを指定したインストール.....	99
付録H 修正パッチが適用されない場合.....	102
付録I カスタムJumpStartについて.....	104
I.1 環境.....	104
I.2 カスタムJumpStart手順.....	104
I.2.1 インストールサーバのCDを他のシステムで使用可能に設定する.....	104
I.2.2 Enhanced Support Facility のインストールスクリプト.....	104
I.3 注意.....	105
付録J DHCPサービスを使用した、Solaris のネットワークインストールを行った場合について.....	106
付録K Solaris Zone対応について.....	107
付録L FJVTSの注意事項.....	108

1. 構成プログラム

システムを構成するプログラムの単位をパッケージと呼びます。本ソフトウェアは、以下に示しますコンポーネントおよびパッケージから構成されています。

1.1 Solaris™ 2.6 Operating System の場合

PW-K : PRIMEPOWER800/1000/2000

PW-T : PRIMEPOWER200/400/600, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R

GP-S : 富士通 S series, GP-S ファミリー

○ : サポート, - : 未サポート

項番	コンポーネント	パッケージ名	バージョン	PW-K	PW-T	GP-S	機能
1	Enhanced Support Facility 情報管理	FJSVbse	2.5.1	○	○	○	Enhanced Support Facility のインストール情報データ管理
2	SCF ドライバ	FJSVscdx.us	1.9.2	-	○	-	RAS 制御デバイスドライバ(SCF, FaultLED)(64 ビット)
		FJSVscd.us	1.9.2	-	○	-	RAS 制御デバイスドライバ(SCF, FaultLED)
		FJSVscr.us	1.9.2	-	○	-	RAS 制御デーモンおよび設定ファイル
		FJSVscu.us	1.9.2	-	○	-	RAS 制御コマンド
		FJSVscuja	1.9.2	-	○	-	RAS 制御日本語環境
		FJSVscd1	1.0	○	-	-	PRIMEPOWER800/1000/2000 用 RAS 制御デバイスドライバ(SCF2 ドライバ)(32/64 ビット)
		FJSVscr1	1.0	○	-	-	PRIMEPOWER800/1000/2000 用 RAS 制御デーモンおよび設定ファイル
		FJSVscu1	1.0	○	-	-	PRIMEPOWER800/1000/2000 用 RAS 制御コマンド
3	SunVTS,FJVTS	SUNWvts	2.1.3	○	○	-	オンライン診断テスト
		SUNWvtsmn	2.1.3	○	○	-	
		FJSVvts	2.1.3	○	○	-	
4	Web-Based Admin View / WWW Server for Admin View	FJSVwvcnf	2.0.3	○	○	○	Web-Based Admin View を使用するための専用 WWW サーバ機能
		FJSVwvbs	2.1.2	○	○	○	Web アプリケーションのための通信基盤機能
5	マシン管理	FJSVmasv	2.2.2	○	○	○	ハードウェアに依存するシステムの運用/保守のサポート機能を提供します。
		FJSVmand	2.2.3	-	○	○	
		FJSVmadm	1.2.1	○	○	○	
		FJSVmaom	1.9.1	○	○	○	
		FJSVkmnd	1.7.1	○	-	-	
		FJSVkmsv	2.5.1	○	-	-	
6	リモートサポート	FJSVmarm	1.9	-	○	○	富士通サポートセンタへの接続機能を提供します。
		FJSVkmrm	1.0.5	○	-	-	
		FJSVrlib	8.2.1	-	○	○	
		FJSVragt	2.9	-	○	○	
		FJSVrmaos	2.9	-	○	○	
		FJSVrrda	2.9	○	○	○	
		FJSVracm	2.9	○	○	○	
		FJSVsirms	3.2	○	○	○	

項番	コンポーネント	パッケージ名	バージョン	PW-K	PW-T	GP-S	機能
7	自動電源制御	FJSVapcs	1.4.0	○	○	—	指定されたスケジュールに従って、本体装置の電源を自動的に投入、切断します。
		FJSVapcww	2.0	○	○	○	電源制御の運用管理ビュー機能を提供します。
8	Server Default Configuration	FJSVdef	1.1.4	○	○	○	クラッシュダンプの退避機能を有効にします。 システムログの肥大化によるファイルシステム容量不足の発生を予防します。
		FJSVpnl.us	2.1	○	—	—	パーティションダンプ機能を提供します。(32 ビット パネルドライバ)
		FJSVwarn.us	1.3	○	○	—	メモリエラーに対する監視機能を提供します。
9	システム情報採取ツール	FJSVsnap	2.5	○	○	○	システムのハード・ソフト構成、環境設定、ログおよび動作状態に関するファイル、ならびにコマンド実行結果を採取してテープ装置などに障害調査に必要なシステム情報を採取します。
10	ライセンスマネージャ	FSUNlic	6.2	○	○	○	ソフトウェアのライセンスを管理します。
11	ダンプ補助	FJSVdmp	1.5	○	○	○	システムクラッシュ後のレポート時に、クラッシュダンプが退避されるのと同時に障害調査に必要なシステム情報を「システム情報採取ツール」を使用して採取します。
12	ダンプ自動解析	FJSVana	1.1	○	○	○	システムクラッシュ後のレポート時に、クラッシュダンプを自動解析します。また、本パッケージはコア関連ファイル収集ツール cocore を含んでいます。cocore の詳細については、 <code>/opt/FJSVana/doc/README.cocore(.ja)</code> を参照してください。
13	高信頼化対応ドライバ	FJSVsef	1.0.1	○	—	—	PRIMEPOWER800/1000/2000 用高信頼化対応シリアルポートドライバ
14	CPU パトロール診断	FJSVcpupd	1.3	○	○	—	富士通 SPARC64 GP プロセッサのためのパトロール診断機能
15	テープドライバ定義設定ツール	FJSVdenf	1.0	○	○	○	対象テープ装置のドライバ定義を自動的に設定します。

1.2 Solaris™ 7 Operating System の場合

PW-K : PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000

PW-T : PRIMEPOWER200/400/600, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R

GP-S : 富士通 S series, GP-S ファミリー

○ : サポート, - : 未サポート

項番	コンポーネント	パッケージ名	バージョン	PW-K	PW-T	GP-S	機能
1	Enhanced Support Facility 情報管理	FJSVbse	2.5.1	○	○	○	Enhanced Support Facility のインストール情報データ管理
2	SCF ドライバ	FJSVscdx.us	1.9.2	-	○	-	RAS 制御デバイスドライバ(SCF, FaultLED)(64 ビット)
		FJSVscd.us	1.9.2	-	○	-	RAS 制御デバイスドライバ(SCF, FaultLED)
		FJSVscr.us	1.9.2	-	○	-	RAS 制御デーモンおよび設定ファイル
		FJSVscu.us	1.9.2	-	○	-	RAS 制御コマンド
		FJSVscuja	1.9.2	-	○	-	RAS 制御日本語環境
		FJSViomp	2.3	○	-	-	PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 用 IOMP レベル 2 フレームワーク
		FJSVscd2	1.3	○	-	-	PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 用 RAS 制御デバイスドライバ(SCF2 ドライバ)(32/64 ビット)
		FJSVscr2	1.3	○	-	-	PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 用 RAS 制御デーモンおよび設定ファイル
		FJSVscu2	1.3	○	-	-	PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 用 RAS 制御コマンド
3	SunVTS,FJVTS	SUNWvts	4.0	○	○	-	オンライン診断テスト
		SUNWvtsmn	4.0	○	○	-	
		SUNWvtsx	4.0	○	○	-	
		FJSVvts	4.0	○	○	-	
4	Web-Based Admin View / WWW Server for Admin View	FJSVwvcnf	2.0.3	○	○	○	Web-Based Admin View を使用するための専用 WWW サーバ機能
		FJSVwvbs	2.1.2	○	○	○	Web アプリケーションのための通信基盤機能
5	マシン管理	FJSVmasv	2.2.2	○	○	○	ハードウェアに依存するシステムの運用/保守のサポート機能を提供します。
		FJSVmand	2.2.3	-	○	○	
		FJSVmadm	1.2.1	○	○	○	
		FJSVmaom	1.9.1	○	○	○	
		FJSVkmnd	1.7.1	○	-	-	
		FJSVkmsv	2.5.1	○	-	-	
6	リモートサポート	FJSVmarm	1.9	-	○	○	富士通サポートセンタへの接続機能を提供します。
		FJSVkmrm	1.0.5	○	-	-	
		FJSVrlib	8.2.1	-	○	○	
		FJSVragt	2.9	-	○	○	
		FJSVrmaos	2.9	-	○	○	
		FJSVrrda	2.9	○	○	○	
		FJSVracm	2.9	○	○	○	
		FJSVsirms	3.2	○	○	○	

項番	コンポーネント	パッケージ名	バージョン	PW-K	PW-T	GP-S	機能
7	自動電源制御	FJSVapcs	1.4.0	○	○	—	指定されたスケジュールに従って、本体装置の電源を自動的に投入、切断します。
		FJSVapcww	2.0	○	○	○	電源制御の運用管理ビュー機能を提供します。
8	Server Default Configuration	FJSVdef	1.2.4	○	○	○	システムログの肥大化によるファイルシステム容量不足の発生を予防します。
		FJSVssf	2.0.2	○	○	—	システムの保守性を向上させるためのトレース情報を採取します。
		FJSVpnlx.us	2.1	○	—	—	パーティションダンプ機能を提供します。(64ビット パネルドライバ)
		FJSVpnl.us	2.1	○	—	—	パーティションダンプ機能を提供します。(32ビット パネルドライバ)
		FJSVwarn.us	1.3	○	○	—	メモリエラーに対する監視機能を提供します。
9	システム情報採取ツール	FJSVsnap	2.5	○	○	○	システムのハード・ソフト構成、環境設定、ログおよび動作状態に関するファイル、ならびにコマンド実行結果を採取してテープ装置などに障害調査に必要なシステム情報を採取します。
10	ライセンスマネージャ	FSUNlic	6.2	○	○	○	ソフトウェアのライセンスを管理します。
11	ダンプ補助	FJSVdmp	1.5	○	○	○	システムクラッシュ後のレポート時に、クラッシュダンプが退避されるのと同時に障害調査に必要なシステム情報を「システム情報採取ツール」を使用して採取します。
12	ダンプ自動解析	FJSVana	1.1	○	○	○	システムクラッシュ後のレポート時に、クラッシュダンプを自動解析します。また、本パッケージはコア関連ファイル収集ツール cocore を含んでいます。cocoreの詳細については、 /opt/FJSVana/doc/README.cocore(.ja)を参照してください。
13	高信頼化対応ドライバ	FJSVse	1.0.1	○	—	—	PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 用シリアルポートドライバ(32/64ビット)
14	CPU パトロール診断	FJSVcpupd	1.3	○	○	—	富士通 SPARC64 GP プロセッサのためのパトロール診断機能
15	テープドライバ定義設定ツール	FJSVdcnf	1.0	○	○	○	対象テープ装置のドライバ定義を自動的に設定します。

1.3 Solaris™ 8 Operating System の場合

PW-P : PRIMEPOWER250/450

PW-CLZ : PRIMEPOWER900/1500(SPARC64™ V 搭載モデル)/2500/HPC2500

PW-CL : PRIMEPOWER1500(SPARC64™ GP 搭載モデル)

PW-CMZ : PRIMEPOWER650(SPARC64™ V 搭載モデル)/850(SPARC64™ V 搭載モデル)

PW-CM : PRIMEPOWER650(SPARC64™ GP 搭載モデル)/850(SPARC64™ GP 搭載モデル)

PW-K : PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000

PW-T : PRIMEPOWER200/400/600, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R

PW-U : PRIMEPOWER1/100

GP-S : 富士通 S series, GP-S ファミリー

○ : サポート, - : 未サポート

項番	コンポーネント	パッケージ名	バージョン	PW-P	PW-CLZ	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S	機能	
1	Enhanced Support Facility 情報管理	FJSVbse	2.5.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Enhanced Support Facility のインストール情報データ管理	
2	DR コマンド	FJSVdrcmd	1.8	-	○注 1)	-注 2)	-	-	○	-	-	-	Dynamic Reconfiguration コマンド(64 ビット)	
3	SCF ドライバ	FJSVscdx.us	1.9.2	-	-	-	-	-	-	○	-	-	RAS 制御デバイスドライバ(SCF, FaultLED)(64 ビット)	
		FJSVscd.us	1.9.2	-	-	-	-	-	-	○	-	-	RAS 制御デバイスドライバ(SCF, FaultLED)	
		FJSVscr.us	1.9.2	-	-	-	-	-	-	○	-	-	RAS 制御デーモンおよび設定ファイル	
		FJSVscu.us	1.9.2	-	-	-	-	-	-	○	-	-	RAS 制御コマンド	
		FJSVscuja	1.9.2	-	-	-	-	-	-	○	-	-	RAS 制御日本語環境	
		FJSViomp	2.3	○	○	○	○	○	○	-	-	-	PRIMEPOWER250/450/650/800/850/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500,GP7000F モデル 1000/2000 用 IOMP レベル 2 フレームワーク	
		FJSVscd2	1.3	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 用 RAS 制御デバイスドライバ(SCF2 ドライバ)(32/64 ビット)
		FJSVscr2	1.3	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 用 RAS 制御デーモンおよび設定ファイル
		FJSVscu2	1.3	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 用 RAS 制御コマンド
		FJSVscuj2	1.3	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 用 RAS 制御日本語環境
FJSVlscdx	1.2	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	RAS 制御デバイスドライバ(SCF, FaultLED)(64 ビット)		

項番	コンポーネント	パッケージ名	バージョン	PW-P	PW-CLZ	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S	機能	
		FJSVlscd	1.2	—	—	—	—	—	—	—	○	—	RAS 制御デバイスドライバ (SCF,FaultLED)	
		FJSVlscr	1.2	—	—	—	—	—	—	—	○	—	RAS 制御デーモンおよび設定ファイル	
		FJSVlscu	1.2	—	—	—	—	—	—	—	○	—	RAS 制御コマンド	
		FJSVlscuj	1.2	—	—	—	—	—	—	—	○	—	RAS 制御日本語環境	
		FJSVscd3	1.3	—	○	○	○	○	—	—	—	—	PRIMEPOWER650/850/900/1500/2500/HPC 2500 用 RAS 制御デバイスドライバ (SCF3 ドライバ)(64 ビット)	
		FJSVscr3	1.3	—	○	○	○	○	—	—	—	—	PRIMEPOWER650/850/900/1500/2500/HPC 2500 用 RAS 制御デーモンおよび設定ファイル	
		FJSVscu3	1.3	—	○	○	○	○	—	—	—	—	PRIMEPOWER650/850/900/1500/2500/HPC 2500 用 RAS 制御コマンド	
		FJSVscuj3	1.3	—	○	○	○	○	—	—	—	—	PRIMEPOWER650/850/900/1500/2500/HPC 2500 用 RAS 制御日本語環境	
		FJSVpscd	1.1	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PRIMEPOWER250/450 用 RAS 制御デバイスドライバ(SCF3 ドライバ)(64 ビット)
		FJSVpscr	1.1	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PRIMEPOWER250/450 用 RAS 制御デーモンおよび設定ファイル
		FJSVpscu	1.1	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PRIMEPOWER250/450 用 RAS 制御コマンド
FJSVpscuj	1.1	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PRIMEPOWER250/450 用 RAS 制御日本語環境		
4	SunVTS, FJVTS	SUNWvts	4.0	○	○	○	○	○	○	○	○	—	オンライン診断テスト	
		SUNWvtsmn	4.0	○	○	○	○	○	○	○	○	—		
		SUNWvtsx	4.0	○	○	○	○	○	○	○	○	—		
		FJSVvts	4.0	○	○	○	○	○	○	○	○	—		
5	Web-Based Admin View /WWW Server for Admin View	FJSVwvcnf	2.0.3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Web-Based Admin View を使用するための専用 WWW サーバ機能	
		FJSVwvbs	2.1.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Web アプリケーションのための通信基盤機能	
6	マシン管理	FJSVmasv	2.2.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ハードウェアに依存するシステムの運用／保守のサポート機能を提供します。	
		FJSVmand	2.2.3	—	—	—	—	—	—	○	○	○		
		FJSVmadm	1.2.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		FJSVmaom	1.9.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		FJSVkmnd	1.7.1	—	—	—	—	—	○	—	—	—		
		FJSVkmsv	2.5.1	—	—	—	—	—	○	—	—	—		
		FJSVcmnd	1.5.1	—	○	○	○	○	—	—	—	—		
FJSVpmnd	1.2.1	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
7	リモート	FJSVmarm	1.9	—	—	—	—	—	—	○	○	○	富士通サポートセン	

項番	コンポーネント	パッケージ名	バージョン	PW-P	PW-CLZ	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S	機能
	サポート	FJSVkmrm	1.0.5	—	—	—	—	—	○	—	—	—	タへの接続機能を提供します。
		FJSVrlib	8.2.1	○	—	—	○	○	—	○	○	○	
		FJSVragt	2.9	○	—	—	○	○	—	○	○	○	
		FJSVrmaos	2.9	○	—	—	○	○	—	○	○	○	
		FJSVrrda	2.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		FJSVracm	2.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		FJSVsirms	3.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		FJSVcmrm	1.5	—	—	—	○	○	—	—	—	—	
		FJSVcmrm2	1.2	—	○	○	—	—	—	—	—	—	
		FJSVpmrm	1.2	○	—	—	—	—	—	—	—	—	
8	自動電源制御	FJSVapcs	1.4.0	○	○	○	○	○	○	○	—	—	指定されたスケジュールに従って、本体装置の電源を自動的に投入、切断します。
		FJSVapcww	2.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	電源制御の運用管理ビュー機能を提供します。
9	Server Default Configuration	FJSVdef	1.2.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	システムログの肥大化によるファイルシステム容量不足の発生を予防します。
		FJSVssf	2.0.2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	システムの保守性を向上させるためのトレース情報を採取します。
		FJSVpnlx.us	2.1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	パーティションダンプ機能を提供します。(64ビット パネルドライブ)
		FJSVpnl.us	2.1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	パーティションダンプ機能を提供します。(32ビット パネルドライブ)
		FJSVwarn.us	1.3	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—
10	システム情報採取ツール	FJSVsnap	2.5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	システムのハード・ソフト構成、環境設定、ログおよび動作状態に関するファイル、ならびにコマンド実行結果を採取してテープ装置などに障害調査に必要なシステム情報を採取します。
11	ライセンスマネージャ	FSUNlic	6.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ソフトウェアのライセンスを管理します。
12	ダンプ補助	FJSVdmp	1.5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	システムクラッシュ後のリブート時に、クラッシュダンプが退避されると同時に障害調査に必要なシステム情報を「システム情報採取ツール」を使用して採取します。

項番	コンポーネント	パッケージ名	バージョン	PW-P	PW-CLZ	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S	機能
13	ダンプ自動解析	FJSVana	1.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	システムクラッシュ後のリブート時に、クラッシュダンプを自動解析します。また、本パッケージはコア関連ファイル収集ツール cocore を含んでいます。cocore の詳細については、/opt/FJSVana/doc/README.cocore(.ja) を参照してください
14	高信頼化対応ドライバ	FJSVse	2.1.2	—	—	—	—	—	○	—	—	—	シリアルポートドライバ
		FJSVsec	1.2.1	—	○	○	—	—	—	—	—	—	シリアルポートドライバ
15	CPU パトロール診断	FJSVcpupd	1.3	—	— 注 3)	○	— 注 3)	○	○	○	—	—	富士通 SPARC64 GP プロセッサのためのパトロール診断機能
16	G-LAN 障害通知	FJSVgidad.us	2.0.1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	GigabitEthernet インタフェースの障害通知機能
17	G-LAN MTU 設定	FJSVgidr.us	2.0.0	○	○	○	○	○	○	○	—	—	GigabitEthernet インタフェースの JumboFrame 設定時の MTU 変更反映スクリプト
18	HCP 情報管理	FJSVhcp	1.0	○	—	—	—	—	—	—	—	—	XSCF ユーザーズガイド、ファームウェア、ユーティリティ
19	システムパラメータ診断	FJSVparam	1.1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	Solaris システムのシステムパラメータを診断します。
20	HRM-S システム稼働支援機能	FJSVhrm	2.0.3	○	○	○	○	○	—	○	—	—	システムの安定稼働を目的とし、保守作業の迅速かつ確実な実施を支援する機能。
21	テープドライバ定義設定ツール	FJSVdcnf	1.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	対象テープ装置のドライバ定義を自動的に設定します。

注 1) PRIMEPOWER HPC2500 では、DR コマンドはインストールされません。

注 2) DR コマンド FJSVdrcmd はインストールされますが、サポート対象外です。

注 3) CPU パトロール診断 FJSVcpupd は PW-CLZ, PW-CMZ の全モデルにインストールされますが、サポート対象外です。

1.4 Solaris™ 9 Operating System の場合

PW-P : PRIMEPOWER250/450

PW-CLZ : PRIMEPOWER900/1500(SPARC64™ V 搭載モデル)/2500/HPC2500

PW-CL : PRIMEPOWER1500(SPARC64™ GP 搭載モデル)

PW-CMZ : PRIMEPOWER650(SPARC64™ V 搭載モデル)/850(SPARC64™ V 搭載モデル)

PW-CM : PRIMEPOWER650(SPARC64™ GP 搭載モデル)/850(SPARC64™ GP 搭載モデル)

PW-K : PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000

PW-T : PRIMEPOWER200/400/600, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R

PW-U : PRIMEPOWER1/100

GP-S : 富士通 S series, GP-S ファミリー

○ : サポート, - : 未サポート

項番	コンポーネント	パッケージ名	バージョン	PW-P	PW-CLZ	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S	機能	
1	Enhanced Support Facility 情報管理	FJSVbse	2.5.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Enhanced Support Facility のインストール情報データ管理	
2	NGDR コマンド	FJSVdr	1.3	-	○注 1)	-注 2)	-	-	○	-	-	-	Dynamic Reconfiguration	
3	SCF ドライバ	FJSVscdx.us	1.9.2	-	-	-	-	-	-	○	-	-	RAS 制御デバイスドライバ(SCF, FaultLED)(64 ビット)	
		FJSVscd.us	1.9.2	-	-	-	-	-	-	○	-	-	RAS 制御デバイスドライバ(SCF, FaultLED)	
		FJSVscr.us	1.9.2	-	-	-	-	-	-	○	-	-	RAS 制御デーモンおよび設定ファイル	
		FJSVscu.us	1.9.2	-	-	-	-	-	-	○	-	-	RAS 制御コマンド	
		FJSVscuja	1.9.2	-	-	-	-	-	-	○	-	-	RAS 制御日本語環境	
		FJSViomp	2.3	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	PRIMEPOWER250/450/650/800/850/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 用 IOMP レベル 2 フレームワーク
		FJSVscd2	1.3	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 用 RAS 制御デバイスドライバ(SCF2 ドライバ)(32/64 ビット)
		FJSVscr2	1.3	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 用 RAS 制御デーモンおよび設定ファイル
		FJSVscu2	1.3	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 用 RAS 制御コマンド
		FJSVscuj2	1.3	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 用 RAS 制御日本語環境
		FJSVlscdx	1.2	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	RAS 制御デバイスドライバ(SCF, FaultLED)(64 ビット)
FJSVlscd	1.2	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	RAS 制御デバイスドライバ(SCF, FaultLED)		

項番	コンポーネント	パッケージ名	バージョン	PW-P	PW-CLZ	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S	機能	
		FJSVlscr	1.2	-	-	-	-	-	-	-	○	-	RAS 制御デーモンおよび設定ファイル	
		FJSVlscu	1.2	-	-	-	-	-	-	-	○	-	RAS 制御コマンド	
		FJSVlscuj	1.2	-	-	-	-	-	-	-	○	-	RAS 制御日本語環境	
		FJSVscd3	1.3	-	○	○	○	○	-	-	-	-	PRIMEPOWER650/850用 RAS 制御デバイスドライバ(SCF3 ドライバ)(64 ビット)	
		FJSVscr3	1.3	-	○	○	○	○	-	-	-	-	PRIMEPOWER650/850用 RAS 制御デーモンおよび設定ファイル	
		FJSVscu3	1.3	-	○	○	○	○	-	-	-	-	PRIMEPOWER650/850用 RAS 制御コマンド	
		FJSVscuj3	1.3	-	○	○	○	○	-	-	-	-	PRIMEPOWER650/850用 RAS 制御日本語環境	
		FJSVpscd	1.1	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	PRIMEPOWER250/450用 RAS 制御デバイスドライバ(SCF3 ドライバ)(64 ビット)
		FJSVpscr	1.1	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	PRIMEPOWER250/450用 RAS 制御デーモンおよび設定ファイル
		FJSVpscu	1.1	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	PRIMEPOWER250/450用 RAS 制御コマンド
		FJSVpscuj	1.1	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	PRIMEPOWER250/450用 RAS 制御日本語環境
4	SunVTS, FJVTS	SUNWvts	5.1	○	○	○	○	○	○	○	○	-	オンライン診断テスト	
		SUNWvtsmn	5.1	○	○	○	○	○	○	○	○	-		
		SUNWvtsx	5.1	○	○	○	○	○	○	○	○	-		
		FJSVvts	5.1	○	○	○	○	○	○	○	○	-		
5	Web-Based AdminView /WWW Server for Admin View	FJSVwvcnf	2.0.3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Web-Based Admin View を使用するための専用 WWW サーバ機能	
		FJSVwvbs	2.1.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Web アプリケーションのための通信基盤機能	
6	マシン管理	FJSVmasv	2.2.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ハードウェアに依存するシステムの運用 / 保守のサポート機能を提供します。	
		FJSVmand	2.2.3	-	-	-	-	-	-	○	○	○		
		FJSVmadm	1.2.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		FJSVmaom	1.9.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		FJSVkmnd	1.7.1	-	-	-	-	-	○	-	-	-		
		FJSVkmsv	2.5.1	-	-	-	-	-	○	-	-	-		
		FJSVcmnd	1.5.1	-	○	○	○	○	-	-	-	-		
FJSVpmnd	1.2.1	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
7	リモートサポート	FJSVmarm	1.9	-	-	-	-	-	-	○	○	○	富士通サポートセンターへの接続機能を提供します。	
		FJSVkmrm	1.0.5	-	-	-	-	-	○	-	-	-		
		FJSVrlib	8.2.1	○	-	-	○	○	-	○	○	○		
		FJSVragt	2.9	○	-	-	○	○	-	○	○	○		
		FJSVrmaos	2.9	○	-	-	○	○	-	○	○	○		
		FJSVrrda	2.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		FJSVracm	2.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		FJSVsirms	3.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		FJSVcmrm	1.5	-	-	-	○	○	-	-	-	-		
		FJSVcmrm2	1.2	-	○	○	-	-	-	-	-	-		
		FJSVpmrm	1.2	○	-	-	-	-	-	-	-	-		

項番	コンポーネント	パッケージ名	バージョン	PW-P	PW-CLZ	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S	機能	
8	自動電源制御	FJSVapcs	1.4.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	指定されたスケジュールに従って、本体装置の電源を自動的に投入、切断します。	
		FJSVapcwv	2.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	電源制御の運用管理ビュー機能を提供します。	
9	Server Default Configuration	FJSVdef	1.3.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	システムログの肥大化によるファイルシステム容量不足の発生を予防します。	
		FJSVssf	2.0.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	システムの保守性を向上させるためのトレース情報を採取します。	
		FJSVpnlx.us	2.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	パーティションダンプ機能を提供します。(64ビット パネルドライバ)
		FJSVpnl.us	2.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	パーティションダンプ機能を提供します。(32ビット パネルドライバ)
		FJSVwarn.us	1.3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	メモリエラーに対する監視機能を提供します。
10	システム情報採取ツール	FJSVsnap	2.5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	システムのハード・ソフト構成、環境設定、ログおよび動作状態に関するファイル、ならびにコマンド実行結果を採取してテープ装置などに障害調査に必要なシステム情報を採取します。	
11	ライセンスマネージャ	FSUNlic	6.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ソフトウェアのライセンスを管理します。	
12	ダンプ補助	FJSVdmp	1.5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	システムクラッシュ後のリポート時に、クラッシュダンプが退避されるのと同様に障害調査に必要なシステム情報を「システム情報採取ツール」を使用して採取します。	
13	ダンプ自動解析	FJSVana	2.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	コアダンプ関連ファイルの収集機能を提供します。(注:本バージョンでは、クラッシュダンプの自動解析機能は提供していません)	
14	高信頼化対応ドライバ	FJSVse	3.0.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	シリアルポートドライバ	
		FJSVsec	2.0.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	シリアルポートドライバ	

項番	コンポーネント	パッケージ名	バージョン	PW-P	PW-CLZ	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S	機能
15	CPU パトロール診断	FJSVcpupd	1.3	—	— 注 3)	○	— 注 3)	○	○	○	—	—	富士通 SPARC64 GP プロセッサのためのパトロール診断機能
16	G-LAN 障害通知	FJSVgidad.us	2.1.1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	GigabitEthernet インタフェースの障害通知機能
17	HCP 情報管理	FJSVhcp	1.0	○	—	—	—	—	—	—	—	—	XSCF ユーザーズガイド、ファームウェア、ユーティリティ
18	システムパラメータ診断	FJSVparam	1.1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	Solaris システムのシステムパラメータを診断します。
19	HRM-S システム稼働支援機能	FJSVhrm	2.0.3	○	○	○	○	○	—	○	—	—	システムの安定稼働を目的とし、保守作業の迅速かつ確実な実施を支援する機能。
20	テープドライバ定義設定ツール	FJSVdcnf	1.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	対象テープ装置のドライバ定義を自動的に設定します。

注 1) PRIMEPOWER HPC2500 では、NGDR コマンドはインストールされません。

注 2) NGDR コマンド FJSVdr はインストールされますが、サポート対象外です。

注 3) CPU パトロール診断 FJSVcpupd は PW-CLZ, PW-CMZ の全モデルにインストールされますが、サポート対象外です。

1.5 Solaris™ 10 Operating System の場合

PW-P : PRIMEPOWER250/450

PW-CLZ : PRIMEPOWER900/1500(SPARC64™V 搭載モデル)/2500

PW-CL : PRIMEPOWER1500(SPARC64™GP 搭載モデル)

PW-CMZ : PRIMEPOWER650(SPARC64™V 搭載モデル)/850(SPARC64™V 搭載モデル)

PW-CM : PRIMEPOWER650(SPARC64™GP 搭載モデル)/850(SPARC64™GP 搭載モデル)

PW-K : PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000

PW-T : PRIMEPOWER200/400/600, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R

PW-U : PRIMEPOWER1/100

GP-S : 富士通 S series, GP-S ファミリー

○ : サポート, - : 未サポート

項番	コンポーネント	パッケージ名	バージョン	PW-P	PW-CLZ	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S	機能	
1	Enhanced Support Facility 情報管理	FJSVbse	2.5.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Enhanced Support Facility のインストール情報データ管理	
2	NGDR コマンド	FJSVdr	1.3	-	○注 1)	-注 2)	-	-	○	-	-	-	Dynamic Reconfiguration	
3	SCF ドライバ	FJSVscdx.us	1.9.2	-	-	-	-	-	-	○	-	-	RAS 制御デバイスドライバ(SCF, FaultLED)(64 ビット)	
		FJSVscd.us	1.9.2	-	-	-	-	-	-	○	-	-	RAS 制御デバイスドライバ(SCF, FaultLED)	
		FJSVscr.us	1.9.2	-	-	-	-	-	-	○	-	-	RAS 制御デーモンおよび設定ファイル	
		FJSVscu.us	1.9.2	-	-	-	-	-	-	○	-	-	RAS 制御コマンド	
		FJSVscuja	1.9.2	-	-	-	-	-	-	○	-	-	RAS 制御日本語環境	
		FJSViomp	2.3	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	PRIMEPOWER250/450/650/800/850/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 用 IOMP レベル 2 フレームワーク
		FJSVscd2	1.3	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 用 RAS 制御デバイスドライバ(SCF2 ドライバ)(32/64 ビット)
		FJSVscr2	1.3	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 用 RAS 制御デーモンおよび設定ファイル
		FJSVscu2	1.3	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 用 RAS 制御コマンド
		FJSVscuj2	1.3	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 用 RAS 制御日本語環境
		FJSVlscdx	1.2	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	RAS 制御デバイスドライバ(SCF, FaultLED)(64 ビット)
		FJSVlscd	1.2	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	RAS 制御デバイスドライバ(SCF, FaultLED)
FJSVlscr	1.2	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	RAS 制御デーモンおよび設定ファイル		

項番	コンポーネント	パッケージ名	バージョン	PW-P	PW-CLZ	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S	機能	
		FJSVlscu	1.2	—	—	—	—	—	—	—	○	—	RAS 制御コマンド	
		FJSVlscuj	1.2	—	—	—	—	—	—	—	○	—	RAS 制御日本語環境	
		FJSVscd3	1.3	—	○	○	○	○	—	—	—	—	PRIMEPOWER650/850 用 RAS 制御デバイスドライバ(SCF3 ドライバ)(64 ビット)	
		FJSVscr3	1.3	—	○	○	○	○	—	—	—	—	PRIMEPOWER650/850 用 RAS 制御デーモンおよび設定ファイル	
		FJSVscu3	1.3	—	○	○	○	○	—	—	—	—	PRIMEPOWER650/850 用 RAS 制御コマンド	
		FJSVscuj3	1.3	—	○	○	○	○	—	—	—	—	PRIMEPOWER650/850 用 RAS 制御日本語環境	
		FJSVpscd	1.1	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PRIMEPOWER250/450 用 RAS 制御デバイスドライバ(SCF3 ドライバ)(64 ビット)
		FJSVpscr	1.1	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PRIMEPOWER250/450 用 RAS 制御デーモンおよび設定ファイル
		FJSVpscuj	1.1	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	PRIMEPOWER250/450 用 RAS 制御日本語環境
		4	SunVTS, FJVTS	SUNWvts	5.1	○	○	○	○	○	○	○	○	—
SUNWvtsmn	5.1			○	○	○	○	○	○	○	○	—		
SUNWvtsx	5.1			○	○	○	○	○	○	○	○	—		
FJSVvts	5.1			○	○	○	○	○	○	○	○	—		
5	Web-Based AdminView /WWW Server for Admin View	FJSVwvcnf	2.0.3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Web-Based Admin View を使用するための専用 WWW サーバ機能	
		FJSVwvbs	2.1.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Web アプリケーションのための通信基盤機能	
6	マシン管理	FJSVmasv	2.2.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ハードウェアに依存するシステムの運用 / 保守のサポート機能を提供します。	
		FJSVmand	2.2.3	—	—	—	—	—	—	○	○	○		
		FJSVmadm	1.2.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		FJSVmaom	1.9.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		FJSVkmnd	1.7.1	—	—	—	—	—	—	○	—	—		
		FJSVkmsv	2.5.1	—	—	—	—	—	—	○	—	—		
		FJSVcmnd	1.5.1	—	○	○	○	○	—	—	—	—		
		FJSVpmnd	1.2.1	○	—	—	—	—	—	—	—	—		
7	リモートサポート	FJSVmarm	1.9	—	—	—	—	—	—	○	○	○	富士通サポートセンターへの接続機能を提供します。	
		FJSVkmrm	1.0.5	—	—	—	—	—	○	—	—	—		
		FJSVrlib	8.2.1	○	—	—	○	○	—	○	○	○		
		FJSVragt	2.9	○	—	—	○	○	—	○	○	○		
		FJSVrmaos	2.9	○	—	—	○	○	—	○	○	○		
		FJSVrrda	2.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		FJSVracm	2.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		FJSVsirms	3.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		FJSVcmrm	1.5	—	—	—	○	○	—	—	—	—		
		FJSVcmrm2	1.2	—	○	○	—	—	—	—	—	—		
		FJSVpmrm	1.2	○	—	—	—	—	—	—	—	—		

項番	コンポーネント	パッケージ名	バージョン	PW-P	PW-CLZ	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S	機能
8	自動電源制御	FJSVapcs	1.4.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	指定されたスケジュールに従って、本体装置の電源を自動的に投入、切断します。
		FJSVapcww	2.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	電源制御の運用管理ビュー機能を提供します。
9	Server Default Configuration	FJSVdef	1.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	一般ユーザでのシステムの保存停止機能の実行を禁止します。
		FJSVssf	3.0.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	システムの保守性を向上させるためのトレース情報を採取します。
		FJSVpnl.us	3.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	パーティションダンプ機能を提供します。(32ビット パネルドライバ)
		FJSVwarn.us	2.0.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	メモリエラーに対する監視機能を提供します。
10	システム情報採取ツール	FJSVsnap	2.5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	システムのハード・ソフト構成、環境設定、ログおよび動作状態に関するファイル、ならびにコマンド実行結果を採取してテープ装置などに障害調査に必要なシステム情報を採取します。
11	ライセンスマネージャ	FSUNlic	6.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ソフトウェアのライセンスを管理します。
12	ダンプ補助	FJSVdmp	1.5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	システムクラッシュ後のリポート時に、クラッシュダンプが退避されるのと同様に障害調査に必要なシステム情報を「システム情報採取ツール」を使用して採取します。
13	ダンプ自動解析	FJSVana	2.1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	コアダンプ関連ファイルの収集機能を提供します。(注:本バージョンでは、クラッシュダンプの自動解析機能は提供していません)
14	高信頼化対応ドライバ	FJSVse	4.0	—	—	—	—	—	○	—	—	—	シリアルポートドライバ
		FJSVsec	3.0	—	○	○	—	—	—	—	—	—	
15	CPU パトロール診断	FJSVcpupd	1.3	—	—	○	—	○	○	○	—	—	富士通 SPARC64 GP プロセッサのためのパトロール診断機能

項番	コンポーネント	パッケージ名	バージョン	PW-P	PW-CLZ	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S	機能
16	G-LAN 障害通知	FJSVgidad.us	2.2.1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	GigabitEthernet インタフェースの障害通知機能
17	HCP 情報管理	FJSVhcp	1.0	○	—	—	—	—	—	—	—	—	XSCF ユーザーズガイド、ファームウェア、ユーティリティ
18	システムパラメータ診断	FJSVparam	1.1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	Solaris システムのシステムパラメータを診断します。
19	HRM-S システム稼働支援機能	FJSVhrm	2.0.3	○	○	○	○	○	—	○	—	—	システムの安定稼働を目的とし、保守作業の迅速かつ確実な実施を支援する機能。
20	テープドライバ定義設定ツール	FJSVdcnf	1.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	対象テープ装置のドライバ定義を自動的に設定します。

注 1) NGDR コマンド FJSVdr はインストールされますが、サポート対象外です。

注 2) CPU パトロール診断 FJSVcpupd は PW-CLZ, PW-CMZ の全モデルにインストールされますが、サポート対象外です。

2. 適用マニュアル

2.1 オンラインマニュアル

以下のマニュアルは、オンラインマニュアルとして添付しています。本製品 CDROM に格納されています。

項番	マニュアル名称		形式
	日本語環境で使用する場合	日本語環境以外で使用する場合	
1	Enhanced Support Facility ユーザーズガイド	Enhanced Support Facility User's Guide	HTML , pdf
2	マシン管理説明書	Machine Administration Guide	HTML , pdf
3	REMCS エージェントオペレーターズガイド	REMCS Agent Operator's Guide	HTML , pdf
4	FJVTS テストリファレンスマニュアル	FJVTS Test Reference Manual	HTML , pdf
5	SunVTS 2.1 リファレンスカード	SunVTS 2.1 Quick Reference Card	PostScript™
6	Enhanced Support Facility アップデート情報	Enhanced Support Facility Update Information	HTML , pdf
7	Dynamic Reconfiguration ユーザーズガイド	Dynamic Reconfiguration User's Guide	HTML , pdf
8	CPU パトロール診断ユーザーズガイド	CPU Patrol Diagnosis User's Guide	HTML , pdf
9	Web-Based Admin View 操作手引書	Web-Based Admin View Operation Guide	HTML , pdf
10	Dynamic Reconfiguration ユーザーズガイド I/O デバイス編	Dynamic Reconfiguration User's Guide I/O device edition	HTML , pdf
11	PCI Hot Plug ユーザーズガイド	PCI Hot Plug User's Guide	HTML , pdf
12	PCI Hot Plug ユーザーズガイド I/O デバイス編	PCI Hot Plug User's Guide I/O device edition	HTML , pdf
13	XSCF ユーザーズガイド	XSCF User's Guide	pdf
14	NTP 運用ガイド	NTP Operator's Guide	pdf
15	システムパラメータ診断ユーザーズガイド	System Parameter Diagnosis User's Guide	HTML , pdf
16	HRM/Server 取扱説明書	無し	pdf
17	テープドライバ定義設定ツールユーザーズガイド	Tape driver configuration tool User's Guide	pdf
18	Enhanced Support Facility セキュリティシステム構築ガイド	Security System Building Guide Enhanced Support Facility	pdf

2.1.1 参照方法(HTML 形式)

HTML 形式のオンラインマニュアルは、Web ブラウザを使ってパソコンおよびサーバで参照することができます。HTML3.2 をサポートする Web ブラウザ(Microsoft® Internet Explorer 3.0 以降、Netscape Navigator® 3.0 以降、Netscape® Communicator 4.0 以降、Netscape® 6.0 および Netscape® 7.0 以降、など)をお使いください。HotJava ではフレームの表示に不具合が発生する場合があります。

2.1.1.1 パソコンで参照する場合

- 1) CD-ROM 媒体を CD-ROM ドライブに挿入します。
- 2) 以下のファイルを Web ブラウザで開いてください。

日本語環境で使用する場合

```
CD-ROMのドライブ名: ¥MANUAL¥JAPANESE¥INDEX.HTM
```

日本語環境以外で使用する場合

```
CD-ROMのドライブ名: ¥MANUAL¥ENGLISH¥INDEX.HTM
```

2.1.1.2 サーバ(Solaris™ オペレーティング環境)で参照する場合

- 1) CD-ROM 媒体をサーバの CD-ROM ドライブに挿入します。
- 2) CD-ROM がマウントされていない場合はマウントします。

```
# /etc/init.d/volmgt start <Return>
```

3) 以下のファイルを Web ブラウザで開いてください。

日本語環境で使用する場合

```
/マウントポイント/manual/japanese/index.htm
```

日本語環境以外で使用する場合

```
/マウントポイント/manual/english/index.htm
```

2.1.2 参照方法(PostScript™形式)

以下のファイルをイメージ・ビューワなどで参照するか、PostScript™対応プリンタで印刷してご使用ください。

日本語環境で使用する場合

```
/マウントポイント/manual/japanese/sunvts/qref21j.ps
```

日本語環境以外で使用する場合

```
/マウントポイント/manual/english/sunvts/qref21e.ps
```

```
/マウントポイント/manual/english/sunvts/qref21ec.ps
```

```
/マウントポイント/manual/english/sunvts/qref21el.ps
```

2.2 印刷マニュアル(製品添付)

ありません。

3. 動作環境

本ソフトウェアを使用する場合には、以下のソフトウェア環境およびハードウェア環境を満たしている必要があります。

3.1 ソフトウェア環境

1) 前提基本ソフトウェア

本ソフトウェアを使用する場合、以下の基本ソフトウェアが必要です。

項番	基本ソフトウェア名	備考
1	<p>Solaris 2.6 PRIMEPOWER, GP7000F の場合は、以下のパッケージが必須です。(注 1)</p> <p>SUNWbtool, SUNWtltk, SUNWxwice, SUNWdtcor, SUNWesu, SUNWxfnt, SUNWxilrl, SUNWtoo, SUNWxildh, SUNWxwrtl, SUNWscpu, SUNWlibC, SUNWxcu4, SUNWdoc, SUNWipc, SUNWmfrun, SUNWxilow, SUNWxwplt, SUNWxwcft, SUNWxwopt, SUNWjvrt, SUNWaudio, SUNWolrte, SUNWdtbas, SUNWjvjit, SUNWdtde, SUNWtdmn, SUNWoldst, SUNWadmc, SUNWcar, SUNWkvm, SUNWxi18n, SUNWjxcft, SUNWjxplt</p>	<p>PRIMEPOWER, GP7000F の場合 (日本語)Solaris 2.6 Hardware: 5/98 のみ</p> <p>注1) Solaris インストール時に、"Developer System Support (開発者システムサポート)"を含むソフトウェアグループを選択した場合、必須パッケージはすべてインストールされています。</p>
2	<p>Solaris 7 PRIMEPOWER, GP7000F の場合は、以下のパッケージが必須です。(注 1)</p> <p>SUNWbtool, SUNWcslx, SUNWtltk, SUNWxwice, SUNWctpls, SUNWdtcor, SUNWesu, SUNWxfnt, SUNWxilrl, SUNWtoo, SUNWxildh, SUNWxwrtl, SUNWscpu, SUNWlibC, SUNWxcu4, SUNWdoc, SUNWipc, SUNWmfrun, SUNWxilow, SUNWxwplt, SUNWxwcft, SUNWxwopt, SUNWjvrt, SUNWaudio, SUNWolrte, SUNWdtbas, SUNWjvjit, SUNWdtde, SUNWtdmn, SUNWoldst, SUNWcar, SUNWkvm, SUNWxi18n, SUNWjxcft, SUNWjxplt</p>	<p>PRIMEPOWER, GP7000F の場合 (日本語)Solaris 7 5/99 以降</p> <p>注1) Solaris インストール時に、"Developer System Support (開発者システムサポート)"を含むソフトウェアグループを選択した場合、必須パッケージはすべてインストールされています。</p>

項番	基本ソフトウェア名	備考
3	<p>Solaris 8 PRIMEPOWER, GP7000F の場合は、以下のパッケージが必須です。(注 1)</p> <p>SUNWbtool, SUNWcslx, SUNWdlk, SUNWxwice, SUNWdcor, SUNWctpls, SUNWesu, SUNWxfnt, SUNWxirl, SUNWtoo, SUNWxildh, SUNWxwrtl, SUNWscpu, SUNWlibC, SUNWocfr, SUNWlpmg, SUNWpcr, SUNWpcu, SUNWppm, SUNWpsf, SUNWpsr, SUNWpsu, SUNWmp, SUNWxcu4, SUNWdoc, SUNWipc, SUNWipcx, SUNWlibCx, SUNWmfrun, SUNWxilow, SUNWj2rt, SUNWocf, SUNWxwplt, SUNWxwcf, SUNWxwopt, SUNWjvrt, SUNWaudio, SUNWolrte, SUNWdtbas, SUNWjvjit, SUNWdtde, SUNWdtmn, SUNWoldst, SUNWcar, SUNWkvm, SUNWdrr, SUNWdrrx, SUNWxi18n, SUNWjexpl</p>	<p>PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 の場合 Solaris 8 6/00 PRIMEPOWER800/1000/2000 対応版、 または Solaris 8 7/01 以降</p> <p>PRIMEPOWER650(SPARC64™ GP 搭載モデル)/ 850(SPARC64™ GP 搭載モデル) の場合 Solaris 8 7/01 PRIMEPOWER650/850 対応版 Solaris 8 2/02 PRIMEPOWER650/850 対応版 Solaris 8 2/02 PRIMEPOWER1500 用 Solaris 8 2/02 Rev.4</p> <p>PRIMEPOWER650(SPARC64™ V 搭載モデル)/ 850(SPARC64™ V 搭載モデル) の場合 Solaris 8 2/02 PRIMEPOWER1500 用 Solaris 8 2/02 Rev.4</p> <p>PRIMEPOWER250/450/900/1500/2500/HPC2500 の 場合 Solaris 8 2/02 PRIMEPOWER1500 用 Solaris 8 2/02 Rev.4</p> <p>注1) Solaris 8 インストール時に、“Developer System Support” (開発者システムサポ ート) "を含むソフトウェアグループを選択し た場合、必須パッケージはすべてインスト ールされています。</p>
4	<p>Solaris 9 PRIMEPOWER, GP7000F の場合は、以下のパッケージが必須です。(注 1)</p> <p>SUNWbtool, SUNWcslx, SUNWdlk, SUNWxwice, SUNWdcor, SUNWctpls, SUNWesu, SUNWxfnt, SUNWxirl, SUNWtoo, SUNWxildh, SUNWxwrtl, SUNWscpr, SUNWscpu, SUNWlibC, SUNWxcu4, SUNWdoc, SUNWipc, SUNWlibCx, SUNWmfrun, SUNWxilow, SUNWcpp, SUNWzlib, SUNWxwplt, SUNWxwcf, SUNWxwopt, SUNWolrte, SUNWdtbas, SUNWj3rt, SUNWj3irt, SUNWdrr.us, SUNWdrrx.us, SUNWcar, SUNWkvm, SUNWxi18n, SUNWlccom, SUNWeurf, SUNWxwacx, SUNWi2rf, SUNWi4rf, SUNWi5rf, SUNWi7rf, SUNWi8rf, SUNWi9rf, SUNWi15rf, SUNWarrf, SUNWkxmft, SUNWcxmft, SUNW5xmft, SUNWtxfnt, SUNWeuodf, SUNWjxmft, SUNWjxcft, SUNWjxplt, SUNWlxml, SUNWlxmlx, SUNWzlibx, SUNWgss, SUNWfns, SUNWgssc, SUNWgssx, SUNWfnsx, SUNWxwplx, SUNWxwicx, SUNWcpc, SUNWcpcu, FJSVcpc</p>	<p>PRIMEPOWER1/100/200/400/600/800/1000/2000, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/ 600/600R/1000/2000 の場合 Solaris 9 以降</p> <p>PRIMEPOWER650(SPARC64™ GP 搭載モデル)/ 850(SPARC64™ GP 搭載モデル) の場合 Solaris 9 12/02 以降</p> <p>PRIMEPOWER250/450/650(SPARC64™ V 搭載モ デル)/850(SPARC64™ V 搭載モデル)/900/1500 の 場合 Solaris 9 4/03 以降</p> <p>PRIMEPOWER2500 の場合 Solaris 9 12/03 以降</p> <p>注1) Solaris 9 インストール時に、“Developer Solaris Software(開発者システムサポート)”を 含むソフトウェアグループを選択した場 合、必須パッケージはすべてインストール されています。</p>

項番	基本ソフトウェア名	備考
5	Solaris 10 PRIMEPOWER の場合は、以下のパッケージが必須です。 SUNWbtool, SUNWtlk, SUNWxwice, SUNWdcor, SUNWctpls, SUNWesu, SUNWxfnt, SUNWxilrl, SUNWtoo, SUNWxildh, SUNWxwrtl, SUNWscpr, SUNWscpu, SUNWlibC, SUNWxcu4, SUNWdoc, SUNWipc, SUNWmfrun, SUNWxilow, SUNWcpp, SUNWzlib, SUNWxwplt, SUNWxwctf, SUNWxwopt, SUNWolrte, SUNWdtbas, SUNWj3rt, SUNWj3irt, SUNWdrr.us, SUNWcar, SUNWkvm, SUNWxi18n, SUNWlccom, SUNWeurf, SUNWxwacx, SUNWi2rf, SUNWi4rf, SUNWi5rf, SUNWi7rf, SUNWi8rf, SUNWi9rf, SUNWi15rf, SUNWarrf, SUNWkxmft, SUNWcxmft, SUNW5xmft, SUNWtxfnt, SUNWeuodf, SUNWjxmft, SUNWjxcft, SUNWjxplt, SUNWlxml, SUNWgss, SUNWfns, SUNWgssc, SUNWcpc, SUNWcpcu, SUNWxwpl, FJSVcpc	

2) 必須ソフトウェア

Web-Based Admin View を使用する場合、以下のソフトウェアが必要です。

項番	製品名	パッケージ名	バージョン	備考
1	Java2 Runtime Environment, Standard Edition	J2re-1_3_1_15-windows-i586-i.exe	1.3.1	Microsoft(R) Windows 上で Web-Based Admin View を使用するために必要。(Enhanced Support Facility 2.5.1 の CD に収録)
		J2re-1_4_2_07-windows-i586-p.exe	1.4.2	
2	Java Plug-in		10.1.2.2,REV=1999.12.06.10.02 以上	Solaris OS 上で Web-Based Admin View を使用するために必要。
			20.1.2.2,REV=1999.19.14.18.04 以上	
3	Java2 Runtime Environment, Standard Edition	J2re-1_3_1_15-solaris-sparc.sh	1.3.1	Solaris OS 上で Web-Based Admin View を使用するために必要。(Enhanced Support Facility 2.5.1 の CD に収録)
		J2re-1_4_2_07-solaris-sparc.sh	1.4.2	

3) 排他ソフトウェア

本ソフトウェアを使用する場合、以下のソフトウェアをインストールしないでください。

項番	製品名	パッケージ名	バージョン	備考
1	System Console Software	すべてのパッケージ	1.0以降	

4) 必須パッチ

ありません。

3.2 ハードウェア環境

本ソフトウェアを使用する場合、以下のハードウェアが必要です。

1) メモリ

64M バイト以上のメモリが必要です。

PRIMEPOWER800/900/1000/2000/1500/2500/HPC2500, GP7000F モデル 1000/2000 の場合は、512M バイト以上のメモリが必要です。

2) 必須ハードウェア

ありません。

3.3 静的ディスク資源

本ソフトウェアに必要なディスク所要量は以下に示すとおりです。

3.3.1 必要とするディスク容量

本ソフトウェアを新規にインストールするためには、各ファイルシステムに以下のディスク容量が必要です。十分な空き容量がない場合は、該当するファイルシステムのサイズを拡張してください。

3.3.1.1 PRIMEPOWER900/1500 (SPARC64™ V 搭載モデル) /2500/HPC2500 の場合

項番	ディレクトリ	ディスク所要量 (単位: M バイト)		
		Solaris 8 の場合	Solaris 9 の場合	Solaris 10 の場合
1	root	3.0	3.0	3.0
2	/usr	1.5	1.5	1.5
3	/var	7.0	10.0	15.5
4	/export/home	0	0	0
5	/opt (注)	180.0	235.0	235.0

(注) 本ソフトウェアは、"/opt"以外にはインストールできません。

3.3.1.2 PRIMEPOWER1500 (SPARC64™ GP 搭載モデル) の場合

項番	ディレクトリ	ディスク所要量 (単位: M バイト)		
		Solaris 8 の場合	Solaris 9 の場合	Solaris 10 の場合
1	root	3.0	3.0	3.0
2	/usr	1.5	1.5	1.5
3	/var	7.0	10.0	15.5
4	/export/home	0	0	0
5	/opt (注)	180.0	235.0	235.0

(注) 本ソフトウェアは、"/opt"以外にはインストールできません。

3.3.1.3 PRIMEPOWER250/450 の場合

項番	ディレクトリ	ディスク所要量 (単位: M バイト)		
		Solaris 8 の場合	Solaris 9 の場合	Solaris 10 の場合
1	root	2.5	2.5	4.0
2	/usr	1.5	1.5	1.5
3	/var	6.0	8.5	13.5
4	/export/home	0	0	0
5	/opt (注)	196.0	247.5	247.5

(注) 本ソフトウェアは、"/opt"以外にはインストールできません。

3.3.1.4 PRIMEPOWER650 (SPARC64™ V 搭載モデル) /850 (SPARC64™ V 搭載モデル) の場合

項番	ディレクトリ	ディスク所要量 (単位: M バイト)		
		Solaris 8 の場合	Solaris 9 の場合	Solaris 10 の場合
1	root	2.5	2.5	2.5
2	/usr	1.5	1.5	1.5
3	/var	7.0	9.5	16.0
4	/export/home	0	0	0
5	/opt (注)	220.0	270.0	270.0

(注) 本ソフトウェアは、"/opt"以外にはインストールできません。

3.3.1.5 PRIMEPOWER650 (SPARC64™ GP 搭載モデル)/850 (SPARC64™ GP 搭載モデル) の場合

項番	ディレクトリ	ディスク所要量 (単位: M バイト)		
		Solaris 8 の場合	Solaris 9 の場合	Solaris 10 の場合
1	root	2.5	2.5	2.5
2	/usr	1.5	1.5	1.5
3	/var	7.0	9.5	16.0
4	/export/home	0	0	0
5	/opt (注)	220.0	270.0	270.0

(注) 本ソフトウェアは、"/opt"以外にはインストールできません。

3.3.1.6 PRIMEPOWER800/1000/2000 の場合

項番	ディレクトリ	ディスク所要量 (単位: M バイト)				
		Solaris 2.6 の場合	Solaris 7 の場合	Solaris 8 の場合	Solaris 9 の場合	Solaris 10 の場合
1	root	2.0	2.5	3.0	3.0	2.5
2	/usr	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
3	/var	2.0	5.0	5.0	7.0	11.0
4	/export/home	0	0	0	0	0
5	/opt (注)	94.5	133.0	133.0	184.5	184.5

(注) 本ソフトウェアは、"/opt"以外にはインストールできません。

3.3.1.7 GP7000F モデル 1000/2000 の場合

項番	ディレクトリ	ディスク所要量 (単位: M バイト)			
		Solaris 7 の場合	Solaris 8 の場合	Solaris 9 の場合	Solaris 10 の場合
1	root	2.5	3.0	3.0	2.5
2	/usr	1.5	1.5	1.5	1.5
3	/var	5.0	5.0	7.0	11.0
4	/export/home	0	0	0	0
5	/opt (注)	132.0	133.0	184.5	184.5

(注) 本ソフトウェアは、"/opt"以外にはインストールできません。

3.3.1.8 PRIMEPOWER200/400/600, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R の場合

項番	ディレクトリ	ディスク所要量 (単位: M バイト)				
		Solaris 2.6 の場合	Solaris 7 の場合	Solaris 8 の場合	Solaris 9 の場合	Solaris 10 の場合
1	Root	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5
2	/usr	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
3	/var	4.5	4.5	5.0	7.5	11.0
4	/export/home	0	0	0	0	0
5	/opt (注)	122.0	149.0	190.5	242.0	242.0

(注) 本ソフトウェアは、"/opt"以外にはインストールできません。

3.3.1.9 PRIMEPOWER1/100 の場合

項番	ディレクトリ	ディスク所要量 (単位: M バイト)		
		Solaris 8 の場合	Solaris 9 の場合	Solaris 10 の場合
1	Root	2.0	2.0	2.0
2	/usr	1.5	1.5	1.5
3	/var	5.0	7.5	11.0
4	/export/home	0	0	0
5	/opt (注)	147.0	200.0	200.0

(注) 本ソフトウェアは、"/opt"以外にはインストールできません。

3.3.1.10 富士通 S series, GP-S ファミリーの場合

項番	ディレクトリ	ディスク所要量 (単位: M バイト)				
		Solaris 2.6 の場合	Solaris 7 の場合	Solaris 8 の場合	Solaris 9 の場合	Solaris 10 の場合
1	root	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
2	/usr	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
3	/var	4.5	4.5	4.5	4.5	5.5
4	/export/home	0	0	0	0	0
5	/opt (注)	83.5	83.5	84.0	81.5	81.5

(注) 本ソフトウェアは、"/opt"以外にはインストールできません。

3.3.2 必要とする作業域

本ソフトウェアのインストール時に以下に示す作業用のディスク容量がさらに必要になります。

項番	スプールディレクトリを経由する インストール	ディレクトリ	ディスク所要量 (単位: M バイト)	備考
1	行わない	/tmp	0.5	

3.4 動的ディスク資源

本ソフトウェアに必要な動的ディスク所要量は以下に示すとおりです。

3.4.1 必要とするディスク容量

本ソフトウェアの以下の機能を動作させるとき、各ディレクトリにはインストールに必要な“3.3 静的ディスク資源”に加えて以下のディスク容量が必要です。空き容量が足りない場合は、該当するファイルシステムのサイズを拡張してください。

PW-P : PRIMEPOWER250/450

PW-CLZ : PRIMEPOWER900/1500(SPARC64™ V 搭載モデル)/2500/HPC2500

PW-CL : PRIMEPOWER1500(SPARC64™ GP 搭載モデル)

PW-CMZ : PRIMEPOWER650(SPARC64™ V 搭載モデル)/850(SPARC64™ V 搭載モデル)

PW-CM : PRIMEPOWER650(SPARC64™ GP 搭載モデル)/850(SPARC64™ GP 搭載モデル)

PW-K : PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000

PW-T : PRIMEPOWER200/400/600, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R

PW-U : PRIMEPOWER1/100

GP-S : 富士通 S series, GP-S ファミリー

項番	コンポーネント	ディレクトリ	ディスク所要量 (単位:M バイト)		運用内容
1	DR コマンド/ NGDR コマンド	/var/opt/FJSVdr/	1.0		
		/opt	0.01		
		/etc/opt	0.003		
2	FJVTS	/var	0.1		メッセージログ
3	マシン管理	/opt	PW-T, GP-S	0.2	
		/var	PW-T, GP-S	2.0	
			PW-K	14.0	
			PW-P	203.8	
			PW-CM, PW-CMZ	237.1	
	PW-CL, PW-CLZ	83.6			
4	ライセンスマネージャ	/var	1.0		
5	Server Default Configuration	/var	1.0		通常運用。 (PRIMEPOWER, GP7000F のみ。 Solaris 7 以降)
6	CPU パトロール 診断	/var	0.1		メッセージログ
7	システムパラメータ 診断	/var	2.0		ログ、バックアップ
8	HRM-S	/var/opt	100.0		動作ログファイル 一時ファイル

3.5 メモリ容量

本ソフトウェアの以下の機能を動作させるときに使用するメモリ容量を示します。

項番	コンポーネント	メモリ所要量 (単位:M バイト)	運用内容
1	FJVTS	16.1	以下の条件で、TP オプションをデフォルト値で実行する。 ● 2CPU, 1ディスク(4GB), 128MB メモリ
		46.0	以下の条件で、TP オプションをデフォルト値で実行する。 ● 1CPU, 2ディスク(4GB×2), 128MB メモリ
2	CPU パフォーマンス カウンタ	1.0	CPC 機能を使用する。
3	CPU パトロール診断	2.5	通常運用。
4	HRM-S	32.0	装置構成情報を収集する。

3.6 スワップ容量

本ソフトウェアを標準的な運用で動作させるときに必要なスワップ容量を以下に示します。また、必要とするスワップ容量は、システムの運用形態により変化します。スワップ容量を求める場合には、以下に示します運用内容別のスワップ容量を加えた値になります。システム提供のスワップ領域を超える場合は、スワップ領域を拡張してください。

項番	コンポーネント	スワップ容量 (単位:M バイト)	運用内容
1	DR コマンド/ NGDR コマンド	0.1	Dynamic Reconfiguration を実行する。
2	SCF ドライバ	0.1	通常運用。(デーモン・コマンド動作)
3	FJVTS	35.4	以下の条件で、TP オプションをデフォルト値で実行する。 ● 2CPU, 1ディスク(4GB), 128MB メモリ
		54.0	以下の条件で、TP オプションをデフォルト値で実行する。 ● 1CPU, 2ディスク(4GB×2), 128MB メモリ
4	Web-Based Admin View / WWW Server for Admin View	0.4	デーモンを起動し、クライアントからアクセスを行う。
		19.2	サーバ VM & ノード VM を起動する。
		20.6	サーバ VM & ノード VM を起動後、クライアントから動作環境設定画面を起動する。
		20.4	サーバ VM & ノード VM を起動後、クライアントからログ表示画面を起動する。
5	マシン管理	46.7	通常運用。(デーモン、GUI メニューを動作)
6	リモートサポート	4.2	通常運用。(デーモン動作)
7	Server Default Configuration	0.5	通常運用。(Solaris 7 以降)
		0.7	メモリエラーに対する監視機能使用時。
8	ライセンスマネージャ	0.7	通常運用。(ライセンス・デーモン起動)
9	CPU パトロール診断	32.6	通常運用。(デーモン、診断プログラムを動作)
10	HRM-S	40.0	装置構成情報を収集する。

4. 制限、注意事項

4.1 制限事項

ありません。

4.2 移行上の注意

以前のバージョンから本ソフトウェアに移行する場合の注意事項について説明します。

4.2.1 ユーザデータの互換

非互換はありません。

4.2.2 環境定義ファイルの互換

非互換はありません。

4.3 注意事項

本ソフトウェアでは、以下に示す注意事項があります。

項番	コンポーネント	内容
1	Enhanced Support Facility 情報管理	バージョン 1.3 から Basic Software Extension の名称を Enhanced Support Facility に変更しました。
		PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000F モデル 1000/2000 のシステムコンソールには、本製品をインストールできません。
		バージョン 1.7 からオンライントレースを削除しました。
2	SunVTS,FJVTS	本製品をインストールすると、"/opt/SUNWvts/README"がディスクに格納されます。このファイルには、"SUNWodu"パッケージに関する説明がありますが、PRIMEPOWER, GP7000F では不要であるため、"SUNWodu"パッケージは提供していません。 SunVTS のパッチ (SUNWvts, SUNWvtsx) は PTF で提供しています。必ず最新の PTF から適用して下さい。個別適用が必要なパッチ(一括適用されない)もありますので、PTF の説明書を参照の上、適用して下さい。
3	Web-Based Admin View / WWW Server for Admin View	<ul style="list-style-type: none">● 本製品をインストールすると"vroot"ユーザグループが登録されます。rootユーザ以外のユーザ名で動作環境設定機能、およびログ表示機能を利用する場合には、この"vroot"グループにユーザ名を登録してください。● TCPプロトコルのためのポート番号として、8081,9397,9398,9399を使用し、UDPプロトコルのためのポート番号として、9396を使用するので、他のアプリケーションと競合していないことを確認してください。これらの値は、本製品をインストールすると/etc/inet/servicesファイルに追加されます。 なお、変更する場合は、"Web-Based Admin View操作手引書"を参照してください。
		Web-Based Admin View を使用中に以下のディレクトリ配下に core ファイルが作成される場合がありますが、Web-Based Admin View の運用に問題はありませぬ。 <ul style="list-style-type: none">● /var/opt/FJSVwvbs/logs/server● /var/opt/FJSVwvbs/logs/node

項番	コンポーネント	内容
		<ul style="list-style-type: none"> ● Web-Based Admin View/WWW Server for Admin ViewでサポートしているWebブラウザは以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ PCクライアント <ul style="list-style-type: none"> Netscape Communicator 4.5~4.7X, Netscape 7.X Microsoft Internet Explorer 5.X 以降 ・ Solaris(TM) Workstation <ul style="list-style-type: none"> Netscape Communicator 4.5~4.7X, Netscape 7.X ● 以下のSolaris にバンドルされているJava™動作環境 Web-Based Admin View は以下の Java™動作環境でのみ動作が保証されます。 <ol style="list-style-type: none"> 1) Solaris 2.6 2) Solaris 7 3) Solaris 8 4) Solaris 9 5) Solaris 10 ● Sun Microsystems,Incのホームページなどから別途入手した以下のJava™動作環境 (適用時は入手した製品に添付のREADMEを参照してください。) <ol style="list-style-type: none"> 1) 最新の Java™ Development Kit 1.1.8 2) Java™ 2 SDK, Standard Edition 1.2.2以降 または、Java™ Runtime Environment 1.2.2 3) Java™2 Runtime Environment Standard Edition v1.3.1 4) Java™2 Runtime Environment Standard Edition v1.4.2 ● マシン管理を表示するためには、クライアントにJava Plug-in環境を設定する必要があります。なお、設定方法については、"Web-Based Admin View操作手引書"を参照してください。 <p>Web-Based Admin View では、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) 環境での運用をサポートしていません。 DHCP 環境で Web-Based Admin View のインストールを行なった場合、インストール時に以下のようなメッセージが表示されます。</p> <pre>## Executing postinstall script. cat: cannot open <BE_NAME>/etc/nodename</pre> <p><BE_NAME> : 通常インストール時にはなにも入りません。 Solaris Live Upgrade によるインストール時は、非アクティブブート環境のルートディレクトリ (例 : /alt.copy1) が入ります。</p> <p>ただし、メッセージが表示されても Enhanced Support Facility のインストールに問題はありません。</p>
4	マシン管理 リモートサポート	<p>マシン管理メニューを root 以外のユーザが使用する場合は、グループ登録とユーザ登録が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● "cemainte"でグループを登録する。 管理サーバおよび監視対象ノードに同一グループ名を登録すること。 ● "cemainte"グループにユーザを登録する。 ● Web-Based Admin Viewの管理サーバおよび監視対象ノードについて 管理サーバおよび監視対象ノードに同一ユーザ名を登録すること。 ただし、PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000F モデル 1000/2000 の場合は、システムコンソールから OS インストール時に、"cemainte"グループおよび"cemainte"グループのユーザを自動的に登録します。 管理サーバと監視対象ノードのマシン管理のバージョンは、必ず同一にしてください。
5	自動電源制御	<p>PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000F モデル 1000/2000 に対する自動電源制御による自動電源投入、切断の設定は、システムコンソールから行ってください。</p>

項番	コンポーネント	内容
6	Server Default Configuration	<p>Solaris のドキュメントの"クラッシュダンプの有効化と無効化"では、クラッシュダンプを有効化するために <code>syssetup</code> スクリプトを修正する旨が記載されていますが、<code>syssetup</code> は変更しないでください。あらかじめクラッシュダンプは有効化されています。(Solaris 2.6 のみ)</p> <p>[参照マニュアル]</p> <p>Solaris 2.6 System Administrator Collection Vol. 1 – Japanese “Solaris のシステム管理” Solaris 2.6 System Administrator Collection Vol. 1 "Solaris Administration Guide"</p> <p>また、システムアカウントをいったん運用した場合、無効にするときには、Solaris のドキュメントの “システムアカウントの停止と無効” の手続きに加え、<code>"/var/adm/pacct"</code> を削除してください。</p> <p>[参照マニュアル]</p> <p>Solaris 2.6 System Administrator Collection Vol. 1 – Japanese “Solaris のシステム管理” Solaris 2.6 System Administrator Collection Vol. 1 "Solaris Administration Guide" Solaris 7 System Administrator Collection - Japanese “Solaris のシステム管理” Solaris 7 System Administrator Collection "Solaris Administration Guide" Solaris 8 System Administrator Collection - Japanese “Solaris のシステム管理” Solaris 8 System Administrator Collection "Solaris Administration Guide" Solaris 9 System Administrator Collection “Solaris のシステム管理 (上級編) “</p> <p>CDE のログイン画面 (<code>dtlogin</code>) から、一般ユーザでログインした場合に、Solaris ユーザ登録の画面が表示されないようになります。(PRIMEPOWER, GP7000F のみ)</p> <p>FJSVwarn パッケージは <code>syslog</code> の <code>LOG_NOTICE</code> を必要としますので、デフォルトで有効になっている <code>LOG_NOTICE</code> を無効にしないでください。</p> <p>一般ユーザでのシステムの保存停止機能の実行を禁止します。 (PRIMEPOWER, GP7000F のみ)</p>
7	ライセンスマネージャ	<p>複数の FSUNlic パッケージをインストールした場合は、Enhanced Support Facility 2.5 ユーザーズガイドの「11.2.5 パッケージのインストール」を参照して、適切な対処を行ってください。</p>
8	高信頼化対応ドライバ	<p>PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 の基本シリアルポートはすべてシステムコンソール専用です。基本シリアルポートに関する以下のデバイスファイルにはアクセスしないでください。また、これらに関するポートモニタなどの設定を変更しないでください。ただし FJVTS や SunVTS の動作確認として、コンソールパスに使用していないデバイス(デフォルトでは <code>/dev/term/ fa003~</code>, <code>/dev/se_hdlc3~</code>)を使用する事は可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> - <code>/dev/term/a, b, ...</code> - <code>/dev/cua/a, b, ...</code> - <code>/dev/term/fa000, fa001, ...</code> - <code>/dev/cua/fa000, fa001, ...</code> - <code>/dev/se_hdlc</code> - <code>/dev/se_hdlc0, se_hdlc1, ...</code> <p>PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 のコンソールパスに使用していない基本シリアルポートのうち、最大 5 つまでユーザで使用可能です。</p>
9	CPU パフォーマンスカウンタ	<p>CPU パフォーマンスカウンタは、Solaris 8 10/01 またはそれ以降では、Solaris 標準の機能としてサポートされています。</p> <p>ただし、Solaris 8 7/01 またはそれ以前のシステムでは Solaris 標準の機能として提供されていないため、CPU パフォーマンスカウンタを使用するためには、別途インストールする必要があります。削除する場合も同様に、別途削除を行う必要があります。</p> <p>また、Solaris 8 7/01 またはそれ以前のシステムに古い Enhanced Support Facility (Enhanced Support Facility 1.7, 1.7.1, 1.8) がインストールされている場合、新しい Enhanced Support Facility にアップグレードしても、CPU パフォーマンスカウンタはアップグレードされませんので、同様に別途インストールする必要があります。</p> <p>CPU パフォーマンスカウンタが必要な場合、“5. インストール手順”に記述されている操作を行う前に、“付録 C.1 CPU パフォーマンスカウンタのインストール (アップグレードを含む) 及び “付録 C.2 CPU パフォーマンスカウンタの削除” をお読み下さい。</p>

5. インストール手順

5.1 PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000F モデル 1000/2000 の場合

PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000F モデル 1000/2000 の場合は、システムコンソールに接続されている CD-ROM ドライブを使ってインストールします。システムコンソール上で、オペレーティングシステムコンソールの操作を行う場合は、RC2000 を使用します。システムコンソールおよび RC2000 についての詳細は、“System Console Software ユーザーズガイド”を参照してください。手順の説明で、プロンプトに"system console"と書いてある場合は、システムコンソール自身のウィンドウで行う作業を表しています。また、プロンプトに"RC2000"と書いてある場合は、PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000F モデル 1000/2000 本体装置のコンソールで行う作業を表しています。

5.1.1 前準備

5.1.1.1 システム環境の確認

- 1) Enhanced Support Facility の CD-ROM を、システムコンソールに接続されている CD-ROM ドライブに挿入します。

- 2) su コマンドを実行します。

```
RC2000 % su <Return>
```

- 3) root(スーパー・ユーザ)のパスワードを入力します。

```
Password:password <Return>  
RC2000 #
```

- 4) OpenBoot 環境に入ります。

```
RC2000 # /usr/sbin/shutdown -y -g0 -i0 <Return>
```

- 5) システムをシングルユーザ・モードで立ち上げます。

```
{?} ok boot -s <Return>
```

以下のようなメッセージが出ますので、パスワードを入力します。

```
INIT: SINGLE USER MODE  
Type Ctrl-d to proceed with normal startup,  
(or give root password for system maintenance): password <Return>
```

- 6) 必要なファイルシステムをマウントします。

```
RC2000 # /usr/sbin/mountall -l <Return>
```

- 7) ネットワークの活性化

Solaris10 と Solaris10 以外とはネットワークの活性化手順が異なります。
以下に a) Solaris10 の場合と b) Solaris10 以外の場合の作業方法を表します。

- a) Solaris10 の場合

Solaris10 の場合、シングルユーザモードの NFS 活性化が必要ありません。

```
RC2000 # svcadm enable /network/initial <Return>
```

- b) Solaris10 以外の場合

- b-1) ネットワークを活性化します。

```
RC2000 # /etc/init.d/inetinit start <Return>
```

- b-2) RPC サービスを起動します。

```
RC2000 # /etc/init.d/rpc start <Return>
```

- b-3) ネットワークインタフェースを活性化します。

```
RC2000 # /etc/init.d/inetsvc start <Return>
```

- b-4) nfs クライアントを起動します。

```
RC2000 # /etc/init.d/nfs.client start <Return>
```

- 8) CD-ROM をマウントします。

host : システムコンソールのホスト名

```
RC2000 # mkdir -p /cdrom <Return>
RC2000 # /usr/sbin/mount -F nfs -o ro host:/cdrom/cdrom0 /cdrom
<Return>
```

- 9) CD-ROM ドライブのディレクトリに移動します。

```
RC2000 # cd /cdrom <Return>
```

- 10) アップデートされるパッケージを確認します。

```
RC2000 # bin/esfadd -c <Return>
```

以下のようなメッセージが表示されます。yes を入力します。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
アップデートされるパッケージを確認します。
プラットフォーム: FJSV,GPUSK
OS Release: Solaris 8
上記設定で、続けますか? [yes or no ?]: yes <Return>
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Check the package that will be updated.
Platform: FJSV,GPUSK
OS Release: Solaris 8

Do you want to continue? [yes or no ?]: yes <Return>
```

以下のメッセージが表示された場合には、新規インストールです。環境設定ファイルの退避は不要です。“5.1.1.3 注意”に進んでください。

例) LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfadd: 情報: 本ソフトウェアはシステムにインストールされていません。
```

例) LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfadd: INFO: This software is not installed on the system.
```

アップデートインストールの場合は、以下、アップデートされるパッケージが表示されます。

例) LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

PKGNAME	CURRENT VERSION	FUTURE VERSION
FJSVbse	2.2,REV=2002.02.1100	2.5,REV=2005.02.1800
	:	
	:	
FSUNlic	6.1.8,REV=2000.10.1100	6.2,REV=2002.03.2500

上記パッケージのうち、環境設定ファイルの退避が必要なものは、インストールガイドの指示に従って環境設定ファイルを退避してください。

例) LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

PKGNAME	CURRENT VERSION	FUTURE VERSION
FJSVbse	2.2,REV=2002.02.1100	2.4,REV=2005.02.1800
	:	
	:	
FSUNlic	6.1.8,REV=2000.10.1100	6.2,REV=2002.03.2500

Please save data according to the INSTALLATION GUIDE if the package(s) for which the save of data is necessary exist in the above-mentioned package(s).

アップデートされるパッケージのうち、環境設定ファイルがあるパッケージがあるか確認してください。環境設定ファイルがあるパッケージがある場合は、“5.1.1.2 環境設定ファイルの退避方法”を参照し、環境設定ファイルを退避してください。環境設定ファイルがあるパッケージがない場合は、“5.1.1.3 注意”に進んでください。

環境設定ファイルがあるパッケージは以下のとおりです。

パッケージ名	環境ファイル
FJSVdr FJSVdrcmd	/etc/opt/FJSVdr/reply/C/dr_op
FJSVscr2	/etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf
FJSVscr3 FJSVscu3	/etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property /etc/opt/FJSVhwr/scf.conf /etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf
FJSVwvbs	環境設定ファイルの退避/復元を行う <code>wvEnvsave</code> コマンドを提供しています。
FJSVmasv FJSVmaom FJSVkmnd FJSVcmnd	環境設定ファイルの退避/復元を行う <code>savelogs</code> コマンドを提供しています。
FJSVapcs	/var/opt/FJSVapcs/*

5.1.1.2 環境設定ファイルの退避方法

Dynamic Reconfiguration 機能を使用しており、かつリブライファイルを変更している場合は、リブライファイルを退避します。リブライファイルに関しては「Dynamic Reconfiguration ユーザーズガイド 3.6.2 リブライファイル」を参照願います。

```
RC2000 # cp /etc/opt/FJSVdr/reply/C/dr_op 退避ファイル名 <Return>
```

SCF ドライバに関する設定ファイルを退避します。

- PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 の場合

```
RC2000 # cd /
RC2000 # ls /etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf | cpio -o -O 退避ファイル名<Return>
```

- PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合

```
RC2000 # cd /
RC2000 # ls /etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property /etc/opt/FJSVhwr/scf.conf
/etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf | cpio -o -O 退避ファイル名 <Return>
```

Web-Based Admin View /WWW Server for Admin View を使用している場合は、`wvEnvsave` コマンドを使用して FJSVwvbs パッケージの環境設定ファイルを退避します。

```
RC2000 # /etc/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvEnvsave 退避ファイル名 <Return>
```

マシン管理またはリモートサポートを使用している場合は、`savelogs` コマンドを使用して、マシン管理およびリモートサポートを構成しているパッケージの環境設定ファイルを退避します。

```
RC2000 # /usr/sbin/FJSVmadm/savelogs -mo 退避ディレクトリ名 <Return>
```

自動電源制御を使用している場合は、古いバージョンの FJSVapcs パッケージの環境設定ファイルを退避します。

```
RC2000 # cd / <Return>
RC2000 # find /var/opt/FJSVapcs/ -print -depth | /usr/bin/cpio -o -O
退避ファイル名<Return>
```

PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合は、システムコンソールへの接続情報ファイルを退避します。

```
RC2000 # cp /etc/FJSVscslhostname 退避ファイル名<Return>
```

5.1.1.3 注意

- 本ソフトウェアのインストール時に、`root` と `adm` ユーザが `cron` を使用できるように設定されていなければなりません。本ソフトウェアは `root` と `adm` ユーザの権限で `cron` を使用します。デフォルトの設定ではこれらのユーザは `cron` を使用できるようになっているため、設定を変更していなければ確認の必要はありません。ただし、設定を変更していた場合は本ソフトウェアをインストールする前に `root` と `adm` ユーザが `cron` を使用できるように再設定してください。(例えば `/etc/passwd` ファイルについて、`adm` ユーザのデフォルトシェルに `/bin/false` が設定されてはいけません。)
- リモートサポート機能を使用する場合は、以下を注意してください。調査資料収集機能では、プログラム資源管理のためシステムのセマフォ識別子を 3 つ使用します。そのため、システムをリブートする前にシステムパラメタ "`Semmi`" の値を 10 程度増やすことを推奨します。

`Semmi` : セマフォ識別子の数。現状値は `sysdef(1M)` コマンドで参照できます。

システムパラメタを編集するには、`/etc/system` ファイルに次のレコードを追加します。

以下は、システムパラメタ "`Semmi`" の値を 20 にした例です。

```
set semsys:seminfo_semni = 20
```

5.1.1.4 インストール時間

本ソフトウェアをインストールするために必要な時間は、約 15 分です。

システムをリブートする時間はマシンの構成によって変わりますので、本インストール時間には含まれていません。

5.1.2 ソフトウェアのインストール

- 1) CD-ROM ドライブのディレクトリに移動します。

```
RC2000 # cd /cdrom <Return>
```

- 2) esfadd コマンドを使用して、インストールします。

```
RC2000 # bin/esfadd <Return>
```

以下のメッセージが表示された場合には、ディスクのマウントが行われていない事を警告していません。ディスクのマウントについては、「5.1.1.1 システム環境の確認」を参照してください。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfadd: エラー: パッケージインストールディレクトリ (/opt, /var) が存在しません。
```

```
上記設定で、インストールしますか? [yes or no ?]:
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfadd: ERROR: package install dir (/opt, /var) do not exist.
```

```
Do you want to continue with this installation? [yes or no ?]:
```

ディスクをマウントする必要の有る場合には、no を入力してください。

「5.1.1.1 システム環境の確認」のディスクのマウントを行ってください。

ディスクをマウントする必要の無い場合には、"yes"を入力して、次に進みます。

以下のようなメッセージが表示されます。yes を入力します。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

例) 新規にインストールする場合

```
Enhanced Support Facility 2.5 をインストールします。
```

```
プラットフォーム: FJSV, GPUSK  
OS Release: Solaris 8
```

```
上記設定で、インストールしますか? [yes or no ?]: yes <Return>
```

例) アップデートする場合

```
Enhanced Support Facility 2.5 にアップデートします。
```

```
プラットフォーム: FJSV, GPUSK  
OS Release: Solaris 8
```

```
上記設定で、アップデートしますか? [yes or no ?]: yes <Return>
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

例) 新規にインストールする場合

```
Enhanced Support Facility 2.5 will be installed.
```

```
Platform: FJSV, GPUSK  
OS Release: Solaris 8
```

```
Do you want to continue with this installation? [yes or no ?]: yes  
<Return>
```

例) アップデートする場合

```
Enhanced Support Facility will be updated to Enhanced Support Facility  
2.5
```

```
Platform: FJSV, GPUSK  
OS Release: Solaris 8
```

```
Do you want to continue with this update? [yes or no ?]: yes <Return>
```

注意 1

インストール中に以下のようなメッセージが表示された場合は、n を入力し、インストールを中断してください。

```
A version of the <pkginst> package is already installed on
this machine. Current administration ds not allow new
instances of an existing package to be created, nor
existing instances to be overwritten.

No changes were made to the system.

There are n more packages to be installed.

Do you want to continue with installation [y,n,?]
```

注意 2

Solaris 2.6 では、SUNWvts パッケージのインストール中に以下のようなメッセージが表示されますが、インストールに問題はありません。

```
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/postinstall: usage: kill
[ [ -sig ] id ... | -l ]
```

注意 3

Solaris 7, 8 では、SUNWvts パッケージ、SUNWvtsx パッケージのインストール中に以下のようなメッセージが表示されますが、インストールに問題はありません。

```
Note: The SyMON configd package is not installed. This package is
required in order to support the SunVTS physical
configuration mapping mode. SunVTS will function normally
in its default logical configuration mapping mode.
However, if physical configuration mapping is desired,
please install the correct SyMON configd package
for your platform:
* For Desktop platform, install SUNWeswsa package.
* For WorkGroup Server platform, install SUNWeswga
package.
* For Enterprise Server platform, install SUNWsyncfd
package.
:
:
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/i.inetdconf: usage: kill [ [ -
sig ] id ... | -l ]
```

注意 4

Solaris 9 では、SUNWvts パッケージのインストール中に以下のようなメッセージが表示されますが、インストールに問題はありません。

```
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/i.inetdconf: usage: kill
[ [ -sig ] id ... | -l ]
```

注意 5

Solaris 10 では、SUNWvts パッケージのインストール中に以下のようなメッセージが表示されますが、インストールに問題はありません。

```
inetconv: Notice: Service manifest for 100235/1 already
generated as /var/svc/manifest/network/rpc/100235_1-
rpc_ticotsord.xml, skipped
inetconv: Notice: Service manifest for 100083/1 already
generated as /var/svc/manifest/network/rpc/100083_1-
rpc_tcp.xml, skipped
inetconv: Notice: Service manifest for 100068/2-5 already
generated as /var/svc/manifest/network/rpc/100068_2-5-
rpc_udp.xml, skipped
inetconv: Notice: Service manifest for 100153/1 already
generated as /var/svc/manifest/network/rpc/100153_1-
rpc_udp.xml, skipped
Sending signal to inetd to read the modified conf file...
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/i.inetdconf: usage: kill
[ [ -sig ] id ... | -l ]
```

注意 6

FJSVdef パッケージおよび FJSVcmd パッケージのインストール中に以下のようなメッセージが表示されますが、インストールに問題はありません。

```
cron may not be running - call your system administrator
```

- 3) 修正パッチがある場合、パッケージのインストール終了後に自動適用されます。
適用される修正パッチについては、製品 CD-ROM のパッチディレクトリ ESFREMCSF 配下の README または README.ja を参照してください。
※ マシン・システムの状態により適用されるパッチは異なります。
次のメッセージが出力され、修正パッチの自動適用が開始します。

例) LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 2.5 修正パッチを適用します。

Checking installed patches...
Verifying sufficient filesystem capacity (dry run method)...
Installing patch packages...
:
:
:
---- esfpatchadd result. ----
適用されたパッチ
912542-01
```

例) LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility 2.5 collection patches will be applied.

Checking installed patches...
Verifying sufficient filesystem capacity (dry run method)...
Installing patch packages...
:
:
:
---- esfpatchadd result. ----
Applied patches:
912542-01
```

注意 1

パッチ適用結果に以下のようなメッセージが表示された場合は、付録 H. 修正が適用されない場合 を参照してください。

例) LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
---- esfpatchadd result. ----
適用されなかったパッチ:
patch
```

例) LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
---- esfpatchadd result. ----
Patches not applied:
patch
```

注意 2

Solaris10 では、以下のメッセージが表示されますが、パッチの適用には問題ありません。

```
touch: /var/sadm/patch/.patchaddLock cannot create
chmod: WARNING: can't access /var/sadm/patch/.patchaddLock
/usr/lib/patch/patchadd[27]: /var/sadm/patch/.patchaddLock: cannot
create
```

- 4) インストールされた Enhanced Support Facility の各パッケージ版数を調べたい場合は、esfver コマンドを使用してください。

```
RC2000 # bin/esfver -l <Return>
```

例 1) LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfver: 情報: インストール済み Enhanced Support Facility パッケージの版数
PKGNAME      VERSION      REVISION
-----
FJSVbse      2.5          2005.02.1800
FJSVdrcmd    1.8          2003.10.0200
```



```

          :
          :
FJSVparam 1.0          2003.10.2800
-----

```

例2) LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```

esfver: INFO: Individual Packages Version of already installed
Enhanced Support Facility.
PKGNAME      VERSION      REVISION
-----
FJSVbse      2.5          2003.05.2600
FJSVdrcmd    1.8          2003.10.0200
          :
          :
FJSVparam    1.0          2003.10.2800
-----

```

注)

本コマンドで表示されている各パッケージのバージョンが、構成プログラム表に記載されているバージョンより新しい場合もありますが、インストールに問題はありません。

- 5) CD-ROM ドライブをアンマウントします。

```

RC2000 # cd / <Return>
RC2000 # umount /cdrom <Return>

```

- 6) 以下のコマンドを実行し、Enhanced Support Facility の CD-ROM 媒体を取り出します。

```

system console % eject cdrom <Return>

```

5.1.3 インストール後の環境復元

古いバージョンの環境設定ファイルを退避している場合だけ必要な作業です。

"5.1.1.2 環境設定ファイルの退避方法" で退避した環境設定ファイルを復元します。

Dynamic Reconfiguration に関する設定を復元します。

退避したリプライファイルを参考に、/etc/opt/FJSVdr/reply/C/dr_op を再編集します。Enhanced Support Facility のアップグレードによりリプライメッセージが追加されることがありますので、「Dynamic Reconfiguration ユーザーズガイド 6.1.3.3 もしくは 7.1.3.3 問い合わせメッセージ」を参照して変更してください。

SCF ドライバに関する設定ファイルを復元します。

- PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 の場合

```

RC2000 # cd / <Return>
RC2000 # cpio -iu -I 退避ファイル名 <Return>
RC2000 # chown root /etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf <Return>
RC2000 # chgrp root /etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf <Return>

```

- PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合

```

RC2000 # cd / <Return>
RC2000 # cpio -iu -I 退避ファイル名 <Return>
RC2000 # chown root /etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property
/etC/opt/FJSVhwr/scf.conf /etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf <Return>
RC2000 # chgrp sys /etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property
/etC/opt/FJSVhwr/scf.conf <Return>
RC2000 # chgrp root /etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf <Return>

```

wvEnvload コマンドを使用して Web-Based Admin View /WWW Server for Admin View の環境設定ファイルを復元します。

```

RC2000 # /etc/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvEnvload 退避ファイル名 <Return>

```

savelogs コマンドを使用して、マシン管理およびリモートサポートの環境設定ファイルを復元します。

```

RC2000 # /usr/sbin/FJSVmadm/savelogs -r 退避ディレクトリ名 <Return>

```

自動電源制御の環境設定ファイルを復元します。

```

RC2000 # cpio -iu -I 退避ファイル名 <Return>

```

PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合は、システムコンソールへの接続情報ファイルを復元し

ます。

```
RC2000 # cp 退避ファイル名 /etc/FJSVscslhostname<Return>
```

5.1.4 システムの再起動

- 1) システムをリブートします。

```
RC2000 # /usr/sbin/shutdown -y -g0 -i6 <Return>
```

5.1.5 インストール後の環境設定

本ソフトウェアでは、以下に示す環境設定があります。マニュアルについては、“2 適用マニュアル”を参照してください。

項番	コンポーネント	内容
1	SCF ドライバ	SCF ドライバのコマンドを使用する場合は、PATH 環境変数を変更する必要があります。“Enhanced Support Facility ユーザーズガイド”の“1.3 サーバ導入時の設定”を参照してください。
2	マシン管理	PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合で、以下の様なメッセージを表示する場合は、システムコンソールとの接続設定が必要です。 Feb 28 10:28:23 host_name evsddd: Can't get host name. Feb 28 10:28:23 host_name evsddd: Host or IP is not found. 【システムコンソールとの接続設定手順】 1. 以下のコマンドを実行し、システムコンソールへの接続情報を設定します。 # /usr/sbin/FJSVmadm/scslset システムコンソールのホスト名<Return> 2. 次に以下のコマンドを実行し、システムコンソールとの通信を開始させます。 # /usr/sbin/FJSVmadm/cmdevsnd -i<Return>

項番	コンポーネント	内容
3	Web-Based Admin View/ WWW Server for Admin View	<ul style="list-style-type: none"> ● クライアントの設定を行う場合には、"Web-Based Admin View操作手引書"の"3.1 Web-Based Admin Viewメニュー起動のための準備"を参照してください。 ● Webブラウザによっては正常に動作しないことがあります。その場合には"Web-Based Admin View操作手引書" の"3.1.3.2 Webブラウザの使用環境に応じた設定を行う"でコピーした"swingall.jar"ファイルを削除してください。 ● 本ソフトウェアをインストールした後は、必ずWebブラウザを再起動してください。 ● Web-Based Admin Viewの動作環境は、Enhanced Support Facility のインストール時のネットワーク環境を基に自動的に設定されます。したがって、Enhanced Support Facility をインストールした後にSolaris のネットワーク環境などを変更した場合、正常に動作しなくなることがあります。Web-Based Admin Viewの動作環境の変更方法は、"Web-Based Admin View操作手引書"の"第6章 設定の変更"を参照してください。 ● Enhanced Support Facility がプレインストールされている場合、Web-Based Admin Viewの設定は全てlocalhost(127.0.0.1)に設定されています。Web-Based Admin Viewを使用する場合は、"Web-Based Admin View 操作手引書" の"業務LANのIPアドレスの変更"と"管理サーバの変更"を参照し、Web-Based Admin View で使用するIPアドレスの設定を変更してください。 ● WWW Server for Admin ViewおよびWeb-Based Admin Viewは、ブート時に自動的にネットワークポート(デフォルトでは8081,9396,9397,9398,9399) を使用します。セキュリティ要件などでこの動作を抑止したい場合は、以下のコマンドを実行した後、リブートしてください。 <pre># /etc/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvrcscript uninstall<Return></pre> この処置によりWWW Server for Admin ViewおよびWeb-Based Admin Viewが自動で起動されないようになります。また、この設定を行うと、以下の機能および製品についてWebからの操作が使用できなくなりますので、CUIなどの機能を使用するようにしてください。 <ul style="list-style-type: none"> - マシン管理 - SafeDISK, SafeDISK/Global - SafeFILE/Global, SafeFILE/Global POWER Edition - SafeCLUSTER - マルチパスディスク制御 - PRIMECLUSTER なお、再び自動的に起動するには以下のコマンドを実行してシステムをリブートしてください。 <pre># /etc/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvrcscript install<Return></pre> ● Solaris 8 の場合、"5.2.3 インストール後の環境復元"において、wvEnvloadコマンドを使用してFJSVwvbsパッケージの環境設定ファイルを復元すると、Web-Based Admin ViewのJava(TM)動作環境の設定がJDK1.1系(JDK1.1.x)に変更されます。あらかじめ設定し直す場合には、"Web-Based Admin View操作手引書"の"6.2.3 Java動作環境を変更する"を参照して再設定をしてください。

項番	コンポーネント	内容
4	システム情報採取ツール	<p>fjsnapコマンドは作業領域として /tmp を使用するため、採取情報サイズの増加に伴いメモリ資源およびスワップ資源を圧迫します。</p> <p>PRIMECLUSTERのクラスシステムで、システム運用中に、fjsnapコマンドを実行すると、フェイルオーバーが発生することがありますので、fjsnapコマンドの採取対象情報と作業領域を変更してください。</p> <p>1) 採取禁止ファイルの作成 採取情報サイズを削減するため、採取禁止ファイル /etc/opt/FJSVsnap/exclude を作成し、以下の2行を記述します。 VAR_OPT /var/adm/sa</p> <p>2) 作業領域の変更 fjsnapコマンドを実行する場合は、-T オプションで作業領域に /tmp 以外を指定してください。 example# /opt/FJSVsnap/bin/fjsnap -T /var/tmp /var/tmp/fjsnap.out</p> <p>fjsnapコマンド実行中に作業領域不足のメッセージが出力された場合は、処理を中断し、採取情報サイズより空き容量が大きい作業領域を指定して fjsnap コマンドを再実行してください。</p> <p>手順の詳細は、“Enhanced Support Facility ユーザーズガイド” の“第10 章システム情報採取ツール”を参照してください。</p>

5.1.6 修正の適用

一括修正、パッチなどの修正が提供されている場合には、最新の修正を適用してください。適用方法については添付されている説明書を参照してください。

5.2 PRIMEPOWER1/100/200/250/400/450/600/650/850, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R, 富士通 S series および GP-S ファミリーの場合

GP7000S モデル 1000 には CD-ROM ドライブがないため、SSP(System Service Processor)の CD-ROM ドライブを使用してください。

PRIMEPOWER1 には、CD-ROM ドライブが標準で実装されていません。CD-ROM ドライブが実装されていない場合は、他のマシンの CD-ROM ドライブを使用してください。使用方法は、Solaris のドキュメントについて、以下のマニュアルを参照してください。

- Solaris 8 System Administrator Collection – Japanese “Solarisのシステム管理” の “コマンド行でのCDの使用法 (手順)”
- Solaris 8 System Administrator Collection "System Administration Guide" の "Using CDs From the Command Line (Tasks)"
- Solaris 9 System Administrator Collection – Japanese “Solaris のシステム管理 (基本編)” の “リムーバブルメディアへのアクセス (手順)”
- Solaris 9 System Administrator Collection “System Administration Guide: Basic Administration” の “Accessing Removable Media (Tasks)”

注意

ローカル CD を他のシステムで使用可能にする場合は、`/etc/rmmount.conf` ファイルに以下の行を追加してください。

```
share cdrom* -o ro,anon=0
```

5.2.1 前準備

5.2.1.1 システム環境の確認

- 1) su コマンドを実行します。

```
% su <Return>
```

- 2) root(スーパー・ユーザ)のパスワードを入力します。

```
Password:password <Return>  
#
```

- 3) OpenBoot 環境に入ります。

```
# /usr/sbin/shutdown -y -g0 -i0 <Return>
```

- 4) システムをシングルユーザ・モードで立ち上げます。

```
{?} ok boot -s <Return>
```

以下のようなメッセージが出ますので、パスワードを入力します。

```
INIT: SINGLE USER MODE  
Type Ctrl-d to proceed with normal startup,  
(or give root password for system maintenance): password <Return>
```

- 5) 必要なファイルシステムをマウントします。

```
# /usr/sbin/mountall -l <Return>
```

- 6) ボリューム管理を起動し、Enhanced Support Facility の CD-ROM 媒体を CD-ROM ドライブに挿入します。

```
# /etc/init.d/volmgt start <Return>  
volume management starting.
```

※ CD-ROM の内容を参照できない場合は付録 D を参照し、手動で CD-ROM のマウント作業を行ってください。

- 7) CD-ROM ドライブのディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0 <Return>
```

- 8) アップデートされるパッケージを確認します。

```
# bin/esfadd -c <Return>
```

以下のようなメッセージが表示されます。yesを入力します。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

アップデートされるパッケージを確認します。

```
プラットフォーム: FJSV,GPUS
OS Release: Solaris 8
```

上記設定で、続けますか? [yes or no ?]: **yes** <Return>

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

Check the package that will be updated.

```
Platform: FJSV,GPUS
OS Release: Solaris 8
```

Do you want to continue? [yes or no ?]: **yes** <Return>

以下のメッセージが表示された場合には、新規インストールです。環境設定ファイルの退避は不要です。“5.2.1.3 注意”に進んでください。

例) LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfadd: 情報: 本ソフトウェアはシステムにインストールされていません。
```

例) LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfadd: INFO: This software is not installed on the system.
```

アップデートされるパッケージが表示されます。

例) LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

PKGNAME	CURRENT VERSION	FUTURE VERSION
FJSVbse	2.2,REV=2000.02.1100	2.5,REV=2003.05.2600
FJSVvts	4.0,REV=2000.11.2100	4.0,REV=2003.10.2100
:	:	:
FSUNlic	6.1.8,REV=2000.10.1100	6.2,REV=2002.03.2500

上記パッケージのうち、環境設定ファイルの退避が必要なものは、インストールガイドの指示に従って環境設定ファイルを退避してください。

例) LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

PKGNAME	CURRENT VERSION	FUTURE VERSION
FJSVbse	2.2,REV=2000.02.1100	2.5,REV=2005.02.1800
FJSVvts	4.0,REV=2000.11.2100	4.0,REV=2003.10.2100
:	:	:
FSUNlic	6.1.8,REV=2000.10.1100	6.2,REV=2002.03.2500

Please save data according to the INSTALLATION GUIDE if the package(s) for which the save of data is necessary exist in the above-mentioned package(s).

アップデートされるパッケージのうち、環境設定ファイルがあるパッケージがあるか確認してください。環境設定ファイルがあるパッケージがある場合は、“5.2.1.2 環境設定ファイルの退避方法”を参照し、環境設定ファイルを退避してください。環境設定ファイルがあるパッケージがない場合は、“5.2.1.3 注意”に進んでください。

環境設定ファイルがあるパッケージは以下のとおりです。

パッケージ名	環境ファイル

FJSVscr.us	/etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property
FJSVlscr	/etc/opt/FJSVhwr/scf.conf
FJSVscr3	
FJSVpscr	
FJSVwvbs	環境設定ファイルの退避/復元を行う <code>wvEnvsave</code> コマンドを提供しています。
FJSVmand	環境設定ファイルの退避/復元を行う <code>savelogs</code> コマンドを提供しています。
FJSVmarm	
FJSVmasv	
FJSVrlib	
FJSVragt	
FJSVrmaos	
FJSVcmrm	
FJSVcmnd	
FJSVpmrm	
FJSVpmnd	
FJSVapcs	/var/opt/FJSVapcs/*

5.2.1.2 環境設定ファイルの退避方法

SCF ドライバに関する設定ファイルを退避します。(富士通 S series および GP-S ファミリーの場合をのぞく)

```
# cd / <Return>
# ls /etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property /etc/opt/FJSVhwr/scf.conf | cpio
-o -O 退避ファイル名 <Return>
```

Web-Based Admin View /WWW Server for Admin View を使用している場合は、`wvEnvsave` コマンドを使用して `FJSVwvbs` パッケージの環境設定ファイルを退避します。

```
# /etc/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvEnvsave 退避ファイル名 <Return>
```

マシン管理またはリモートサポートを使用している場合は、`savelogs` コマンドを使用して、マシン管理およびリモートサポートを構成しているパッケージの環境設定ファイルを退避します。

```
# /usr/sbin/FJSVmadm/savelogs -mo 退避ディレクトリ名 <Return>
```

自動電源制御を使用している場合は、古いバージョンの `FJSVapcs` パッケージの環境設定ファイルを退避します。(富士通 S series および GP-S ファミリーの場合をのぞく)

```
# cd / <Return>
# find /var/opt/FJSVapcs/ -print -depth | cpio -o -O 退避ファイル名
<Return>
```

5.2.1.3 注意

- 本ソフトウェアのインストール時に、`root` と `adm` ユーザが `cron` を使用できるように設定されていなければなりません。本ソフトウェアは `root` と `adm` ユーザの権限で `cron` を使用します。デフォルトの設定ではこれらのユーザは `cron` を使用できるようになっているため、設定を変更していなければ確認の必要はありません。ただし、設定を変更していた場合は本ソフトウェアをインストールする前に `root` と `adm` ユーザが `cron` を使用できるように再設定してください。(例えば `/etc/passwd` ファイルについて、`adm` ユーザのデフォルトシェルに `/bin/false` が設定されてはいけません。)
- リモートサポート機能を使用する場合は、以下を注意してください。
 - 調査資料収集機能では、プログラム資源管理のためシステムのセマフォ識別子を 3 つ使用します。そのため、システムをリブートする前にシステムパラメタ "Semmni" の値を 10 程度増やすことを推奨します。Semmni : セマフォ識別子の数。現状値は `sysdef(1M)` コマンドで参照できます。
 - システムパラメタを編集するには、`/etc/system` ファイルに次のレコードを追加します。以下は、システムパラメタ "Semmni" の値を 20 にした例です。

```
set semsys:seminfo_semmni = 20
```

5.2.1.4 インストール時間

本ソフトウェアをインストールするために必要な時間は、約 15 分です。システムをリブートする時間はマシンの構成により変わりますので、本インストール時間には含まれていません。

5.2.2 ソフトウェアのインストール

- 1) CD-ROM ドライブのディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0 <Return>
```

- 2) esfadd コマンドを使用して、インストールします。

```
# bin/esfadd <Return>
```

以下のメッセージが表示された場合には、ディスクのマウントが行われていない事を警告しています。

ディスクのマウントについては、「5.2.1.1 システム環境の確認」を参照してください。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfadd: エラー: パッケージインストールディレクトリ (/opt, /var) が存在しません。
```

```
上記設定で、インストールしますか? [yes or no ?]:
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfadd: ERROR: package install dir (/opt, /var) do not exist.
```

```
Do you want to continue with this installation? [yes or no ?]:
```

ディスクをマウントする必要の有る場合には、no を入力してください。

「5.2.1.1 システム環境の確認」のディスクのマウントを行ってください。

ディスクをマウントする必要の無い場合には、"yes"を入力して、次に進みます。

以下のようなメッセージが表示されます。yes を入力します。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

例) 新規にインストールする場合

```
Enhanced Support Facility 2.5 をインストールします。
```

```
プラットフォーム: FJSV, GPUS
```

```
OS Release: Solaris 8
```

```
上記設定で、インストールしますか? [yes or no ?]: yes <Return>
```

例) アップデートする場合

```
Enhanced Support Facility 2.5 にアップデートします。
```

```
プラットフォーム: FJSV, GPUS
```

```
OS Release: Solaris 8
```

```
上記設定で、アップデートしますか? [yes or no ?]: yes <Return>
```

例) 共通パッケージが既にインストールされていて新規にインストールする場合

```
以下のパッケージを削除し、Enhanced Support Facility 2.5 をインストールします。
```

```
削除するパッケージ: ...
```

```
プラットフォーム: FJSV, GPUS
```

```
OS Release: Solaris 8
```

```
上記設定で、インストールしますか? [yes or no ?]: yes <Return>
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

例) 新規にインストールする場合

```
Enhanced Support Facility 2.5 will be installed.
```

```
Platform: FJSV, GPUS
```

```
OS Release: Solaris 8
```

```
Do you want to continue with this installation? [yes or no ?]: yes  
<Return>
```

例) アップデートする場合


```
Enhanced Support Facility will be updated to Enhanced Support Facility
2.5
Platform: FJSV,GPUS
OS Release: Solaris 8

Do you want to continue with this update? [yes or no ?]: yes <Return>
```

例) 共通パッケージが既にインストールされていて新規にインストールする場合

```
Enhanced Support Facility 2.5 will be installed after the following
packages are removed.

Packages: ...

Platform: FJSV,GPUS
OS Release: Solaris 8

Do you want to continue with this installation? [yes or no ?]: yes
<Return>
```

注意 1

インストール中に以下のようなメッセージが表示された場合は、n を入力し、インストールを中断してください。

```
A version of the <pkginst> package is already installed on
this machine. Current administration ds not allow new
instances of an existing package to be created, nor
existing instances to be overwritten.

No changes were made to the system.

There are n more packages to be installed.

Do you want to continue with installation [y,n,?]
```

注意 2

Solaris 2.6 では、SUNWvts パッケージのインストール中に以下のようなメッセージが表示されますが、インストールに問題はありません。

```
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/postinstall: usage: kill
[ [ -sig ] id ... | -l]
```

注意 3

Solaris 7, 8 では、SUNWvts パッケージ、SUNWvtsx パッケージのインストール中に以下のようなメッセージが表示されますが、インストールに問題はありません。

```
Note: The SyMON configd package is not installed. This package is
required in order to support the SunVTS physical
configuration mapping mode. SunVTS will function normally
in its default logical configuration mapping mode.
However, if physical configuration mapping is desired,
please install the correct SyMON configd package
for your platform:
* For Desktop platform, install SUNWeswsa package.
* For WorkGroup Server platform, install SUNWeswga
package.
* For Enterprise Server platform, install SUNWsyncfd
package.
:
:
:
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/i.inetdconf: usage: kill [ [ -
sig ] id ... | -l]
```

注意 4

Solaris 9 では、SUNWvts パッケージのインストール中に以下のようなメッセージが表示されますが、インストールに問題はありません。

```
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/i.inetdconf: usage: kill
[ [ -sig ] id ... | -l]
```

注意 5

Solaris 10 では、SUNWvts パッケージのインストール中に以下のようなメッセージ

が表示されますが、インストールに問題はありません。

```
inetconv: Notice: Service manifest for 100235/1 already
generated as /var/svc/manifest/network/rpc/100235_1-
rpc_ticotsord.xml, skipped

inetconv: Notice: Service manifest for 100083/1 already
generated as /var/svc/manifest/network/rpc/100083_1-
rpc_tcp.xml, skipped

inetconv: Notice: Service manifest for 100068/2-5 already
generated as /var/svc/manifest/network/rpc/100068_2-5-
rpc_udp.xml, skipped

inetconv: Notice: Service manifest for 100153/1 already
generated as /var/svc/manifest/network/rpc/100153_1-
rpc_udp.xml, skipped

Sending signal to inetd to read the modified conf file...
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/i.inetdconf: usage: kill
[ [ -sig ] id ... | -l ]
```

注意 6

FJSVscr パッケージ、FJSVpscr パッケージ、FJSVdef パッケージ及び FJSVcmd パッケージのインストール中に以下のようなメッセージが表示されますが、インストールに問題はありません。

```
cron may not be running - call your system administrator
```

- 3) 修正パッチがある場合、パッケージのインストール終了後に自動適用されます。
適用される修正パッチについては、製品 CD-ROM のパッチディレクトリ ESFREM CSP 配下の README または README.ja を参照してください。

次のメッセージが出力され、修正パッチの自動適用が開始します。

例 1) LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 2.5 修正パッチを適用します。

Checking installed patches...
Verifying sufficient filesystem capacity (dry run method)...
Installing patch packages...
:
:
:
---- esfpatchadd result. ----
適用されたパッチ
912542-01
```

例 2) LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility 2.5 collection patches will be applied.

Checking installed patches...
Verifying sufficient filesystem capacity (dry run method)...
Installing patch packages...
:
:
:
---- esfpatchadd result. ----
Applied patches:
912542-01
```

注意 1

パッチ適用結果に以下のようなメッセージが表示された場合は、付録 H. 修正パッチが適用されない場合を参照してください。

例 1) LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
---- esfpatchadd result. ----
適用されなかったパッチ:
patch
```

例 2) LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
---- esfpatchadd result. ----
Patches not applied:
  patch
```

注意 2

Solaris10 では、以下のメッセージが表示されますが、パッチの適用には問題ありません。

```
touch: /var/sadm/patch/.patchaddLock cannot create
chmod: WARNING: can't access /var/sadm/patch/.patchaddLock
/usr/lib/patch/patchadd[27]: /var/sadm/patch/.patchaddLock: cannot
create
```

- 4) インストールされた Enhanced Support Facility の各パッケージ版数を調べたい場合は、esfver コマンドを使用してください。

```
#bin/esfver -l <Return>
```

例 1) LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfver: 情報: インストール済みEnhanced Support Facilityパッケージの版数
PKGNAME      VERSION      REVISION
-----
FJSVbse      2.5          2005.02.1800
FJSVscdx     1.9.1        2003.11.1100
              :
              :
FJSVparam    1.0          2003.11.1800
-----
```

例 2) LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfver: INFO: Individual Packages Version of already installed
Enhanced Support Facility.
PKGNAME      VERSION      REVISION
-----
FJSVbse      2.5          2005.02.1800
FJSVscdx     1.9.1        2003.11.1100
              :
              :
FJSVparam    1.0          2003.11.1800
-----
```

注)

本コマンドで表示されている各パッケージのバージョンが、構成プログラム表に記載されているバージョンより新しい場合もありますが、インストールに問題はありません。

- 5) 以下のコマンドを実行し、Enhanced Support Facility の CD-ROM 媒体を取り出します。

```
# cd / <Return>
# eject cdrom <Return>
```

5.2.3 インストール後の環境復元

古いバージョンの環境設定ファイルを退避している場合だけ必要な作業です。

“5.2.1.2 環境設定ファイルの退避方法” で退避した環境設定ファイルを復元します。

SCF ドライバに関する設定ファイルを復元します。(富士通 S series および GP-S ファミリーの場合をのぞく)

```
# cd / <Return>
# cpio -iu -I退避先ファイル名 <Return>
# chown root /etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property /etc/opt/FJSVhwr/
scf.conf <Return>
# chgrp sys /etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property /etc/opt/FJSVhwr/
scf.conf <Return>
```

wvEnvload コマンドを使用して Web-Based Admin View /WWW Server for Admin View の環境設定ファイル

ルを復元します。

```
# /etc/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvEnvload 退避先ファイル名 <Return>
```

savelogs コマンドを使用して、マシン管理およびリモートサポートの環境設定ファイルを復元します。

```
# /usr/sbin/FJSVmadm/savelogs -r 退避先ディレクトリ名 <Return>
```

自動電源制御の環境設定ファイルを復元し、復元したファイルのパーミッションを変更します。(富士通 S series および GP-S ファミリーの場合をのぞく)

```
# cpio -iu -I 退避先ファイル名 <Return>
# chmod 644 /var/opt/FJSVapcs/* <Return>
```

5.2.4 システムの再起動

1) システムをリブートします。

```
# /usr/sbin/shutdown -y -g0 -i6 <Return>
```

5.2.5 インストール後の環境設定

本ソフトウェアでは、以下に示す環境設定があります。マニュアルについては、“適用マニュアル”を参照してください。

項番	コンポーネント	内容
1	SCF ドライバ	SCF ドライバのコマンドを利用する場合は、PATH 環境変数を変更する必要があります。“Enhanced Support Facility ユーザーズガイド”の“1.3 サーバ導入時の設定”を参照してください。

項番	コンポーネント	内容
2	Web-Based Admin View/ WWW Server for Admin View	<ul style="list-style-type: none"> ● クライアントの設定を行う場合には、"Web-Based Admin View操作手引書"の"3.1 Web-Based Admin Viewメニュー起動のための準備"を参照してください。 ● Webブラウザによっては正常に動作しないことがあります。その場合には"Web-Based Admin View操作手引書" の"3.1.3.2 Webブラウザの使用環境に応じた設定を行う"でコピーした"swingall.jar"ファイルを削除してください。 ● 本ソフトウェアをインストールした後は、必ずWebブラウザを再起動してください。 ● Web-Based Admin Viewの動作環境は、Enhanced Support Facility のインストール時のネットワーク環境を基に自動的に設定されます。したがって、Enhanced Support Facility をインストールした後にSolaris のネットワーク環境などを変更した場合、正常に動作しなくなることがあります。Web-Based Admin Viewの動作環境の変更方法は、"Web-Based Admin View操作手引書"の"第6章 設定の変更"を参照してください。 ● Enhanced Support Facility がプレインストールされている場合、Web-Based Admin View の設定は全てlocalhost(127.0.0.1)に設定されています。Web-Based Admin View を使用する場合は、"Web-Based Admin View 操作手引書" の"業務LANのIPアドレスの変更"と"管理サーバの変更"を参照し、Web-Based Admin View で使用するIPアドレスの設定を変更してください。 ● WWW Server for Admin ViewおよびWeb-Based Admin Viewは、ブート時に自動的にネットワークポート(デフォルトでは8081,9396,9397,9398,9399) を使用します。セキュリティ要件などでこの動作を抑止したい場合は、以下のコマンドを実行した後、リブートしてください。 <ul style="list-style-type: none"> # /etc/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvrcscript uninstall この処置によりWWW Server for Admin ViewおよびWeb-Based Admin Viewが自動で起動されなくなります。また、この設定を行うと、以下の機能および製品についてWebからの操作が使用できなくなりますので、CUIなどの機能を使用するようにしてください。 なお、再び自動的に起動するようにするには以下のコマンドを実行してシステムをリブートしてください。 <ul style="list-style-type: none"> # /etc/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvrcscript install - マシン管理 - SafeDISK, SafeDISK/Global - SafeFILE/Global, SafeFILE/Global POWER Edition - SafeCLUSTER - マルチパスディスク制御 - PRIMECLUSTER ● Solaris 8 の場合、"5.2.3 インストール後の環境復元"において、wvEnvloadコマンドを使用してFJSVwvbsパッケージの環境設定ファイルを復元すると、Web-Based Admin ViewのJava(TM)動作環境の設定がJDK1.1系(JDK1.1.x)に変更されます。あらためて設定し直す場合には、"Web-Based Admin View操作手引書"の"6.2.3 Java動作環境を変更する"を参照して再設定をしてください。

3	システム情報 採取ツール	<p>fjsnap コマンドは作業領域として /tmp を使用するため、採取情報サイズの増加に伴いメモリ資源およびスワップ資源を圧迫します。</p> <p>PRIMECLUSTERのクラスシステムで、システム運用中に、fjsnapコマンドを実行すると、ファイルオーバーが発生することがありますので、fjsnapコマンドの採取対象情報と作業領域を変更してください。</p> <p>1) 採取禁止ファイルの作成 採取情報サイズを削減するため、採取禁止ファイル /etc/opt/FJSVsnap/exclude を作成し、以下の2行を記述します。</p> <pre>VAR_OPT /var/adm/sa</pre> <p>2) 作業領域の変更 fjsnapコマンドを実行する場合は、-T オプションで作業領域に /tmp 以外を指定してください。</p> <pre>example# /opt/FJSVsnap/bin/fjsnap -T /var/tmp /var/tmp/fjsnap.out</pre> <p>fjsnapコマンド実行中に作業領域不足のメッセージが出力された場合は、処理を中断し、採取情報サイズより空き容量が大きい作業領域を指定して fjsnap コマンドを再実行してください。</p> <p>手順の詳細は、“Enhanced Support Facility ユーザーズガイド”の“第10章システム情報採取ツール”を参照してください。</p>
---	-----------------	--

5.2.6 修正の適用

一括修正、パッチなどの修正が提供されている場合には、最新の修正を適用してください。適用方法については添付されている説明書を参照してください。

6. ソフトウェアの削除方法

以下の手順により、本ソフトウェアで提供するパッケージをすべて削除することが可能です。

6.1 PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000F モデル 1000/2000 の場合

本ソフトウェアは、CD-ROM 内の `esfrm` コマンドを使って削除するため、PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000F モデル 1000/2000 では、システムコンソールに接続された CD-ROM ドライブを使用します。システムコンソール上で、OS コンソールの操作を行う場合は、RC2000 を使用します。システムコンソールおよび RC2000 についての詳細は、“System Console Software ユーザーズガイド”を参照してください。

手順の説明で、プロンプトに"system console"と書いてある場合は、システムコンソール自身のウィンドウで行う作業を表しています。また、プロンプトに"RC2000"と書いてある場合は、PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000F モデル 1000/2000 本体装置のコンソールで行う作業を表しています。

注意

- 本ソフトウェアの削除時には、`root` と `adm` ユーザが `cron` を使用できるように設定されていなければなりません。本ソフトウェアの削除では `root` と `adm` ユーザの権限で `cron` を使用します。デフォルトの設定ではこれらのユーザは `cron` を使用できるようになっているため、設定を変更していなければ確認の必要はありません。ただし、設定を変更していた場合は本ソフトウェアを削除する前に `root` と `adm` ユーザが `cron` を使用できるように再設定してください。(例えば `/etc/passwd` ファイルについて、`adm` ユーザのデフォルトシェルに `/bin/false` が設定されてはいけません。)

- Enhanced Support Facility の CD-ROM を、システムコンソールに接続されている CD-ROM ドライブに挿入します。
- `su` コマンドを実行します。

```
RC2000 % su <Return>
```

- `root`(スーパー・ユーザ)のパスワードを入力します。

```
Password:password <Return>
RC2000 #
```

- OpenBoot 環境に入ります。

```
RC2000 # /usr/sbin/shutdown -y -g0 -i0 <Return>
```

- システムをシングルユーザ・モードで立ち上げます。

```
{?} ok boot -s <Return>
```

以下のようなメッセージが出ますので、パスワードを入力します。

```
INIT: SINGLE USER MODE
Type Ctrl-d to proceed with normal startup,
(or give root password for system maintenance): password <Return>
```

- 必要なファイルシステムをマウントします。

```
RC2000 # /usr/sbin/mountall -l <Return>
```

- ネットワークの活性化

Solaris10 と Solaris10 以外とはネットワークの活性化手順が異なります。

以下に a) Solaris10 と Solaris10 以外の場合の作業方法を表します。

- Solaris10 の場合

```
RC2000 # svcadm enable /network/initial <Return>
```

- Solaris10 以外の場合

- ネットワークを活性化します。

```
RC2000 # /etc/init.d/inetinit start <Return>
```

- RPC サービスを起動します。

```
RC2000 # /etc/init.d/rpc start <Return>
```

b-3) ネットワークインタフェースを活性化します。

```
RC2000 # /etc/init.d/inetsvc start <Return>
```

b-4) nfs クライアントを起動します。

```
RC2000 # /etc/init.d/nfs.client start <Return>
```

8) CD-ROM をマウントします。

host : システムコンソールのホスト名

```
RC2000 # /usr/sbin/mount -F nfs -o ro host:/cdrom/cdrom0 /cdrom
<Return>
```

9) CD-ROM ドライブのディレクトリに移動します。

```
RC2000 # cd /cdrom <Return>
```

10) esfrm コマンドを使用して削除します。

```
RC2000 # bin/esfrm <Return>
```

次に以下のようなメッセージが表示されます。all, part, または no を入力してください。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 2.5 を削除します。

FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
              (sparc) 2.5,REV=2005.02.1800
              :
              :
FJSVparam    System Parameter Diagnosis
              (sparc) 1.0,REV=2003.11.1800

パッケージ名の先頭に"*"の付いたパッケージを削除すると、
システムに問題を生じる場合があります。

全てのパッケージを削除する場合はallを入力してください。
"*"の付いていないパッケージのみ削除する場合は"part"を入力してください。
削除処理を中止する場合は"no"を入力してください。
選択してください。 [all,part or no]:
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility 2.5 will be removed.

FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
              (sparc) 2.5,REV=2005.02.1800
              :
              :
FJSVparam    System Parameter Diagnosis
              (sparc) 1.0,REV=2003.11.1800

There is a possibility to cause problem(s) in the system when the
package(s) where "*" adheres to the head of the package name is
deleted.

Please input "all" when you want to remove all packages,input "part"
when you want to remove only package(s) where "*" ds not adhere,
or input "no" when you want to interrupt the uninstallation.

Please select. [all, no or part]:
```

入力を求めるプロンプトが表示されたら、y を入力して削除を続けてください。ただし、他のパッケージから依存されているパッケージは削除しないでください。依存されているパッケージを削除しようとすると、以下の警告メッセージが表示されます。n を入力してください。

```
WARNING:
  The <pkg> package depends on the package currently
  being removed.
Dependency checking failed.
```



```
Do you want to continue with the removal of this package [y,n,?,q] n
<Return>
```

続けて次のパッケージを削除するかの場合、yを入力してください。

```
Do you want to continue with package removal [y,n,?,q] y <Return>
```

注意 1)

以下のように、パッケージ名の先頭に"*"マークの付いているパッケージが存在する場合は、esfrmを中断してください。そして、"*"が表示される原因を取り除いてください。その後再度esfrmを起動してください。また、オプションとして"*"が付いたパッケージを削除しない"part"があります。

```
Enhanced Support Facility 2.5 を削除します。
FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
              (sparc) 2.5,REV=2005.02.1800
*FJSVwvcnf   WWW Server for Admin View
              (sparc) 2.0.3,REV=2002.04.1800
              :
              :
FJSVdmp      Crash Dump Assistant
              (sparc) 1.5,REV=2002.11.2700
```

パッケージ名の先頭に"*"の付いたパッケージを削除すると、システムに問題を生じる場合があります。

全てのパッケージを削除する場合はallを入力してください。

"*"の付いていないパッケージのみ削除する場合は"part"を入力してください。

削除処理を中止する場合は"no"を入力してください。

選択してください。 [all,part or no]:

注意 2)

FJSVrplib パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されますが、削除に問題はありません。

```
mkdir: Failed to make directory "/opt/FJSVrplib/etc/apply"; No such
file or directory
```

注意 3)

FJSVmadm, FJSVmasv パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されますが、削除に問題はありません。

```
rm: /var/opt/FJSVmadm/xxx/xxxxxxx はディレクトリです。
```

注意 4)

Solaris 2.6, 7, 8, 9 では、SUNWvts パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されることがありますが、削除に問題はありません。

```
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/preremove: usage: kill [ [ -sig ]
id ... | -1 ]
SMM message filter module "msgfltr" not found
```

注意 5)

Solaris 10 では、SUNWvts パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されることがありますが、削除に問題はありません。

```
inetconv: Notice: Service manifest for 100235/1 already generated
as /var/svc/manifest/network/rpc/100235_1-rpc_ticotsord.xml,
skipped
inetconv: Notice: Service manifest for 100083/1 already generated
as /var/svc/manifest/network/rpc/100083_1-rpc_tcp.xml, skipped
inetconv: Notice: Service manifest for 100068/2-5 already generated
as /var/svc/manifest/network/rpc/100068_2-5-rpc_udp.xml, skipped
Sending signal to inetd to read the restored conf file...
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/r.inetdconf: usage: kill [ [ -sig ]
id ... | -1 ]
```

注意 6)

FJSVdef パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されますが、削除に問題はありません。

```
cron may not be running - call your system administrator
```

注意 7)

Solaris 2.6, 7, 8, 9 では、FJSMadm パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されることがありますが、削除に問題はありません。

```
/var/sadm/pkg/FJSMadm/install/preremove: /usr/bin/svcprop: not  
found
```

注意 8)

Solaris 10 のゾーン環境で、パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されることがありますが、削除に問題はありません。

```
pkgm: ERROR: unable to perform preremoval check of package  
<FJSMxxxx> in zone <zonearea>
```

- 11) CD-ROM をアンマウントします。

```
RC2000 # cd / <Return>  
RC2000 # umount /cdrom <Return>
```

- 12) システムをリブートします。

```
RC2000 # /usr/sbin/shutdown -y -g0 -i6 <Return>
```

- 13) CD-ROM を取り出します。

```
system console % eject cdrom <Return>
```

6.2 PRIMEPOWER1/100/200/250/400/450/600/650/850, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R, 富士通 S series および GP-S ファミリーの場合

GP7000S モデル 1000 には CD-ROM ドライブがないため、SSP(System Service Processor)の CD-ROM ドライブを使用してください。

PRIMEPOWER1 には、CD-ROM ドライブが標準で実装されていません。CD-ROM ドライブが実装されていない場合は、他のマシンの CD-ROM ドライブを使用してください。使用方法は、Solaris のドキュメントについて、以下のマニュアルを参照してください。

- Solaris 8 System Administrator Collection - Japanese “Solarisのシステム管理” の “コマンド行での CD の使用方法 (手順)”
- Solaris 8 System Administrator Collection “System Administration Guide”の “Using CDs From the Command Line (Tasks)”
- Solaris 9 System Administrator Collection – Japanese “Solaris のシステム管理 (基本編)” の “リムーバブルメディアへのアクセス (手順)”
- Solaris 9 System Administrator Collection “System Administration Guide: Basic Administration” の “Accessing Removable Media (Tasks)”

注意

- ・ ローカル CD を他のシステムで使用可能にする場合は、`/etc/rmmount.conf` ファイルに以下の行を追加してください。

```
share cdrom* -o ro,anon=0
```

- ・ 本ソフトウェアの削除時には、`root` と `adm` ユーザが `cron` を使用できるように設定されていなければなりません。本ソフトウェアの削除では `root` と `adm` ユーザの権限で `cron` を使用します。デフォルトの設定ではこれらのユーザは `cron` を使用できるようになっているため、設定を変更していなければ確認の必要はありません。ただし、設定を変更していた場合は本ソフトウェアを削除する前に `root` と `adm` ユーザが `cron` を使用できるように再設定してください。(例えば `/etc/passwd` ファイルについて、`adm` ユーザのデフォルトシェルに `/bin/false` が設定されてはいけません。)

- 1) `su` コマンドを実行します。

```
% su <Return>
```

- 2) `root`(スーパー・ユーザ)のパスワードを入力します。

```
Password: password <Return>  
#
```

- 3) OpenBoot 環境に入ります。

```
# /usr/sbin/shutdown -y -g0 -i0 <Return>
```

- 4) システムをシングルユーザ・モードで立ち上げます。

```
{?} ok boot -s <Return>
```

以下のようなメッセージが出ますので、パスワードを入力します。

```
INIT: SINGLE USER MODE  
Type Ctrl-d to proceed with normal startup,  
(or give root password for system maintenance): password <Return>
```

- 5) 必要なファイルシステムをマウントします。

```
# /usr/sbin/mountall -l <Return>
```

- 6) ボリューム管理を起動し、Enhanced Support Facility の CD-ROM 媒体を CD-ROM ドライブに挿入します。

```
# /etc/init.d/volmgt start <Return>  
volume management starting.
```

※ CD-ROM の内容を参照できない場合は付録 D を参照し、手動で CD-ROM のマウント作業を行ってください。

- 7) CD-ROM ドライブのディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0 <Return>
```

8) esfrm コマンドを使用して削除します。

```
# bin/esfrm <Return>
```

次に以下のようなメッセージが表示されます。all, part, または no を入力してください。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 2.5 を削除します。
FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
              (sparc) 2.5,REV=2005.02.1800
              :
              :
FJSVcpupd    CPU patrol diagnosis
              (sparc) 1.3,REV=2002.10.0900
パッケージ名の先頭に "*" の付いたパッケージを削除すると、システムに問題を生じる場合があります。
全てのパッケージを削除する場合は "all" を入力してください。
 "*" の付いていないパッケージのみ削除する場合は "part" を入力してください。
削除処理を中止する場合は "no" を入力してください。
選択してください。 [all, no or part]:
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility 2.5 will be removed.
FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
              (sparc) 2.5,REV=2005.02.1800
              :
              :
FJSVcpupd    CPU patrol diagnosis
              (sparc) 1.3,REV=2002.10.0900
There is a possibility to cause problem(s) in the system when the
package(s) where "*" adheres to the head of the package name is
deleted.
Please input "all" when you want to remove all packages, input "part"
when you want to remove only package(s) where "*" ds not adhere,
or input "no" when you want to interrupt the uninstallation.
Please select. [all, no or part]:
```

入力を求めるプロンプトが表示されたら、y を入力して削除を続けてください。ただし、他のパッケージから依存されているパッケージは削除しないでください。

依存されているパッケージを削除しようとすると、以下の警告メッセージが表示されます。n を入力してください。

```
WARNING:
  The <pkg> package depends on the package currently
  being removed.
Dependency checking failed.

Do you want to continue with the removal of this package [y,n,?,q] n
<Return>
```

続けて次のパッケージを削除するかの問合せがある場合は、y を入力してください。

```
Do you want to continue with package removal [y,n,?,q] y <Return>
```

注意 1)

以下のように、パッケージ名の先頭に "*" マークの付いているパッケージが存在する場合は、esfrm を中断してください。そして、 "*" が表示される原因を取り除いてください。その後再度 esfrm を起動してください。また、オプションとして "*" が付いたパッケージを削除しない "part" があります。

```
Enhanced Support Facility 2.5 を削除します。
FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
              (sparc) 2.5,REV=2005.02.1800
FJSVscdx     System Control Driver (SCF and Fault LED) (64-bit)
              (sparc.sun4us) 1.9.1,REV=2003.11.1100
*FJSVwvcnf   WWW Server for Admin View
              (sparc) 2.0.3,REV=2002.04.1800
              :
              :
FJSVdmp      Crash Dump Assistant
              (sparc) 1.5,REV=2002.11.2700
パッケージ名の先頭に"*"の付いたパッケージを削除すると、システムに問題を生じる場
合があります。
全てのパッケージを削除する場合は"all"を入力してください。
"*"の付いていないパッケージのみ削除する場合は"part"を入力してください。
削除処理を中止する場合は"no"を入力してください。

選択してください。 [all, no or part]:no
```

注意 2)

FJSVrlib パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されますが、削除に問題はありません。

```
mkdir: Failed to make directory "/opt/FJSVrlib/etc/apply"; No such
file or directory
```

注意 3)

FJSVmadm, FJSVmasv パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されま
すが、削除に問題はありません。

```
rm: /var/opt/FJSVmadm/xxx/xxxxxxx はディレクトリです。
```

注意 4)

Solaris 2.6, 7, 8, 9 では、SUNWvts パッケージの削除中に以下のようなメッセージが
表示されることがありますが、削除に問題ははありません。

```
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/preremove: usage: kill [ [ -sig ]
id ... | -1 ]
SMM message filter module "msgfltr" not found
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/preremove: usage: kill [ [ -sig ]
id ... | -1 ]
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/r.inetdconf: usage: kill [ [ -sig ]
id ... | -1 ]
```

注意 5)

Solaris 10 では、SUNWvts パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示さ
れることがありますが、削除に問題ははありません。

```
inetconv: Notice: Service manifest for 100235/1 already generated
as /var/svc/manifest/network/rpc/100235_1-rpc_ticotsord.xml,
skipped
inetconv: Notice: Service manifest for 100083/1 already generated
as /var/svc/manifest/network/rpc/100083_1-rpc_tcp.xml, skipped
inetconv: Notice: Service manifest for 100068/2-5 already generated
as /var/svc/manifest/network/rpc/100068_2-5-rpc_udp.xml, skipped
Sending signal to inetd to read the restored conf file...
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/r.inetdconf: usage: kill [ [ -sig ]
id ... | -1 ]
```

注意 6)

FJSVscr パッケージ、FJSVdef パッケージ及び FJSVcmd パッケージの削除中に以下
のようなメッセージが表示されますが、削除に問題ははありません。

```
cron may not be running - call your system administrator
```

注意 7)

Solaris 2.6, 7, 8, 9 では、FJSVmadm パッケージの削除中に以下のようなメッセージ
が表示されることがありますが、削除に問題ははありません。

```
/var/sadm/pkg/FJSVmadm/install/preremove: /usr/bin/svcprop: not  
found
```

注意 8)

Solaris 10 のゾーン環境で、パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されることがありますが、削除に問題はありません。

```
pkgrm: ERROR: unable to perform preremoval check of package  
<FJSVxxxx> in zone <zonearea>
```

- 9) 以下のコマンドを実行し、Enhanced Support Facility の CD-ROM 媒体を取り出します。

```
# cd / <Return>  
# eject cdrom <Return>
```

- 10) システムをリブートします。

```
# /usr/sbin/shutdown -y -g0 -i6 <Return>
```

付録 A コマンドリファレンス

A.1 esfadd(1M)コマンド

名前

esfadd - Enhanced Support Facility のシステムへのインストール

形式

esfadd [-c] [-R *mountpoint*] [-O *component-group*] [-d *directory*]

機能説明

esfadd は、システムのプラットフォームを自動的に判別し、配布された Enhanced Support Facility 媒体(CD-ROM) から、Enhanced Support Facility をシステムにインストールします。システムに既に古い Enhanced Support Facility または、古い共通パッケージがある場合には、アップデートを行います。

オプション

以下のオプションがあります。

-c

アップデート対象となるパッケージの現在インストールされているバージョンとアップデート予定のバージョンを表示します。

-R *mountpoint*

mountpoint にマウントされているブート環境に Enhanced Support Facility をインストールします。

-O *component-group*

component-group にて指定されたコンポーネントグループのみをインストールします。このオプションは Solaris 8, 9, 10 の場合に有効です。詳細は、付録 G に記載しています。

-d *directory*

Enhanced Support Facility のパッケージが格納されている *directory* を指定します。また、*directory* はフルパスで指定します。

パッケージ格納ディレクトリは、以下のとおりです。

プラットフォーム	OS バージョン	パッケージ格納ディレクトリ
PW-CLZ	Solaris 8	<マウントポイント>/Platform/C_L_Z/8
	Solaris 9	<マウントポイント>/Platform/C_L_Z/9
	Solaris 10	<マウントポイント>/Platform/C_L_Z/10
PW-CMZ	Solaris 8	<マウントポイント>/Platform/C_M_Z/8
	Solaris 9	<マウントポイント>/Platform/C_M_Z/9
	Solaris 10	<マウントポイント>/Platform/C_M_Z/10
PW-CL	Solaris 8	<マウントポイント>/Platform/C_L/8
	Solaris 9	<マウントポイント>/Platform/C_L/9
	Solaris 10	<マウントポイント>/Platform/C_L/10
PW-CM	Solaris 8	<マウントポイント>/Platform/C_M/8
	Solaris 9	<マウントポイント>/Platform/C_M/9
	Solaris 10	<マウントポイント>/Platform/C_M/10
PW-K	Solaris 2.6	<マウントポイント>/Platform/K/2.6
	Solaris 7	<マウントポイント>/Platform/K/7
	Solaris 8	<マウントポイント>/Platform/K/8
	Solaris 9	<マウントポイント>/Platform/K/9
	Solaris 10	<マウントポイント>/Platform/K/10
PW-P	Solaris 8	<マウントポイント>/Platform/P/8
	Solaris 9	<マウントポイント>/Platform/P/9
	Solaris 10	<マウントポイント>/Platform/P/10
PW-T	Solaris 2.6	<マウントポイント>/Platform/T/2.6
	Solaris 7	<マウントポイント>/Platform/T/7
	Solaris 8	<マウントポイント>/Platform/T/8

プラットフォーム	OS バージョン	パッケージ格納ディレクトリ
PW-T	Solaris 9	<マウントポイント>/Platform/T/9
	Solaris 10	<マウントポイント>/Platform/T/10
PW-U	Solaris 8	<マウントポイント>/Platform/U/8
	Solaris 9	<マウントポイント>/Platform/U/9
	Solaris 10	<マウントポイント>/Platform/U/10
GP-S	Solaris 2.6	<マウントポイント>/Platform/S/2.6
	Solaris 7	<マウントポイント>/Platform/S/7
	Solaris 8	<マウントポイント>/Platform/S/8
	Solaris 9	<マウントポイント>/Platform/S/9
	Solaris 10	<マウントポイント>/Platform/S/10

注意

インストール対象の機種と、格納パッケージディレクトリが違う場合には、以下のメッセージを表示して終了します。

```
esfadd: エラー: 指定したパッケージ格納ディレクトリは正しくありません。
```

終了ステータス

以下の終了ステータスが返されます。

- 0 正常終了
- 1 エラー
- 2 Usage または、警告
- 3 中断
- 4 アドミニストレーション
- 10 すべてのパッケージのインストール後のリポート
- 20 このパッケージのインストール後のリポート

関連項目

esfrm(1M), pkgrm(1M), pkgadd(1M)

注意事項

- -c オプションを指定した時、Enhanced Support Facility のインストールは行いません。このオプションは、Enhanced Support Facility のアップデートの時に、アップデート対象となるパッケージを調べるのに使います。
- -O オプションは、Solaris 8、Solaris 9、Solaris 10 に指定できます。
- 複数パッケージがインストールされている場合は以下のメッセージを表示し、インストールが終了されず、システムを修復してから ESF を再インストールしてください。(付録 B.1 参照)

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfadd: エラー: 以下のパッケージは、複数インスタンス インストールされています
SUNWvts SUNWvts.2

インストールを終了します。
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfadd: ERROR: Two or more instances of the following package(s) are
existing on the system.
SUNWvts SUNWvts.2

Exit installation.
```


A.2 esfrm(1M)コマンド

名前

esfrm — Enhanced Support Facility のシステムからの削除

形式

esfrm [-n] [-R *mountpoint*]

機能説明

esfrm は、システムにインストールされている Enhanced Support Facility をシステムから削除します。デフォルトでは、対話モードで動作します。対話モードでは、処理中にプロンプト・メッセージが表示されるため、管理者は処理を確認しながら Enhanced Support Facility を削除できます。-n オプションを指定すると非対話モードになります。本コマンドを起動すると、はじめに削除対象のパッケージリストが表示されます。その後、"all", "no", "part"のいずれかの入力を求めるプロンプトが表示されます。esfrm は、この入力によって以下のように動作します。

1. パッケージリスト中に"*"（警告）マークの付いたパッケージが存在する場合
 - "all"を入力：リストにある全てのパッケージを削除します
 - "no"を入力：アンインストールを中断します
 - "part"を入力："*"の付いていないパッケージを削除します
2. パッケージリスト中に"*"（警告）マークの付いたパッケージが存在しない場合
 - "all"を入力：リストにある全てのパッケージを削除します
 - "no"を入力：アンインストールを中断します
 - "part"を入力："all"と同じです

オプション

以下のオプションがあります。

-n

非対話モードで、Enhanced Support Facility を削除します。対話が必要なパッケージであっても処理を終了せず削除します。

-R *mountpoint*

mountpoint にマウントされているブート環境から Enhanced Support Facility を削除します。

終了ステータス

以下の終了ステータスが返されます。

0	正常終了
1	エラー
2	Usage または、警告
3	中断
4	アドミニストレーション
10	すべてのパッケージの削除後のレポート
20	このパッケージの削除後のレポート

関連項目

esfadd(1M), pkgrm(1M)

注意事項

- 他のオプションソフトウェアのパッケージが、Enhanced Support Facility のパッケージに依存している場合があります。その場合には、パッケージの依存関係の検証で警告メッセージと削除を続けるかどうかの問い合わせメッセージが表示されます。メッセージが表示された場合には、そのパッケージの削除は行わずに次のパッケージの削除を続けてください。
なお、-n オプションを指定した場合には、パッケージの依存関係の検証は行われません。
- "*" (警告) マークは、本ソフトウェア CD に含まれるパッケージより新しいパッケージが、現在のシステムにインストールされている場合に表示されます。該当パッケージを削除すると、本ソフトウェア CD で再インストールしても、現在より古いパッケージとなります。この場合、システムに問題を引き起こす可能性がありますので、注意してください。

A.3 esfver(1M)コマンド

名前

esfver - インストール済 Enhanced Support Facility のバージョン表示

形式

esfver [-l] [-R mountpoint]

機能説明

esfver は、システムにインストールされている Enhanced Support Facility のバージョンを表示します。-l を付けると、各パッケージのバージョンを表示します。

オプション

以下のオプションがあります。

-l

Enhanced Support Facility に含まれる各パッケージのバージョンを表示します

-R mountpoint

mountpoint にマウントされたブート環境にインストールされた Enhanced Support Facility のバージョンを表示します。

終了ステータス

以下の終了ステータスが返されます。

0	正常終了
1	エラー
2	Usage

関連項目

esfadd(1M), esfrm(1M), pkgparam(1)

使用例

例 1

```
# /opt/FJsvbse/bin/esfver

esfver: 情報: インストール済みEnhanced Support Facilityの総合版数
VERSION=2.5 REVISION=2005.02.1500,

ESF_PATCH_VERSION = 2.5A00_20050215

#
```

例 2 各パッケージの確認

```
# /opt/FJSVbse/bin/esfver -l

esfver: 情報: インストール済みEnhanced Support Facilityパッケージの版数

PKGNAME      VERSION      REVISION
-----
FJSVbse      2.5          2005.02.1500
FJSVscdx     1.9.2        2004.12.2100
:
:
FJSVhrm      2.0.3        2005.02.1500
FJSVdcnf     1.0          2005.01.3100
-----

ESF PATCH_VERSION = 2.5A00_20050215

#
```

例 3 パッケージのインスタンスがシステムに複数存在している場合

```
# /opt/FJSVbse/bin/esfver

esfver: 情報: インストール済みEnhanced Support Facilityの総合版数
VERSION=2.5 REVISION=2005.02.1500,

ESF PATCH_VERSION = 2.5A00_20050215

-- 警告 --
次のパッケージのインスタンスがシステムに複数存在しています
FSUNlic FSUNlic.2

#
```

注意)

この場合、速やかにシステムを修復してください。(付録 B.1 参照)

付録 B インストール時のトラブル対応

ケース 1

インストール中に以下のメッセージが表示された場合は

B. 1 パッケージインストールのトラブル対応 1 を参照。

```
esfadd: エラー: 以下のパッケージは、複数インスタンス インストールされています
パッケージ名 パッケージ名.2

インストールを終了します。
```

ケース 2

インストール中に以下のメッセージが表示された場合は

B. 2 パッケージインストールのトラブル対応 2 を参照。

```
A version of the <pkginst> package is already installed on this machine.
Current administration ds not allow new instances of an existing package to
be created, nor existing instances to be overwritten.

No changes were made to the system.
esfadd: ERROR: Installation of packages failed.
```

ケース 3

インストール中に以下のメッセージが表示された場合は

B. 3 パッケージインストールのトラブル対応 3 を参照。

```
#esfadd
:
<pkginst>のインストールに失敗しました (error) 。
システムは変更されていません。
esfadd: エラー:パッケージのインストールに失敗しました。
```

ケース 4

パッケージ削除中に以下のメッセージが表示された場合は

B. 4 パッケージ削除時のトラブル対応 1 を参照。

```
esfrm: エラー: 以下のパッケージは、複数インスタンス インストールされています
パッケージ名 パッケージ名.2

ソフトウェアの削除を終了します。
```

ケース 5

パッケージ削除中に以下のメッセージが表示された場合は

B. 5 パッケージ削除時のトラブル対応 2 を参照。

```
#esfadd
:
<pkginst>の削除に失敗しました。

esfadd: エラー:パッケージの削除に失敗しました。
```

B.1 パッケージインストール時のトラブル対応 1

インストール中に以下のようなメッセージが表示され、インストールが終了してしまう場合があります。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfadd: エラー: 以下のパッケージは、複数インスタンス インストールされています
パッケージ名 パッケージ名.2

インストールを終了します。
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfadd: ERROR: Two or more instances of the following package(s) are
existing on the system.
PACKAGE PACKAGE.2

Exit installation.
```

エラー原因

本メッセージは、表示されたパッケージのインスタンスがシステムに複数存在する場合に表示されます。パッケージのインスタンスがシステムに複数存在する場合、本ソフトウェアでは正常なインストールができません。対処方法として、以下の手順を実行してください。

対処方法

- 1) 問題の起きたパッケージに関して、環境設定ファイルがあれば退避します(5.1.1.2 環境設定ファイルの退避方法または、5.2.1.2 環境設定ファイルの退避方法参照)。既に退避している場合は、再度退避する必要はありません。
- 2) 問題の起きたパッケージのバージョンを調べます。

```
# pkginfo -x パッケージ名.¥* <Return>
```
- 3) 問題の起きたパッケージをすべて削除します。

```
# pkgrm パッケージ名.¥* <Return>
```
- 4) 問題の起きたパッケージが、本製品に含まれているパッケージよりも新しい場合は、新しいパッケージをインストールします。
- 5) “5.1.2 ソフトウェアのインストール” の手順 2.または、“5.2.2 ソフトウェアのインストール” の手順 2. から作業を行います。
- 6) 退避した環境設定ファイルを “5.1.3 インストール後の環境復元” または、“5.2.3 インストール後の環境復元” に従って復元します。

B.2 パッケージインストール時のトラブル対応 2

インストール中に以下のようなメッセージが表示されて、インストールが終了してしまう場合があります。

```
A version of the <pkginst> package is already installed on this machine.
Current administration ds not allow new instances of an existing package to
be created, nor existing instances to be overwritten.

No changes were made to the system.
esfadd: ERROR: Installation of packages failed.
```

トラブル原因

本メッセージは、<pkginst>パッケージのインストールに失敗した場合には表示されます。特に、<pkginst>パッケージのインスタンスがシステムに複数存在する場合には表示されますので、注意してください。対処方法として、以下の手順を実行してください。

注意：

システムの状態に拠っては上記の原因以外でも本メッセージが表示される場合がありますので、原因追求の場合には、他に異常と思われる点が無いかの確認も行ってください。

対処方法

- 1) 問題の起きたパッケージに関して、環境設定ファイルがあれば回避します(5.1.1.2 環境設定ファイルの回避方法または、5.2.1.2 環境設定ファイルの回避方法参照)。既に回避している場合は、再度回避する必要はありません。
- 2) 問題の起きたパッケージのバージョンを調べます。

```
# pkginfo -x パッケージ名.¥* <Return>
```

- 3) 問題の起きたパッケージをすべて削除します。

```
# pkgrm パッケージ名.¥* <Return>
```

- 4) FJSVbse パッケージを削除します

```
# pkgrm FJSVbse <Return>
```

- 5) 問題の起きたパッケージが、本製品に含まれているパッケージよりも新しい場合は、新しいパッケージをインストールします。
- 6) “5.1.2 ソフトウェアのインストール” の手順 2.または、“5.2.2 ソフトウェアのインストール” の手順 2. から作業を行います。
- 7) 回避した環境設定ファイルを“5.1.3 インストール後の環境復元”または、“5.2.3 インストール後の環境復元”に従って復元します。

B.3 パッケージインストール時のトラブル対応 3

インストール中に以下のようなメッセージが表示されて、インストールが終了してしまう場合があります。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
#esfadd
:
<pkginst>のインストールに失敗しました (error) 。
システムは変更されていません。
esfadd: エラー:パッケージのインストールに失敗しました。
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
#esfadd
:
Installation of <pkginst> failed(error).
No changes were made to the system.
```

```
esfadd: ERROR:Installation of packages failed.
```

トラブル原因

本メッセージは、<pkginst>パッケージのインストールに失敗した場合に表示されます。

特に、以下の状況でインストールを行う则表示されますので、注意してください。

1. ディスク容量が不足している(ディスク容量については、3.3.1 必要とするディスク容量参照)。
2. CD-ROM を NFS 経由でマウントしてインストールしている際、NFS マウント際のオプションが適切に指定されていない。
3. インストールガイドの手順外のオペレーションを行った。

注意：

システムの状態に拠っては上記の原因以外にも本メッセージが表示される場合がありますので、原因追求の場合には、他に異常と思われる点が無いかの確認も行ってください。

対処方法

1. 問題の起きたパッケージに関して、環境設定ファイルがあれば退避します。(5.1.1.2 環境設定ファイルの退避方法または、5.2.1.2 環境設定ファイルの退避方法参照) 既に退避している場合は、再度退避する必要はありません。
2. 問題の起きたパッケージを削除します。

```
# pkgrm パッケージ名 <Return>
```

- 3) FJSVbse パッケージを削除します。

```
# pkgrm FJSVbse <Return>
```

- 4) “5.1.2 ソフトウェアのインストール” の手順 2.または、“5.2.2 ソフトウェアのインストール” の手順 2. から作業を行います。
- 5) 退避した環境設定ファイルを“5.1.3 インストール後の環境復元”または、“5.2.3 インストール後の環境復元”に従って復元します。

注意：

手順3でFJSVbseパッケージを削除しても、/opt/FJSVbse 以下のディレクトリが削除されない場合がありますが、動作上問題はありません。

B.4 パッケージ削除時のトラブル対応 1

本ソフトウェアの削除中に以下のようなメッセージが表示されて、インストールが終了してしまう場合があります。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfrm: エラー: 以下のパッケージは、複数インスタンス インストールされています
パッケージ名 パッケージ名.2

ソフトウェアの削除を終了します.
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfrm: ERROR: Two or more instances of the following package(s) are existing
on the system.
PACKAGE PACKAGE.2

Exit installation.
```

エラー原因

本メッセージは、表示されたパッケージのインスタンスがシステムに複数存在する場合に表示されません。パッケージのインスタンスがシステムに複数存在する場合、本ソフトウェアでは正常な削除ができません。対処方法として、以下の手順を実行してください。

対処方法

- 1) 問題の起きたパッケージを削除します。

```
# pkgrm パッケージ名.* <Return>
```

- 2) “6.1PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000F モデル 1000/2000 の場合” の手順 13.または、“6.2 PRIMEPOWER1/100/200/250/400/450/600/650/850, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R, 富士通 S series および GP-S ファミリーの場合” の手順 8.から再

度削除を行います。

B.5 パッケージ削除時のトラブル対応 2

インストール中に以下のようなメッセージが表示されて、インストールが終了してしまう場合があります。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
#esfadd
:
<pkginst>の削除に失敗しました。

esfadd: エラー:パッケージの削除に失敗しました。
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
#esfadd
:Removal of <pkginst> failed.

esfadd: ERROR:Removed of packages failed.
```

トラブル原因

本メッセージは、<pkginst>パッケージのアンインストールに失敗した場合に表示されます。

特に以下の状況でアンインストールを行うと表示されますので、注意してください。

1. 他のパッケージとの依存関係が存在する。
2. パッケージが壊れている。
3. インストールガイドの手順外のオペレーションを行った。

注意：

システムの状態に拠っては上記の原因以外でも本メッセージが表示される場合がありますので、原因追求の場合には、他に異常と思われる点が無いかの確認も行ってください。

対処方法

1. 問題の起きたパッケージに関して、環境設定ファイルがあれば退避します。(5.1.1.2 環境設定ファイルの退避方法または、5.2.1.2 環境設定ファイルの退避方法参照) 既に退避している場合は、再度退避する必要はありません。
2. 問題の起きたパッケージのバージョンを削除します。

```
# pkgrm パッケージ名 <Return>
```

- 3) FJSVbse パッケージを削除します。

```
# pkgrm FJSVbse <Return>
```

- 4) “5.1.2 ソフトウェアのインストール” の手順 2.または、“5.2.2 ソフトウェアのインストール” の手順 2. から作業を行います。
- 5) 退避した環境設定ファイルを“5.1.3 インストール後の環境復元”または、“5.2.3 インストール後の環境復元”に従って復元します。

注意：

手順3でFJSVbseパッケージを削除しても、/opt/FJSVbse 以下のディレクトリが削除されない場合もありますが、動作上問題はありません。

付録 C CPU パフォーマンスカウンタのインストールと削除

C.1 CPU パフォーマンスカウンタのインストール（アップグレードも含む）

注意：OS のレベルが Solaris 8 10/01 またはそれ以降のシステムの場合は、以下の操作は行わないでください。

- (1) PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000F モデル 1000/2000 の場合

インストール方法は“5.1 PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000F モデル 1000/2000 の場合”で示されたインストール手順に従って行います。ただし、一部インストール手順を変更また追加する必要がありますので、以下の点にご注意下さい。

- a) CPU パフォーマンスカウンタのみをインストールする場合
“5.1.2 ソフトウェアのインストール”の“2. esfadd コマンドを使用して、インストールします”の手順の代わりに、以下の“FJSVcpc のインストール手順”を実行してください。
- b) Enhanced Support Facility ソフトウェアと同時にインストールする場合
“5.1.2 ソフトウェアのインストール”の“2. esfadd コマンドを使用して、インストールします”の手順の直後に、以下の“FJSVcpc のインストール手順”を実行してください。

- FJSVcpc のインストール手順

1. 既にインストール済みの FJSVcpc が存在するか確認します。

```
RC2000 # pkginfo FJSVcpc <Return>
```

FJSVcpcがインストール済みならば、以下のメッセージが出力されます。

```
system FJSVcpc CPU Performance Counter package
```

FJSVcpcがインストールされていない場合は、以下のメッセージが出力されます。

```
ERROR: information for "FJSVcpc" was not found
```

2. インストール済みのFJSVcpcが存在した場合、以下のコマンドを入力して、一旦削除します。FJSVcpcが存在しない場合は、何もせずに 手順3. へ進んでください

```
RC2000 # pkgrm FJSVcpc <Return>
```

3. FJSVcpcパッケージをインストールします。

```
RC2000 # pkgadd -d .pkg/8 FJSVcpc <Return>
```

※ pkgadd(1M)コマンド及び pkginfo(1M)コマンドの詳細については、オンラインマニュアルを参照ください。

- (2) PRIMEPOWER200/400/600/650/850, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R の場合

インストール方法は“5.2 PRIMEPOWER1/100/200/250/400/450/600/650/850, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R, 富士通 S series および GP-S ファミリーの場合”で示されたインストール手順に従って行います。ただし、一部インストール手順を変更また追加する必要がありますので、以下の点にご注意下さい。

- a) CPU パフォーマンスカウンタのみをインストールする場合
“5.2.2 ソフトウェアのインストール”の“2. esfadd コマンドを使用して、インストールします”の手順の代わりに、以下の“FJSVcpc のインストール手順”を実行してください。
- b) Enhanced Support Facility ソフトウェアと同時にインストールする場合
“5.2.2 ソフトウェアのインストール”の“2. esfadd コマンドを使用して、インストールします”の手順の直後に、以下の“FJSVcpc のインストール手順”を実行してください。

- FJSVcpc のインストール手順

1. 既にインストール済みの FJSVcpc が存在するか確認します。

```
# pkginfo FJSVcpc <Return>
```

FJSVcpcがインストール済みならば、以下のメッセージが出力されます。

```
system FJSVcpc CPU Performance Counter package
```

FJSVcpcがインストールされていない場合は、以下のメッセージが出力されます。

```
ERROR: information for "FJSVcpc" was not found
```

2. インストール済みのFJSVcpcが存在した場合、以下のコマンドを入力して、一旦削除します。FJSVcpcが存在しない場合は、何もせずに 手順3. へ進んでください。

```
# pkgrm FJSVcpc <Return>
```

3. FJSVcpcパッケージをインストールします。

```
# pkgadd -d .pkg/8 FJSVcpc <Return>
```

※ pkgadd(1M)コマンド及び pkginfo(1M)コマンドの詳細については、オンラインマニュアルを参照ください。

C.2 CPU パフォーマンスカウンタの削除

注意：OSのレベルが Solaris 8 10/01 またはそれ以降のシステムの場合は、以下の操作は行わないでください。

- (1) PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000F モデル 1000/2000 の場合

削除は "6.1 PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000F モデル 1000/2000 の場合" で示された削除方法に従って行います。ただし、一部削除方法を変更または追加する必要がありますので、以下の点にご注意下さい。

- a) CPU パフォーマンスカウンタのみを削除する場合

"6.1 PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000F モデル 1000/2000 の場合" の "13. esfrm コマンドを使用して、削除します" の手順の代わりに、以下のコマンドを実行してください。

```
RC2000 # pkgrm FJSVcpc <Return>
```

- b) Enhanced Support Facility ソフトウェアと同時に削除する場合

"6.1 PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000F モデル 1000/2000 の場合" の "13. esfrm コマンドを使用して、削除します" の手順の直後に、以下のコマンドを実行してください。

```
RC2000 # pkgrm FJSVcpc <Return>
```

※ pkgrm(1M)コマンドの詳細については、オンラインマニュアルを参照ください。

- (2) PRIMEPOWER200/400/600/650/850, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R の場合

削除は "6.2 PRIMEPOWER1/100/200/250/400/450/600/650/850, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R, 富士通 S series および GP-S ファミリーの場合" で示された削除方法に従って行います。ただし、一部削除方法を変更または追加する必要がありますので、以下の点にご注意下さい。

- a) CPU パフォーマンスカウンタのみを削除する場合

"6.2 PRIMEPOWER1/100/200/250/400/450/600/650/850, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R, 富士通 S series および GP-S ファミリーの場合" の "8. esfrm コマンドを使用して、削除します" の手順の代わりに、以下のコマンドを実行してください。

```
# pkgrm FJSVcpc <Return>
```

- b) Enhanced Support Facility ソフトウェアと同時に削除する場合

"6.2 PRIMEPOWER1/100/200/250/400/450/600/650/850, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R, 富士通 S series および GP-S ファミリーの場合" の "8. esfrm コマンドを使用して、削除します" の手順の直後に、以下のコマンドを実行してください。

```
# pkgrm FJSVcpc <Return>
```

※ pkgrm(1M)コマンドの詳細については、オンラインマニュアルを参照ください。

付録 D シングルユーザ・モードにおける CD-ROM の手動マウントについて

Solaris 9, 10 への Enhanced Support Facility のインストール手順において、CD-ROM の内容が参照できない場合、以下の対処方法を行ってください。

対処方法

1. CD-ROM のマウント先ディレクトリを作成します。ただし、すでに存在している場合はこの作業は必要ありません。

```
# mkdir /cdrom/cdrom0 <Return>
```

2. CD-ROM をマウントします。<CDROM_DEVICE>には使用する CD-ROM デバイスを指定します。

```
# mount -F hsfs /dev/dsk/<CDROM_DEVICE> /cdrom/cdrom0 <Return>
```

3. CD-ROM のディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0 <Return>
```

以上の作業を行うと CD-ROM が参照できるようになります。

なお、CD-ROM を取り出すには、以下の手順にてアンマウントを行ってください。

- 1) ディレクトリを移動します。

```
# cd / <Return>
```

- 2) CD-ROM をアンマウントします。

```
# umount /cdrom/cdrom0 <Return>
```

- 3) CD-ROM をイジェクトします。

付録 E Solaris Live Upgrade について

Enhanced Support Facility 2.4.1 より、Solaris Live Upgrade に対応しています。Solaris Live Upgrade を利用し、本製品のアップデートを行うことができます。また、本ソフトウェアがインストールされたシステムのオペレーティング環境を、Solaris Live Upgrade を用いてアップグレードする場合には、本付録に記載されていますアップグレード手順の実施が必要となります。

Solaris Live Upgrade に対応していない Enhanced Support Facility のコンポーネントがインストールされたシステムに対して Enhanced Support Facility のインストールまたは削除を実行すると、複製したブート環境だけでなく稼働中のシステム環境にも支障がでる可能性があります。本付録の内容をご理解頂いた上で Enhanced Support Facility の Solaris Live Upgrade を実行してください。

Solaris Live Upgrade については、Sun Microsystems, Inc. 発行のドキュメントを参照してください。

また、作業を行う前にアップグレード予定のオペレーティングシステムに合わせたバージョンの Solaris Live Upgrade をインストールして下さい。

E.1 制約事項

Enhanced Support Facilityには、Solaris Live Upgradeについて以下の制約事項があります。

- 稼働中のシステムにインストールされている本ソフトウェアの版数は、Enhanced Support Facility 2.4.1 またはそれ以降でなければSolaris Live Upgradeを使用できません。
- Enhanced Support Facility 2.3以前からアップデートインストールを用いてEnhanced Support Facility 2.4.1以降をインストールしているシステムでは、Solaris Live Upgradeは使用できません。
- Solaris 8 2/02 からSolaris 9 へのOSのアップデートおよびSolaris 9 からそれ以降の新リリースのSolaris 9 へのSolaris Live Upgrade のみ対応していますので、Solaris 2.6 , Solaris 7 , Solaris 8 10/01 またはそれ以前の場合、Solaris Live Upgradeを利用することはできません。
- Enhanced Support Facilityのアップデートインストールは使用できません。
- 対応している機種は以下のとおりです
 - PW-K(FJSV,GPUSK) : PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000
 - PW-T(FJSV,GPUS) : PRIMEPOWER200/400/600, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R
 - PW-U(FJSV,GPUU) : PRIMEPOWER1/100
 - PW-CM(FJSV,GPUSC-M) : PRIMEPOWER650(SPARC64™ GP 搭載モデル)/850(SPARC64™ GP 搭載モデル)
 - PW-CMZ(FJSV,GPUZC-M) : PRIMEPOWER650(SPARC64™ V 搭載モデル)/850(SPARC64™ V 搭載モデル)
 - PW-CL(FJSV,GPUSC-L) : PRIMEPOWER1500(SPARC64™ GP 搭載モデル)
 - PW-CLZ(FJSV,GPUZC-L) : PRIMEPOWER900/1500(SPARC64™ V 搭載モデル)/2500/HPC2500
 - PW-P(FJSV,GPUZC-M) : PRIMEPOWER250/450
 - GP-S(SUNW) : 富士通 S series, GP-S ファミリー

E.2 アップデート手順

Solaris Live Upgrade を以下の手順で行う事により、Enhanced Support Facility をアップグレードさせることができます。

- 1) 新ブート環境を作成し、マウントを行います。
- 2) Enhanced Support Facility の環境を確認し、環境設定ファイルの退避をします。
- 3) 新ブート環境から Enhanced Support Facility を削除します。
- 4) 新ブート環境のマウントを解除します。
- 5) 新ブート環境の Solaris 、またはその他のソフトウェアパッケージのアップデートを行います。
- 6) 新ブート環境をマウントします。
- 7) 新ブート環境に Enhanced Support Facility を新規にインストールします。
- 8) 退避していた環境設定ファイルを新ブート環境に復元します。
- 9) 新ブート環境のマウントの解除およびアクティベートを行いブート環境を切り換えます。
- 10) 残りの環境設定ファイルを新ブート環境に復元します。

より詳細な手続きは以下のセクションを参照してください。

E.2.1 新ブート環境の作成準備および環境の確認

Solaris Live Upgradeに対応していないコンポーネント（パッケージ）がインストールされたシステムに対してSolaris Live Upgradeを行った場合、複製した非アクティブブート環境だけでなくアクティブブートのシステム環境にも支障がでる可能性があります。事前にシステム環境の確認を必ず行ってください。アップデートを行う対象にESF2.3以前のESFがインストールされている場合には、Solaris Live UpGradeに対応していません。

以下の操作は、ESF2.4.1以降がインストールされたシステムで行ってください。

E.2.1.1 Enhanced Support Facility CD-ROM のマウント

PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000Fモデル1000/2000の場合は、システムコンソールに接続されているCD-ROMドライブを使ってインストールします。

- 1) Enhanced Support Facility の CD-ROM を、システムコンソールに接続されている CD-ROM ドライブに挿入します。
- 2) CD-ROM をマウントします。

host : システムコンソールのホスト名

```
# mkdir -p /cdrom <Return>
# /usr/sbin/mount -F nfs -o ro host:/cdrom/cdrom0 /cdrom <Return>
```

PRIMEPOWER1/100/200/250/400/450/600/650/850, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R, 富士通 S series および GP-S ファミリーの場合は、Enhanced Support Facility の CD-ROM 媒体を CD-ROM ドライブに挿入します。CD-ROM ドライブが標準で実装されていないマシンを使用する場合の手順については“5.2 PRIMEPOWER1/100/200/250/400/450/600/650/850, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R, 富士通 S series および GP-S ファミリーの場合”を参照してください。

E.2.1.2 システム環境の確認

1. CD-ROM ドライブのディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0 <Return>
```

または

```
# cd /cdrom <Return>
```

2. 稼働中のシステムにインストールされている Enhanced Support Facility の版数を調べます。

```
# bin/esfver <Return>
```

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

例) Enhanced Support Facility 2.4.1 がインストールされている場合

```
esfver: 情報: インストール済みEnhanced Support Facilityの総合版数
VERSION=2.4.1 REVISION=2004.05.2600,
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

例) Enhanced Support Facility 2.4.1 がインストールされている場合

```
esfver: INFO: Integrated Version of already installed Enhanced Support
Facility.
VERSION=2.4.1 REVISION=2004.05.2600,
```

表示された VERSION を確認します。表示された版数が 2.4.1 より前の場合には、Solaris Live Upgrade はできません。

3. 稼働中のシステムにインストールされている Enhanced Support Facility の各パッケージ版数を調べます。

```
# bin/esfver -l <Return>
```

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfver: 情報: インストール済みEnhanced Support Facilityパッケージの版数
PKGNAME      VERSION      REVISION
-----
FJSVbse      2.4.1        2004.05.2600
FJSVscdx     1.9.1        2003.11.1100
:
```

```

      :
FJSVcpupd  1.3      2003.10.0900
-----

```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```

esfver: INFO: Individual Packages Version of already installed
Enhanced Support Facility.
PKGNAME      VERSION      REVISION
-----
FJSVbse      2.4.1        2004.05.2600
FJSVscdx     1.9.1        2003.11.1100
      :
      :
FJSVcpupd    1.3          2003.10.0900
-----

```

インストールされている Enhanced Support Facility の各パッケージが表示されます。表示された各パッケージについて、本文“1.構成プログラム”の表に記載された各パッケージの版数と同じであるかまたは新しいことを確認してください。

E.2.1.3 注意事項

注意事項については、“4. 制限、注意事項”を参照してください。

E.3 新ブート環境の作成とソフトウェアの削除

オペレーティングシステムのアップグレードを行う前に非アクティブブート環境より全てのコンポーネントを一旦削除します。このため、オペレーティングシステムのアップグレードの前に、各コンポーネントの環境設定ファイルを、退避します。

E.3.1 新ブート環境の作成とマウント

1. **lucreate** コマンドを使用し新ブート環境を作成します。
 ※Solaris Live Upgradeのインストールおよび新ブート環境の作成については、Sun Microsystems, Inc. 発行のドキュメントを参照して下さい。
2. 作成した新ブート環境をマウントします。
ALTERNATIVE: ブート環境名

```
# /usr/sbin/lumount ALTERNATIVE <Return>
```

マウントポイントが通知されます。

```
/.alt.ALTERNATIVE
```

E.3.2 環境設定ファイルの退避

E.3.2.1 環境設定ファイルがあるパッケージ

インストールされているパッケージのうち、環境設定ファイルがあるパッケージがあるか確認してください。環境設定ファイルがあるパッケージがある場合は、環境設定ファイルを退避してください。インストールされているパッケージについては、“5.2.1.1 システム環境の確認”手順3を参照してください。

PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000F モデル 1000/2000 の場合、環境設定ファイルがあるパッケージは以下のとおりです。

パッケージ名	環境ファイル
FJSVdr FJSVdremd	/etc/opt/FJSVdr/reply/C/dr_op
FJSVscr2 FJSVscu2 FJSVscr3 FJSVscu3	/etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property /etc/opt/FJSVhwr/scf.conf /etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf

パッケージ名	環境ファイル
FJSVwvbs	環境設定ファイルの退避/復元を行う <code>wvEnvsave</code> コマンドを提供しています。
FJSVmasv FJSVmaom FJSVkmnd FJSVcmnd	環境設定ファイルの退避/復元を行う <code>savelogs</code> コマンドを提供しています。
FJSVapcs	<code>/var/opt/FJSVapcs/*</code>

PRIMEPOWER1/100/200/250/400/450/600/650/850, GP7000Fモデル200/200R/400/400R/400A/600/600R, 富士通S seriesおよびGP-Sファミリーの場合は、環境設定ファイルがあるパッケージは以下のとおりです。

パッケージ名	環境ファイル
FJSVscr.us FJSVlscr FJSVscr3 FJSVpscr	<code>/etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property</code> <code>/etc/opt/FJSVhwr/scf.conf</code>
FJSVwvbs	環境設定ファイルの退避/復元を行う <code>wvEnvsave</code> コマンドを提供しています。
FJSVmand FJSVmarm FJSVmasv FJSVrlib FJSVragt FJSVrmaos FJSVcmrm FJSVcmnd FJSVpmrm FJSVpmnd	環境設定ファイルの退避/復元を行う <code>savelogs</code> コマンドを提供しています。
FJSVapcs	<code>/var/opt/FJSVapcs/*</code>

E.3.2.2 環境設定ファイルの退避手順

1. PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000F モデル 1000/2000 の場合:

Dynamic Reconfiguration 機能に関する設定ファイルを退避します。

Dynamic Reconfiguration 機能を使用しており、かつ、リブライファイルを変更している場合は、リブライファイルを退避します。リブライファイルに関しては、「Dynamic Reconfiguration ユーザーズガイド 3.6.2 リブライファイル」を参照願います。

```
RC2000 # cp /etc/opt/FJSVdr/reply/C/dr_op 退避ファイル名 <Return>
```

SCF ドライバに関する設定ファイルを退避します。

- PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000F モデル 1000/2000 の場合

```
RC2000 # cd /.alt.ALTERNATIVE <Return>
RC2000 # ls ./etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf | cpio -o -O 退避ファイル名
<Return>
```

- PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合

```
RC2000 # cd /.alt.ALTERNATIVE <Return>
RC2000 # ls ./etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property ./etc/opt/FJSVhwr/
scfconf ./etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf | cpio -o -O 退避ファイル名 <Return>
```

Web-Based Admin View /WWW Server for Admin View を使用している場合は、`wvEnvsave` コマンドを使用して `FJSVwvbs` パッケージの環境設定ファイルを退避します。

```
RC2000 # /etc/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvEnvsave 退避ファイル名 <Return>
```

マシン管理またはリモートサポートを使用している場合は、`savelogs` コマンドを使用して、マシン管理およびリモートサポートを構成しているパッケージの環境設定ファイルを退避します。

```
RC2000 # /usr/sbin/FJSVadm/savelogs -mo 退避ディレクトリ名 <Return>
```

自動電源制御を使用している場合は、`FJSVapcs` パッケージの環境設定ファイルを退避します。

```
RC2000 # cd / <Return>
RC2000 # find /var/opt/FJSVapcs/ -print -depth | /usr/bin/cpio -o -O
退避先ファイル名 <Return>
```

PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合は、システムコンソールへの接続情報ファイルを退避します。

```
RC2000 # cp /etc/FJSVscslhostname 退避ファイル名<Return>
```

- PRIMEPOWER1/100/200/250/400/450/600/650/850, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R, 富士通 S series および GP-S ファミリーの場合:

SCF ドライバに関する設定ファイルを退避します。(富士通 S series および GP-S ファミリーは除く)

```
# cd /.alt.ALTERNATIVE <Return>
# ls /etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property /etc/opt/FJSVhwr/scf.conf |
cpio -o -O 退避ファイル名 <Return>
```

Web-Based Admin View /WWW Server for Admin View を使用している場合は、wvEnvsave コマンドを使用して FJSVwvbs パッケージの環境設定ファイルを退避します。

```
# /etc/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvEnvsave 退避ファイル名 <Return>
```

マシン管理またはリモートサポートを使用している場合は、savelogs コマンドを使用して、マシン管理およびリモートサポートを構成しているパッケージの環境設定ファイルを退避します。

```
# /usr/sbin/FJSVadm/savelogs -mo 退避ディレクトリ名 <Return>
```

自動電源制御を使用している場合は、FJSVapcs パッケージの環境設定ファイルを退避します。(富士通 S series および GP-S ファミリーは除く)

```
# cd / <Return>
# find /var/opt/FJSVapcs/ -print -depth | cpio -o -O 退避ファイル名
<Return>
```

E.3.3 新ブート環境からのソフトウェアの削除

- CDROM のマウントされたディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0 <Return>
```

または

```
# cd /cdrom <Return>
```

- 新ブート環境から Enhanced Support Facility を削除します。

/.alt.ALTERNATIVE: ブート環境のマウントポイント

```
# bin/esfrm -R /.alt.ALTERNATIVE <Return>
```

注意 1

マウントポイントの指定では、最後に"/"を付けしないでください。

誤: # bin/esfrm -R /.alt.ALTERNATIVE/ <Return>

以下のようなメッセージが表示されます。all, part, または no を入力してください。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 2.4.1 を削除します。

FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
:
:
FJSVcpupd    CPU patrol diagnosis
              (sparc) 1.3,REV=2003.10.0900

パッケージ名の先頭に"*"の付いたパッケージを削除すると、
システムに問題を生じる場合があります。
全てのパッケージを削除する場合は"all"を入力して下さい。
削除処理を中止する場合は"no"を入力して下さい。
"*"の付いていないパッケージのみ削除する場合は"part"を入力して下さい。

選択して下さい。 [no,all or part]:
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合


```
Enhanced Support Facility 2.4.1 will be removed.

FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
              (sparc) 2.4.1,REV=2004.05.2600
              :
              :
FJSVcpupd    CPU patrol diagnosis
              (sparc) 1.3,REV=2003.10.0900

There is a possibility to cause problem in the system when the
packages where "*" adheres to the head of the package name is deleted.

Please input "all" when you want to remove all packages,input "no"
when you want to interrupt the uninstallation, or input "part" when
you want to remove only packages where "*" ds not adhere.

Please select. [no,all or part]:
```

続いて、-Rオプションが指定されていることの確認をもとめられます。yesを入力してください。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
- 重要な確認 -

/.alt.ALTERNATIVEにRemote Install対応していない本ソフトウェアの古いパッケージ
が存在する場合、
インストール先システムだけでなく、現在稼働中のシステムも破壊される可能性があります。
インストールガイドの手順に従い、必ずパッケージのバージョンを確認してください。

インストールガイドをご参照の上、パッケージのバージョン確認をしましたか？
[yes or no ?]:
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
- Important confirmation -
When some ESF packages which can not support to Remote Install exist
in /.alt.ALTERNATIVE,there is a possibility that not only the
installation target system but also the system operating now may be
destroyed.
You should delete those packages from /.alt.ALTERNATIVE according to
the INSTALLATION GUIDE.

Have you Referred to the INSTALLATION GUIDE and confirmed the package
versions [yes or no ?]:
```

入力を求めるプロンプトが表示されたら、yを入力して削除を続けてください。ただし、他のパッケージから依存されているパッケージは削除しないでください。

依存されているパッケージを削除しようとすると、以下の警告メッセージが表示されます。nを入力してください。

注意 2

以下のように、パッケージ名の先頭に"*"マークの付いているパッケージが存在する場合は、esfrm を中断してください。そして、"*"が表示される原因を取り除いてください。その後再度 esfrm を起動してください。また、オプションとして"*"が付いたパッケージを削除しない"part"があります。

```
Enhanced Support Facility 2.4.1 を削除します。
FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
              (sparc) 2.4.1,REV=2004.05.2600
*FJSVwvcnf   WWW Server for Admin View
              (sparc) 2.0.3,REV=2002.04.1800
              :
              :
FJSVdmp      Crash Dump Assistant
              (sparc) 1.5,REV=2002.11.2700

パッケージ名の先頭に"*"の付いたパッケージを削除すると、
システムに問題を生じる場合があります。
```

```
全てのパッケージを削除する場合はallを入力してください。
"*"の付いていないパッケージのみ削除する場合は"part"を入力してください。
削除処理を中止する場合は"no"を入力してください。
選択してください。 [all,part or no]:
```

注意 3

SUNWvts パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されることがありますが、削除に問題はありません。

```
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/preremove: usage: kill [ [ -sig ] id ...
| -l ]
SMM message filter module "msgfltr" not found
```

注意 4

FJSVdef パッケージの削除中に以下のようなメッセージが表示されますが、削除に問題はありません。

```
cron may not be running - call your system administrator
```

注意 5

インストール先ブート環境に旧版のパッケージが存在した場合、インストールが中断する場合があります。この場合 Solaris Live Upgrade を使用せず、"5.インストール手順"にて記載された手順にてアップデートを行ってください。

※表示されたパッケージを/.alt.**ALTERNATIVE** から pkgrm コマンドを用いて削除した場合、現在稼働中のシステムが破壊される可能性があります。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfadd: エラー: /.alt.ALTERNATIVEに、以下の古いESFパッケージが存在して
いるため、インストールができません
```

PACKAGENAME

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
ERROR: Failed to install. The following old ESF packages already
exists in /.alt.ALTERNATIVE
```

PACKAGENAME

E.3.4 新ブート環境のアンマウント

1. ディレクトリを移動します。

```
# cd / <Return>
```

2. 新ブート環境をアンマウントします。

ALTERNATIVE: ブート環境名

```
# /usr/sbin/luumount ALTERNATIVE <Return>
```

E.4 オペレーティング環境のアップグレード

Solaris Live Update を用いてシステムのオペレーティング環境のアップグレード等をおこなってください。

※ Solaris のアップグレードについては、Sun Microsystems, Inc.発行のドキュメントを参照して下さい。

E.5 ソフトウェアのインストール

アップグレードを行った新ブート環境に本ソフトウェアをインストールします。

E.5.1 新ブート環境のマウント

1. 作成した新ブート環境をマウントします。

ALTERNATIVE: ブート環境名

```
# /usr/sbin/lumount ALTERNATIVE <Return>
```

マウントポイントが通知されます。

```
/.alt.ALTERNATIVE
```

E.5.2 新ブート環境へのソフトウェアのインストール

1. CD-ROM のマウントされたディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0 <Return>
```

または

```
# cd /cdrom <Return>
```

2. 新ブート環境へ Enhanced Support Facility をインストールします。
/.alt.ALTERNATIVE: ブート環境のマウントポイント

```
# bin/esfadd -R /.alt.ALTERNATIVE <Return>
```

注意 1

マウントポイントの指定では、最後に"/"を付けないでください。

誤: # bin/esfadd -R /.alt.ALTERNATIVE/ <Return>

以下のようなメッセージが表示されます。表示された内容を確認し、正しければyesを入力します。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

例) Enhanced Support Facility2.4.1 PRIMEPOWER200 の場合

```
Enhanced Support Facility 2.4.1 をインストールします。
INSTALL-ROOT: /.alt.ALTERNATIVE
プラットフォーム: FJSV,GPUS
OS Release: Solaris9
上記設定で、インストールしますか? [yes or no ?]:
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

例) Enhanced Support Facility2.4.1 PRIMEPOWER200 の場合

```
Enhanced Support Facility 2.4.1 will be installed.
INSTALL-ROOT: /.alt.ALTERNATIVE
Platform: FJSV,GPUS
OS Release: Solaris9
Do you want to continue with this installation? [yes or no ?]:
```

続いて、-R オプションが指定されていることを確認してきます。yesを入力して下さい。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
-注意: -R オプション-
上記設定で、インストールしますか? [yes or no ?]:
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
NOTE: -R option
Do you want to continue with this installation? [yes or no ?]:
```

注意 1

インストール中に以下のようなメッセージが表示された場合は、n を入力し、インストールを中断してください。

```
A version of the <pkginst> package is already installed on this
machine. Current administration ds not allow new instances of an
existing package to be created, nor existing instances to be
overwritten.

No changes were made to the system.

There are n more packages to be installed.

Do you want to continue with installation [y,n,?]
```

注意 2

Solaris 9, Solaris 10 では、SUNWvts パッケージのインストール中に以下のようなメッセージが表示されますが、インストールに問題はありません。

```
/var/sadm/pkg/SUNWvts/install/inetdconf: usage: kill [ [ -sig
```

```
] id ... | -1 ]
```

注意 3

FJSVscr パッケージ及び FJSVdef パッケージのインストールに以下のようなメッセージが表示されますが、インストールに問題はありません。

```
cron may not be running - call your system administrator
```

E.6 新ブート環境への環境の復元

パッケージの設定ファイルを復元します。稼働中のシステムの環境設定ファイルを退避している場合だけ必要な作業です。

Web-Based Admin View /WWW Server for Admin Viewの環境設定ファイル復元は、新ブート環境にてシステムを起動後に行います。

`/.alt.ALTERNATIVE` : ブート環境のマウントポイント

1. PRIMEPOWER800/900/1000/1500/2000/2500/HPC2500, GP7000F モデル 1000/2000 の場合:

Dynamic Reconfiguration 機能に関する設定ファイルを復元します。

退避したリプライファイルを参考に、`/etc/opt/FJSVdr/reply/C/dr_op`を再編集します。Enhanced Support Facilityのアップグレードによりリプライメッセージが追加されることがありますので、「Dynamic Reconfiguration ユーザーズガイド 6.1.3.3 もしくは7.1.3.3 問い合わせメッセージ」を参照して変更してください。

SCFドライバに関する設定ファイルを復元します。

- PRIMEPOWER800/1000/2000, GP7000Fモデル1000/2000の場合

```
RC2000 # cd /.alt.ALTERNATIVE <Return>
RC2000 # cpio -iu -I 退避ファイル名 <Return>
RC2000 # chown root ./etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf <Return>
RC2000 # chgrp root ./etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf <Return>
```

- PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500の場合

```
RC2000 # cd /.alt.ALTERNATIVE <Return>
RC2000 # cpio -iu -I 退避ファイル名 <Return>
RC2000 # chown root ./etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property ./etc/opt/FJSVhwr/scf.conf ./etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf <Return>
RC2000 # chgrp sys ./etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property ./etc/opt/FJSVhwr/scf.conf <Return>
RC2000 # chgrp root ./etc/opt/FJSVhwr/adrc.conf <Return>
```

自動電源制御の環境設定ファイルを復元します。

```
RC2000 # cd / <Return>
RC2000 # find var/opt/FJSVapcs/ -print -depth | cpio -pud
/.alt.ALTERNATIVE <Return>
```

savelogs コマンドを使用して、マシン管理およびリモートサポートの環境設定ファイルを復元します。

```
RC2000 # /usr/sbin/FJSVadm/savelogs -r -R /.alt.ALTERNATIVE 退避ディレクトリ名 <Return>
```

PRIMEPOWER900/1500/2500/HPC2500 の場合は、システムコンソールへの接続情報ファイルを復元します。

```
RC2000 # cp 退避先ファイル名 /.alt.ALTERNATIVE/etc/FJSVscslhostname<Return>
```

2. PRIMEPOWER1/100/200/250/400/450/600/650/850, GP7000F モデル 200/200R/400/400R/400A/600/600R, 富士通 S series および GP-S ファミリーの場合:

SCFドライバに関する設定ファイルを復元します。(富士通 S series および GP-S ファミリーの場合を除く)

```
# cd /.alt.ALTERNATIVE <Return>
# cpio -iu -I 退避ファイル名 <Return>
# chown root ./etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property ./etc/opt/FJSVhwr/scf.conf <Return>
# chgrp sys ./etc/opt/FJSVhwr/pwrctl.property ./etc/opt/FJSVhwr/scf.conf <Return>
```

自動電源制御の環境設定ファイルを復元します。(富士通 S series および GP-S ファミリーの場合を除く)

```
# cd / <Return>
# find var/opt/FJSVapcs/ -print -depth | cpio -pud /.alt.ALTERNATIVE <Return>
```

savelogs コマンドを使用して、マシン管理およびリモートサポートの環境設定ファイルを復元します。

```
# /usr/sbin/FJSMadm/savelogs -r -R /.alt.ALTERNATIVE 退避ディレクトリ名  
<Return>
```

E.7 ブート環境の切り換え

E.7.1 新ブート環境のアンマウント

1. ディレクトリを移動します。

```
# cd / <Return>
```

2. luumountコマンドを使用し、新ブート環境をアンマウントします。

ALTERNATIVE: ブート環境名

```
# /usr/sbin/luumount ALTERNATIVE <Return>
```

E.7.2 アクティブブート環境の切り換え

1. luactivateコマンドを使用し、アクティブなブート環境を新ブート環境に切り換えます。

```
# /usr/sbin/luactivate ALTERNATIVE <Return>
```

E.7.3 新ブート環境によるシステムの起動

アクティブなブート環境を切り換えた後に、システムの再起動を行うと、システムは新ブート環境にて起動します。システムを再起動しますので、稼働中のシステムにて行っている作業がすべて終了していることを確認してから行ってください。

1. 以下のコマンドを実行し、Enhanced Support Facility の CD-ROM 媒体を取り出します。

```
# cd / <Return>  
# eject cdrom <Return>
```

2. システムをリブートします。

```
# /usr/sbin/shutdown -y -g0 -i6 <Return>
```

注意

rebootコマンドなどを使用して再起動を行うとブート環境の切り替えが正常に行われません。

ブート環境の切り換え後に表示されるメッセージ等については、Sun Microsystems, Inc.発行のドキュメントを参照してください。

E.8 新ブート環境起動後に行う環境復元

Web-Based Admin View /WWW Server for Admin Viewの環境復元は、新ブート環境の起動後に行います。環境設定ファイルを退避している場合だけ必要な作業です。

E.8.1 環境の復元

環境設定ファイルを切り換え前のブート環境に退避していた場合には、切り換え前のブート環境をマウントします。

1. 切り替え前のブート環境をマウントします。

ORIGINAL: ブート環境名

```
# /usr/sbin/lumount ORIGINAL <Return>
```

マウントポイントが通知されます。

```
/.alt.ORIGINAL
```

切り換え前のブート環境が通知されたマウントポイントにマウントされます。

環境設定ファイルを切り換え前のブート環境に退避していた場合には、通知されたマウントポイント配下に退避先があります。

wvEnvload コマンドを使用して Web-Based Admin View /WWW Server for Admin View の環境設定ファイルを復元します。

```
# /etc/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvEnvload 退避先ファイル名 <Return>
```

E.8.2 コンポーネントの再起動

復元した設定ファイルを有効にするためにWeb-Based Admin View /WWW Server for Admin Viewコンポーネントの再起動を行います。

1. lumountコマンドを使用し、ブート環境をアンマウントします。

```
# /usr/sbin/luumount ORIGINAL <Return>
```

2. Web-Based Admin View再起動(ノードを再起動する場合は、不要です)。

```
# /etc/opt/FJSVwvbs/etc/bin/wvCntl restart <Return>
# /etc/init.d/fjsvwcnf restart <Return>
```

E.8.3 インストール後の環境設定

“5.1.5 インストール後の環境設定”または、“5.2.5 インストール後の環境設定”を参照してください。

付録 F モデル名略称とプラットフォーム名について

本ソフトウェアがサポートする各モデル名に対して、以下の略称を独自に使用しています。また Enhanced Support Facility 2.2 以前にドキュメントで使用していたプラットフォーム名との対応についても記載します。

モデル名	略称名	プラットフォーム	備考
GP7000F モデル 200/200R/400/400A/400R/600/600R PRIMEPOWER200/400/600	PW-T	FJSV,GPUS	
GP7000F モデル 1000/2000 PRIMEPOWER800/1000/2000	PW-K	FJSV,GPUSK	
PRIMEPOWER650(SPARC64™GP 搭載モデル) /850(SPARC64™GP 搭載モデル)	PW-CM	FJSV,GPUSC-M	
PRIMEPOWER650(SPARC64™V 搭載モデル) /850(SPARC64™V 搭載モデル)	PW-CMZ	FJSV,GPUZC-M	Enhanced Support Facility 2.3 よりサポート
PRIMEPOWER250/450	PW-P	FJSV,GPUZC-M	Enhanced Support Facility 2.3 よりサポート
PRIMEPOWER1500(SPARC64™ GP 搭載モデル)	PW-CL	FJSV,GPUSC-L	
PRIMEPOWER900/1500(SPARC64™ V 搭載モデル) /2500/HPC2500	PW-CLZ	FJSV,GPUZC-L	Enhanced Support Facility 2.3 よりサポート
PRIMEPOWER1/100	PW-U	FJSV,GPUU	
富士通 S series GP7000S シリーズ	GP-S	SUNW	

付録 G コンポーネントグループを指定したインストール

本製品のインストーラは通常インストール時、対象システムに提供されているパッケージ全てをインストールします。一方でお客様の運用要件に基づき運用に必要となるパッケージのみインストールするオプションを用意しています。本ソフトウェアのオプションの指定により、コンポーネントグループで定義されるパッケージのインストールパターンを複数提供しています。インストール時に、システムの要件に合わせたコンポーネントグループを指定することでインストールされるパッケージを制限できます。本仕様は、Solaris 8, 9, 10 の場合に適用されます。

本付録では、コンポーネントグループを指定したインストール方法について記載しています。

注意事項: コンポーネントグループを指定したインストールを行う場合、本ソフトウェアの機能として提供されている一部のコンポーネントはインストールされません。このため、一部のユーザコマンドおよびオンラインマニュアルは使用できません。

G.1 コンポーネントグループ指定オプション使用時の注意事項

- アップデートインストールは使用できません
一旦本ソフトウェアを削除し、その後に初期インストールしてください。
なお、ソフトウェアを削除する際は必要に応じて環境設定ファイルの退避を行ってください。
- Solaris Live Upgrade には対応していません
通常インストールにて対応してください。
- Solaris 8, 9, 10 のサポートです。
- System Console Software 等のパーティションインストーラでは使用できません。

G.2 コンポーネントグループ

インストールされるコンポーネントは、コンポーネントグループを指定することで決定されます。本ソフトウェアにて提供されるコンポーネントグループは以下の3つです。オプションを指定しない場合は、Full コンポーネントグループがインストールされます。

Component-group	内容
CORE	DR コマンド, SCF ドライバ, マシン管理, 高信頼化ドライバ, また Server Default Configuration, システム情報採取ツール, ダンプ補助, ダンプ自動解析など、ハードウェアおよびソフトウェアの信頼性を高める、 本体装置の動作に必須な コンポーネントをインストールします。
BASIC	CORE コンポーネントグループにさらに、SunVTS, FJVTS, 自動電源制御, CPU パトロール診断といったユーザユーティリティを追加したコンポーネントグループです。
Full	Web-Based Admin View / WWW Server for Admin View およびマシン管理 GUI パッケージ、自動電源制御 GUI パッケージを含む全てのコンポーネントがインストールされます。GUI 操作によるマシンの管理が可能となります。

詳細は、SPARC 版 Enhanced Support Facility セキュリティシステム構築ガイドを参照してください。

注意事項: 各コンポーネントグループは排他であり、複数のコンポーネントグループを同時に適用することはできません。

G.2.1 構成プログラム（BASIC コンポーネントグループ）

BASIC コンポーネントグループをオプション指定した場合にインストールされるパッケージ一覧です。

※各パッケージの機能および本体装置略称については本文 1.構成プログラムを参照して下さい。

・ Solaris 8 の場合

○：サポート，－：未サポート

項番	コンポーネント	パッケージ名	PW-P	PW-CLZ	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S
1	Enhanced Support Facility 情報管理	FJSVbse	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	DR コマンド	FJSVdrcmd	－	○ ※1	－ ※2	－	－	○	－	－	－
3	SCF ドライバ	FJSVscdx.us	－	－	－	－	－	－	○	－	－
		FJSVscd.us	－	－	－	－	－	－	○	－	－
		FJSVscr.us	－	－	－	－	－	－	○	－	－
		FJSVscu.us	－	－	－	－	－	－	○	－	－
		FJSVscuja	－	－	－	－	－	－	○	－	－
		FJSVsiomp	○	○	○	○	○	○	－	－	－
		FJSVscd2	－	－	－	－	－	○	－	－	－
		FJSVscr2	－	－	－	－	－	○	－	－	－
		FJSVscu2	－	－	－	－	－	○	－	－	－
		FJSVscuj2	－	－	－	－	－	○	－	－	－
		FJSVlscdx	－	－	－	－	－	－	－	○	－
		FJSVlscd	－	－	－	－	－	－	－	○	－
		FJSVlscr	－	－	－	－	－	－	－	○	－
		FJSVlscu	－	－	－	－	－	－	－	○	－
		FJSVlscuj	－	－	－	－	－	－	－	○	－
		FJSVscd3	－	○	○	○	○	－	－	－	－
		FJSVscr3	－	○	○	○	○	－	－	－	－
		FJSVscu3	－	○	○	○	○	－	－	－	－
		FJSVscuj3	－	○	○	○	○	－	－	－	－
		FJSVpscd	○	－	－	－	－	－	－	－	－
		FJSVpscr	○	－	－	－	－	－	－	－	－
FJSVpscuc	○	－	－	－	－	－	－	－	－		
FJSVpscuj	○	－	－	－	－	－	－	－	－		
4	SunVTS,FJVTS	SUNWvts	○	○	○	○	○	○	○	○	－
		SUNWvtsmn	○	○	○	○	○	○	○	○	－
		SUNWvtsx	○	○	○	○	○	○	○	○	－
		FJSVvts	○	○	○	○	○	○	○	○	－
5	Web-Based Admin View /WWW Server for Admin View	FJSVwvcnf	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		FJSVwvbs	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6	マシン管理	FJSVmasv	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		FJSVmand	－	－	－	－	－	－	○	○	○
		FJSVmadm	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVmaom	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		FJSVkmnd	－	－	－	－	－	○	－	－	－
		FJSVkmsv	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		FJSVcmnd	－	○	○	○	○	－	－	－	－
		FJSVpmnd	○	－	－	－	－	－	－	－	－
7	リモートサポート	FJSVmarm	－	－	－	－	－	－	○	○	○
		FJSVkmrm	－	－	－	－	－	○	－	－	－
		FJSVrlib	○	－	－	○	○	－	○	○	○
		FJSVragt	○	－	－	○	○	－	○	○	○
		FJSVrmaos	○	－	－	○	○	－	○	○	○
		FJSVrrda	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVracm	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVsirms	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVcmrm	－	－	－	○	○	－	－	－	－

項番	コンポーネント	パッケージ名	PW-P	PW-CLZ	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S
		FJSVcmrm2	-	○	○	-	-	-	-	-	-
		FJSVpmrm	○	-	-	-	-	-	-	-	-
8	自動電源制御	FJSVapcs	○	○	○	○	○	○	○	-	-
		FJSVapcwv	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	Server Default Configuration	FJSVdef	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVssf	○	○	○	○	○	○	○	○	-
		FJSVpnlx.us	○	○	○	○	○	○	-	-	-
		FJSVpnl.us	○	○	○	○	○	○	-	-	-
		FJSVwarn.us	○	○	○	○	○	○	○	-	-
10	システム情報採取ツール	FJSVsnap	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ライセンスマネージャ	FSUNlic	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	ダンプ補助	FJSVdmp	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13	ダンプ自動解析	FJSVana	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	高信頼化対応ドライバ	FJSVse	-	-	-	-	-	○	-	-	-
		FJSVsec	-	○	○	-	-	-	-	-	-
15	CPU パトロール診断	FJSVcpupd	-	-	○	-	○	○	○	-	-
				※3		※3					
16	G-LAN 障害通知	FJSVgidad	○	○	○	○	○	○	○	-	-
17	G-LAN MTU 設定	FJSVgidr	○	○	○	○	○	○	○	-	-
18	HCP 情報管理	FJSVhcp	○	-	-	-	-	-	-	-	-
19	システムパラメータ診断	FJSVparam	○	○	○	○	○	○	○	○	-
20	HRM-S システム稼働支援機能	FJSVhrm	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21	テープドライバ定義設定ツール	FJSVdcnf	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※1：PRIMEPOWER HPC2500 では、DR コマンドはインストールされません。

※2：DR コマンド FJSVdremd はインストールされますが、サポート対象外です。

※3：CPU パトロール診断 FJSVcpupd はPW-CLZ、PW-CMZ の全モデルにインストールされますが、サポート対象外です。

・ Solaris 9 の場合

○：サポート， -：未サポート

項番	コンポーネント	パッケージ名	PW-P	PW-CLZ ※1	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S
1	Enhanced Support Facility 情報管理	FJSVbse	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	NGDR コマンド	FJSVdr	-	○	-	-	-	○	-	-	-
					※2						
3	SCF ドライバ	FJSVscdx.us	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSVscd.us	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSVscr.us	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSVscu.us	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSVscuja	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSViomp	○	○	○	○	○	○	-	-	-
		FJSVscd2	-	-	-	-	-	○	-	-	-
		FJSVscr2	-	-	-	-	-	○	-	-	-
		FJSVscu2	-	-	-	-	-	○	-	-	-
		FJSVscuj2	-	-	-	-	-	○	-	-	-
		FJSVlscdx	-	-	-	-	-	-	-	○	-
		FJSVlscd	-	-	-	-	-	-	-	○	-
		FJSVlscr	-	-	-	-	-	-	-	○	-
		FJSVlscu	-	-	-	-	-	-	-	○	-
		FJSVlscuj	-	-	-	-	-	-	-	○	-
		FJSVscd3	-	○	○	○	○	-	-	-	-
		FJSVscr3	-	○	○	○	○	-	-	-	-
		FJSVscu3	-	○	○	○	○	-	-	-	-

項番	コンポーネント	パッケージ名	PW-P	PW-CLZ ※1	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S
		FJSVscuj3	—	○	○	○	○	—	—	—	—
		FJSVpscd	○	—	—	—	—	—	—	—	—
		FJSVpscr	○	—	—	—	—	—	—	—	—
		FJSVpscu	○	—	—	—	—	—	—	—	—
		FJSVpscuj	○	—	—	—	—	—	—	—	—
4	SunVTS,FJVTS	SUNWvts	○	○	○	○	○	○	○	○	—
		SUNWvtsmn	○	○	○	○	○	○	○	○	—
		SUNWvtsx	○	○	○	○	○	○	○	○	—
		FJSVvts	○	○	○	○	○	○	○	○	—
5	Web-Based Admin View /WWW Server for Admin View	FJSVwvcnf	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		FJSVwvbs	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6	マシン管理	FJSVmasv	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		FJSVmand	—	—	—	—	—	—	○	○	○
		FJSVmadm	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVmaom	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		FJSVkmnd	—	—	—	—	—	○	—	—	—
		FJSVkmnd	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		FJSVcmnd	—	○	○	○	○	—	—	—	—
		FJSVpmnd	○	—	—	—	—	—	—	—	—
7	リモートサポート	FJSVmarm	—	—	—	—	—	—	○	○	○
		FJSVkmrm	—	—	—	—	—	○	—	—	—
		FJSVrlib	○	—	—	○	○	—	○	○	○
		FJSVragt	○	—	—	○	○	—	○	○	○
		FJSVrmaos	○	—	—	○	○	—	○	○	○
		FJSVrrda	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVracm	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVsirms	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVcmrm	—	—	—	○	○	—	—	—	—
		FJSVcmrm2	—	○	○	—	—	—	—	—	—
		FJSVpmrm	○	—	—	—	—	—	—	—	—
8	自動電源制御	FJSVapes	○	○	○	○	○	○	○	—	—
		FJSVapewv	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9	Server Default Configuration	FJSVdef	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVssf	○	○	○	○	○	○	○	○	—
		FJSVpnlx.us	○	○	○	○	○	○	—	—	—
		FJSVpnl.us	○	○	○	○	○	○	—	—	—
		FJSVwarn.us	○	○	○	○	○	○	○	—	—
10	システム情報採取ツール	FJSVsnap	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ライセンスマネージャ	FSUNlic	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	ダンプ補助	FJSVdmp	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13	ダンプ自動解析	FJSVana	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	高信頼化対応ドライバ	FJSVse	—	—	—	—	—	○	—	—	—
		FJSVsec	—	○	○	—	—	—	—	—	—
15	CPU パトロール診断	FJSVcpupd	—	—	○	—	○	○	○	—	—
				※3		※3					
16	G-LAN 障害通知	FJSVgidad	○	○	○	○	○	○	○	—	—
17	HCP 情報管理	FJSVhcp	○	—	—	—	—	—	—	—	—
18	システムパラメータ診断	FJSVparam	○	○	○	○	○	○	○	○	—
19	HRM-S システム稼働支援機能	FJSVhrm	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20	テープドライバ定義設定ツール	FJSVdcnf	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※1：PRIMEPOWER2500/HPC2500 は除く

※2：NGDR コマンド FJSVdr はインストールされますが、サポート対象外です。

※3：CPU パトロール診断 FJSVcpupd は PW-CLZ, PW-CMZ の全モデルにインストールされますが、サポート

対象外です。

• Solaris 10 の場合

○：サポート，－：未サポート

項番	コンポーネント	パッケージ名	PW-P	PW-CLZ ※1	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S
1	Enhanced Support Facility 情報管理	FJSVbse	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	NGDR コマンド	FJSVdr	－	○	－ ※2	－	－	○	－	－	－
3	SCF ドライバ	FJSVscdx.us	－	－	－	－	－	－	○	－	－
		FJSVscd.us	－	－	－	－	－	－	○	－	－
		FJSVscr.us	－	－	－	－	－	－	○	－	－
		FJSVscu.us	－	－	－	－	－	－	○	－	－
		FJSVscuja	－	－	－	－	－	－	○	－	－
		FJSViomp	○	○	○	○	○	○	○	－	－
		FJSVscd2	－	－	－	－	－	－	○	－	－
		FJSVscr2	－	－	－	－	－	－	○	－	－
		FJSVscu2	－	－	－	－	－	－	○	－	－
		FJSVscuj2	－	－	－	－	－	－	○	－	－
		FJSVlscdx	－	－	－	－	－	－	－	○	－
		FJSVlscd	－	－	－	－	－	－	－	○	－
		FJSVlscr	－	－	－	－	－	－	－	○	－
		FJSVlscu	－	－	－	－	－	－	－	○	－
		FJSVlscuj	－	－	－	－	－	－	－	○	－
		FJSVscd3	－	○	○	○	○	○	－	－	－
		FJSVscr3	－	○	○	○	○	○	－	－	－
		FJSVscu3	－	○	○	○	○	○	－	－	－
		FJSVscuj3	－	○	○	○	○	○	－	－	－
		FJSVpscd	○	－	－	－	－	－	－	－	－
		FJSVpscr	○	－	－	－	－	－	－	－	－
		FJSVpscua	○	－	－	－	－	－	－	－	－
FJSVpscuj	○	－	－	－	－	－	－	－	－		
4	SunVTS,FJVTS	SUNWvts	○	○	○	○	○	○	○	○	－
		SUNWvtsmn	○	○	○	○	○	○	○	○	－
		SUNWvtsex	○	○	○	○	○	○	○	○	－
		FJSVvts	○	○	○	○	○	○	○	○	－
5	Web-Based Admin View /WWW Server for Admin View	FJSVwvcnf	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		FJSVwvbs	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6	マシン管理	FJSVmasv	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		FJSVmand	－	－	－	－	－	－	○	○	○
		FJSVmadm	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVmaom	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		FJSVkmnd	－	－	－	－	－	○	－	－	－
		FJSVkmsv	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		FJSVcmnd	－	○	○	○	○	－	－	－	－
		FJSVpmnd	○	－	－	－	－	－	－	－	－
7	リモートサポート	FJSVmarm	－	－	－	－	－	－	○	○	○
		FJSVkmrm	－	－	－	－	－	○	－	－	－
		FJSVrlib	○	－	－	○	○	－	○	○	○
		FJSVragt	○	－	－	○	○	－	○	○	○
		FJSVrmaos	○	－	－	○	○	－	○	○	○
		FJSVrrda	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVracm	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVsirms	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVcmrm	－	－	－	○	○	－	－	－	－
		FJSVcmrm2	－	○	○	－	－	－	－	－	－
		FJSVpmrm	○	－	－	－	－	－	－	－	－

項番	コンポーネント	パッケージ名	PW-P	PW-CLZ ※1	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S
8	自動電源制御	FJSVapcs	○	○	○	○	○	○	○	—	—
		FJSVapcwv	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9	Server Default Configuration	FJSVdef	○	○	○	○	○	○	○	○	—
		FJSVssf	○	○	○	○	○	○	○	○	—
		FJSVpnl.us	○	○	○	○	○	○	—	—	—
		FJSVwarn.us	○	○	○	○	○	○	○	—	—
10	システム情報採取ツール	FJSVsnap	○	○	○	○	○	○	○	○	
11	ライセンスマネージャ	FSUNlic	○	○	○	○	○	○	○	○	
12	ダンプ補助	FJSVdmp	○	○	○	○	○	○	○	○	
13	ダンプ自動解析	FJSVana	○	○	○	○	○	○	○	○	
14	高信頼化対応ドライバ	FJSVse	—	—	—	—	—	○	—	—	—
		FJSVsec	—	○	○	—	—	—	—	—	—
15	CPU パトロール診断	FJSVcpupd	—	— ※3	○	— ※3	○	○	○	—	—
16	G-LAN 障害通知	FJSVgidad	○	○	○	○	○	○	○	—	—
17	HCP 情報管理	FJSVhcp	○	—	—	—	—	—	—	—	—
18	システムパラメータ診断	FJSVparam	○	○	○	○	○	○	○	○	—
19	HRM-S システム稼働支援機能	FJSVhrm	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20	テープドライバ定義設定ツール	FJSVdcnf	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※1：PRIMEPOWER2500/HPC2500 は除く

※2：NGDR コマンド FJSVdr はインストールされますが、サポート対象外です。

※3：CPU パトロール診断 FJSVcpupd は PW-CLZ, PW-CMZ の全モデルにインストールされますが、サポート対象外です。

G.2.2 構成プログラム (CORE コンポーネントグループ)

CORE コンポーネントグループをオプション指定した場合にインストールされるパッケージ一覧です。
 ※各パッケージの機能および本体装置略称については本文 1.構成プログラムを参照して下さい。

・ Solaris 8 の場合

○ : サポート, - : 未サポート

項番	コンポーネント	パッケージ名	PW-P	PW-CLZ	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S
1	Enhanced Support Facility 情報管理	FJSVbse	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	DR コマンド	FJSVdrcmd	-	○ ※1	- ※2	-	-	○	-	-	-
3	SCF ドライバ	FJSVscdx.us	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSVscd.us	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSVscr.us	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSVscu.us	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSVscuja	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSVviomp	○	○	○	○	○	○	-	-	-
		FJSVscd2	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSVscr2	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSVscu2	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSVscuj2	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSVlscdx	-	-	-	-	-	-	-	○	-
		FJSVlscd	-	-	-	-	-	-	-	○	-
		FJSVlscr	-	-	-	-	-	-	-	○	-
		FJSVlscu	-	-	-	-	-	-	-	○	-
		FJSVlscuj	-	-	-	-	-	-	-	○	-
		FJSVscd3	-	○	○	○	○	-	-	-	-
		FJSVscr3	-	○	○	○	○	-	-	-	-
		FJSVscu3	-	○	○	○	○	-	-	-	-
		FJSVscuj3	-	○	○	○	○	-	-	-	-
		FJSVpscd	○	-	-	-	-	-	-	-	-
		FJSVpscr	○	-	-	-	-	-	-	-	-
FJSVscu	○	-	-	-	-	-	-	-	-		
FJSVscuj	○	-	-	-	-	-	-	-	-		
4	SunVTS,FJVTs	SUNWvts	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		SUNWvtsmn	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		SUNWvtsx	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		FJSVvts	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	Web-Based Admin View /WWW Server for Admin View	FJSVwvcnf	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		FJSVwvbs	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	マシン管理	FJSVmasv	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		FJSVmand	-	-	-	-	-	-	○	○	○
		FJSVmadm	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVmaom	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		FJSVkmnd	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSVkmsv	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		FJSVcmnd	-	○	○	○	○	-	-	-	-
		FJSVpmnd	○	-	-	-	-	-	-	-	-
7	リモートサポート	FJSVmarm	-	-	-	-	-	-	○	○	○
		FJSVkmrm	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSVrlib	○	-	-	○	○	-	○	○	○
		FJSVragt	○	-	-	○	○	-	○	○	○
		FJSVrmaos	○	-	-	○	○	-	○	○	○
		FJSVrrda	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVracm	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVsirms	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVcmrm	-	-	-	○	○	-	-	-	-

項番	コンポーネント	パッケージ名	PW-P	PW-CLZ	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S
		FJSVcmrm2	-	○	○	-	-	-	-	-	-
		FJSVpmrm	○	-	-	-	-	-	-	-	-
8	自動電源制御	FJSVapcs	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		FJSVapcwv	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	Server Default Configuration	FJSVdef	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVssf	○	○	○	○	○	○	○	○	-
		FJSVpnlx.us	○	○	○	○	○	○	-	-	-
		FJSVpnl.us	○	○	○	○	○	○	-	-	-
		FJSVwarn.us	○	○	○	○	○	○	○	-	-
10	システム情報採取ツール	FJSVsnap	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ライセンスマネージャ	FSUNlic	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	ダンプ補助	FJSVdmp	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13	ダンプ自動解析	FJSVana	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	高信頼化対応ドライバ	FJSVse	-	-	-	-	-	○	-	-	-
		FJSVsec	-	○	○	-	-	-	-	-	-
15	CPU バトロール診断	FJSVcpupd	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16	G-LAN 障害通知	FJSVgidad	○	○	○	○	○	○	○	-	-
17	G-LAN MTU 設定	FJSVgidr	○	○	○	○	○	○	○	-	-
18	HCP 情報管理	FJSVhcp	○	-	-	-	-	-	-	-	-
19	システムパラメータ診断	FJSVparam	○	○	○	○	○	○	○	○	-
20	HRM-S システム稼働支援機能	FJSVhrm	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21	テープドライバ定義設定ツール	FJSVdcnf	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※1：PRIMEPOWER HPC2500 では、DR コマンドはインストールされません。

※2：DR コマンド FJSVdrcmd はインストールされますが、サポート対象外です。

・ Solaris 9 の場合

○：サポート， -：未サポート

項番	コンポーネント	パッケージ名	PW-P	PW-CLZ ※1	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S
1	Enhanced Support Facility 情報管理	FJSVbse	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	NGDR コマンド	FJSVdr	-	○	-	-	-	○	-	-	-
					※2						
3	SCF ドライバ	FJSVscdx.us	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSVscd.us	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSVscr.us	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSVscu.us	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSVscuja	-	-	-	-	-	-	○	-	-
		FJSViomp	○	○	○	○	○	○	-	-	-
		FJSVscd2	-	-	-	-	-	○	-	-	-
		FJSVscr2	-	-	-	-	-	○	-	-	-
		FJSVscu2	-	-	-	-	-	○	-	-	-
		FJSVscuj2	-	-	-	-	-	○	-	-	-
		FJSVlscdx	-	-	-	-	-	-	-	○	-
		FJSVlscd	-	-	-	-	-	-	-	○	-
		FJSVlscr	-	-	-	-	-	-	-	○	-
		FJSVlscu	-	-	-	-	-	-	-	○	-
		FJSVlscuj	-	-	-	-	-	-	-	○	-
		FJSVscd3	-	○	○	○	○	-	-	-	-
		FJSVscr3	-	○	○	○	○	-	-	-	-
		FJSVscu3	-	○	○	○	○	-	-	-	-
		FJSVscuj3	-	○	○	○	○	-	-	-	-

		FJSVpscd	○	—	—	—	—	—	—	—
		FJSVpscr	○	—	—	—	—	—	—	—
		FJSVpscu	○	—	—	—	—	—	—	—
		FJSVpscuj	○	—	—	—	—	—	—	—
4	SunVTS,FJVTS	SUNWvts	—	—	—	—	—	—	—	—
		SUNWvtsmn	—	—	—	—	—	—	—	—
		SUNWvtsx	—	—	—	—	—	—	—	—
		FJSVvts	—	—	—	—	—	—	—	—
5	Web-Based Admin View /WWW Server for Admin View	FJSVwvcnf	—	—	—	—	—	—	—	—
		FJSVwvbs	—	—	—	—	—	—	—	—
6	マシン管理	FJSVmasv	—	—	—	—	—	—	—	—
		FJSVmand	—	—	—	—	—	○	○	○
		FJSVmadm	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVmaom	—	—	—	—	—	—	—	—
		FJSVkmnd	—	—	—	—	○	—	—	—
		FJSVkmsv	—	—	—	—	—	—	—	—
		FJSVcmnd	—	○	○	○	○	—	—	—
		FJSVpmnd	○	—	—	—	—	—	—	—
7	リモートサポート	FJSVmarm	—	—	—	—	—	○	○	○
		FJSVkmrm	—	—	—	—	○	—	—	—
		FJSVrlib	○	—	—	○	○	—	○	○
		FJSVragt	○	—	—	○	○	—	○	○
		FJSVrmaos	○	—	—	○	○	—	○	○
		FJSVrrda	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVracm	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVsirms	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVcmrm	—	—	—	○	○	—	—	—
		FJSVcmrm2	—	○	○	—	—	—	—	—
		FJSVpmrm	○	—	—	—	—	—	—	—
8	自動電源制御	FJSVapes	—	—	—	—	—	—	—	—
		FJSVapcww	—	—	—	—	—	—	—	—
9	Server Default Configuration	FJSVdef	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVssf	○	○	○	○	○	○	○	—
		FJSVpnlx.us	○	○	○	○	○	○	—	—
		FJSVpnl.us	○	○	○	○	○	○	—	—
		FJSVwarn.us	○	○	○	○	○	○	—	—
10	システム情報採取ツール	FJSVsnap	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ライセンスマネージャ	FSUNlic	—	—	—	—	—	—	—	—
12	ダンプ補助	FJSVdmp	○	○	○	○	○	○	○	○
13	ダンプ自動解析	FJSVana	○	○	○	○	○	○	○	○
14	高信頼化対応ドライバ	FJSVse	—	—	—	—	○	—	—	—
		FJSVsec	—	○	○	—	—	—	—	—
15	CPU バトロール診断	FJSVcpupd	—	—	—	—	—	—	—	—
16	G-LAN 障害通知	FJSVgidad	○	○	○	○	○	○	○	—
17	HCP 管理情報	FJSVhcp	○	—	—	—	—	—	—	—
18	システムパラメータ診断	FJSVparam	○	○	○	○	○	○	○	—
19	HRM-S システム稼働支援機能	FJSVhrm	—	—	—	—	—	—	—	—
20	テープドライバ定義設定ツール	FJSVdcnf	○	○	○	○	○	○	○	○

※1 : PRIMEPOWER2500/HPC2500 は除く

※2 : NGDR コマンド FJSVdr はインストールされますが、サポート対象外です

• Solaris 10 の場合

○：サポート，－：未サポート

項番	コンポーネント	パッケージ名	PW-P	PW-CLZ ※1	PW-CL	PW-CMZ	PW-CM	PW-K	PW-T	PW-U	GP-S
1	Enhanced Support Facility 情報管理	FJSVbse	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	NGDR コマンド	FJSVdr	－	○	－ ※2	－	－	○	－	－	－
3	SCF ドライバ	FJSVscdx.us	－	－	－	－	－	－	○	－	－
		FJSVscd.us	－	－	－	－	－	－	○	－	－
		FJSVscr.us	－	－	－	－	－	－	○	－	－
		FJSVscu.us	－	－	－	－	－	－	○	－	－
		FJSVscuja	－	－	－	－	－	－	○	－	－
		FJSVsiomp	○	○	○	○	○	○	－	－	－
		FJSVscd2	－	－	－	－	－	○	－	－	－
		FJSVscr2	－	－	－	－	－	○	－	－	－
		FJSVscu2	－	－	－	－	－	○	－	－	－
		FJSVscuj2	－	－	－	－	－	○	－	－	－
		FJSVlscdx	－	－	－	－	－	－	－	○	－
		FJSVlscd	－	－	－	－	－	－	－	○	－
		FJSVlscr	－	－	－	－	－	－	－	○	－
		FJSVlscu	－	－	－	－	－	－	－	○	－
		FJSVlscuj	－	－	－	－	－	－	－	○	－
		FJSVscd3	－	○	○	○	○	－	－	－	－
		FJSVscr3	－	○	○	○	○	－	－	－	－
		FJSVscu3	－	○	○	○	○	－	－	－	－
		FJSVscuj3	－	○	○	○	○	－	－	－	－
		FJSVpscd	○	－	－	－	－	－	－	－	－
FJSVpscr	○	－	－	－	－	－	－	－	－		
FJSVpscu	○	－	－	－	－	－	－	－	－		
FJSVpscuj	○	－	－	－	－	－	－	－	－		
4	SunVTS,FJVTS	SUNWvts	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		SUNWvtsmn	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		SUNWvtsx	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		FJSVvts	－	－	－	－	－	－	－	－	－
5	Web-Based Admin View /WWW Server for Admin View	FJSVwvcnf	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		FJSVwvbs	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6	マシン管理	FJSVmasv	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		FJSVmand	－	－	－	－	－	－	○	○	○
		FJSVmadm	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVmaom	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		FJSVkmnd	－	－	－	－	－	○	－	－	－
		FJSVkmsv	－	－	－	－	－	－	－	－	－
		FJSVcmnd	－	○	○	○	○	－	－	－	－
FJSVpmnd	○	－	－	－	－	－	－	－	－		
7	リモートサポート	FJSVmarm	－	－	－	－	－	－	○	○	○
		FJSVkmrm	－	－	－	－	－	○	－	－	－
		FJSVrlib	○	－	－	○	○	－	○	○	○
		FJSVragt	○	－	－	○	○	－	○	○	○
		FJSVrmaos	○	－	－	○	○	－	○	○	○
		FJSVrrda	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVracm	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVsirms	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		FJSVcmrm	－	－	－	○	○	－	－	－	－
		FJSVcmrm2	－	○	○	－	－	－	－	－	－
FJSVpmrm	○	－	－	－	－	－	－	－	－		
8	自動電源制御	FJSVapes	－	－	－	－	－	－	－	－	

		FJSVapcwv	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9	Server Default Configuration	FJSVdef	○	○	○	○	○	○	○	○	—
		FJSVssf	○	○	○	○	○	○	○	○	—
		FJSVpnl.us	○	○	○	○	○	○	—	—	—
		FJSVwarn.us	○	○	○	○	○	○	○	—	—
10	システム情報採取ツール	FJSVsnap	○	○	○	○	○	○	○	○	
11	ライセンスマネージャ	FSUNlic	—	—	—	—	—	—	—	—	
12	ダンプ補助	FJSVdmp	○	○	○	○	○	○	○	○	
13	ダンプ自動解析	FJSVana	○	○	○	○	○	○	○	○	
14	高信頼化対応ドライバ	FJSVse	—	—	—	—	—	○	—	—	—
		FJSVsec	—	○	○	—	—	—	—	—	—
15	CPU バトロール診断	FJSVcpupd	—	—	—	—	—	—	—	—	
16	G-LAN 障害通知	FJSVgidad	○	○	○	○	○	○	○	—	
17	HCP 管理情報	FJSVhpc	○	—	—	—	—	—	—	—	
18	システムパラメータ診断	FJSVparam	○	○	○	○	○	○	○	—	
19	HRM-S システム稼働支援機能	FJSVhrm	—	—	—	—	—	—	—	—	
20	テープドライバ定義設定ツール	FJSVdcnf	○	○	○	○	○	○	○	○	

※1 : PRIMEPOWER2500/HPC2500 は除く

※2 : NGDR コマンド FJSVdr はインストールされますが、サポート対象外です

G.3 コンポーネントグループを指定したインストール

コンポーネントグループを指定してインストールを行うには、次のとおりコンポーネントグループ指定オプションを使用します。

形式 `esfadd [-c] [-O COMPONENT-GROUP]`

COMPONENT-GROUP にはインストールするコンポーネントグループを指定します。

また、`-c` オプションによりインストールされるパッケージを確認できます。

実行例(PRIMEPOWER400, Solaris 8, BASIC コンポーネントインストール):

1. インストールされるパッケージを確認します。

```
# bin/esfadd -c -O BASIC <Return>
```

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

アップデートされるパッケージを確認します。

```
プラットフォーム: FJSV,GUPS
OS Release: Solaris 8
コンポーネントグループ: BASIC
```

上記設定で、続けますか? [yes or no ?]: **yes** <Return>

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

Check the package that will be updated.

```
Platform: FJSV,GPUS
OS Release: Solaris 8
COMPONENT GROUP: BASIC
```

Do you want to continue? [yes or no ?]: **yes** <Return>

本ソフトウェアがインストールされていない場合は以下のメッセージが表示されます。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
esfadd: 情報: 本ソフトウェアはシステムにインストールされていません。
```

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfadd: INFO: This software is not installed on the system.
```

2. esfadd コマンドにオプションを指定してインストールを行います

```
# bin/esfadd -O BASIC <Return>
```

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

Enhanced Support Facility 2.5 をインストールします。

プラットフォーム: FJSV,GPUS
OS Release: Solaris 8
コンポーネントグループ: BASIC

上記設定で、インストールしますか? [yes or no ?]: **yes** <Return>

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

Enhanced Support Facility 2.5 will be installed.

Platform: FJSV,GPUS
OS Release: Solaris 8
COMPONENT GROUP: BASIC

Do you want to continue with this installation? [yes or no ?]: **yes**
<Return>

注意 1

指定したコンポーネントグループに含まれていないパッケージが存在した場合、以下の注意が出力されます。

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

Enhanced Support Facility 2.5 will be installed.

Platform: FJSV,GPUS
OS Release: Solaris 8
COMPONENT GROUP: BASIC

NOTE: The following package(s) not included in the specified component group is installed.

PACKAGE1 PACKAGE2

Do you want to continue with this installation? [yes or no ?]:

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

Enhanced Support Facility 2.5 をインストールします。

プラットフォーム: FJSV,GPUS
OS Release: Solaris 8
コンポーネントグループ: BASIC

注意: 指定されたコンポーネントグループに含まれていない次のパッケージがインストールされています

PACKAGE1 PACKAGE2

上記設定で、インストールしますか? [yes or no ?]:

”no”を入力してインストールを中断し、システム環境の確認を行ってください。

また、このメッセージは本ソフトウェア以外のソフトウェアによりパッケージがインストールされている場合にも表示されますが、その場合にはインストールを継続しても問題ありません。

インストールにおける注意事項については本文 5.1.2 または 5.2.2 ”ソフトウェアのインストール”を参照してください。

3. インストールされた各パッケージの版数を調べたい場合には、通常のインストールと同様に esfver コマンドを使用します。

```
# bin/esfver -l <Return>
```

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

esfver: 情報: インストール済み Enhanced Support Facility パッケージの版数
COMPONENT-GROUP: BASIC

PKGNAME	VERSION	REVISION
FJSVbse	2.5	2005.02.1800
FJSVscdx	1.9.1	2003.11.1100
	:	
	:	
FJSVcpupd	1.3	2002.10.0900

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
esfver: INFO: Individual Packages Version of already installed
Enhanced Support Facility.
COMPONENT-GROUP: BASIC
PKGNAME      VERSION      REVISION
-----
FJSVbse      2.5          2005.02.1800
FJSVscdx     1.9.1        2003.11.1100
              :
              :
FJSVcpupd    1.3          2002.10.0900
-----
```

4. 削除の手順は通常のインストールと同様に **esfrm** を使用します。オプション指定は必要ありません

```
# bin/esfrm <Return>
```

次に以下のようなメッセージが表示されます。 **all**, **part**, または **no** を入力してください。

LANG 環境変数を ja ロケールに設定している場合

```
Enhanced Support Facility 2.5 を削除します。
COMPONENT-GROUP: BASIC
FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
              (sparc) 2.5,REV=2005.02.1800
              :
              :
FJSVcpupd    CPU patrol diagnosis
              (sparc) 1.3,REV=2002.10.0900
```

パッケージ名の先頭に "*" の付いたパッケージを削除すると、システムに問題を生じる場合があります。

全てのパッケージを削除する場合は **all** を入力してください。
 "*" の付いていないパッケージのみ削除する場合は **part** を入力してください。
 削除処理を中止する場合は **no** を入力してください。
 選択してください。 [**all,part or no**]:

LANG 環境変数を ja ロケール以外に設定している場合

```
Enhanced Support Facility 2.5 will be removed.
COMPONENT-GROUP: BASIC
FJSVbse      Enhanced Support Facility Information Management
              (sparc) 2.5,REV=2005.02.1800
              :
              :
FJSVcpupd    CPU patrol diagnosis
              (sparc) 1.3,REV=2002.10.0900

There is a possibility to cause problem(s) in the system when the
package(s) where "*" adheres to the head of the package name is
deleted.

Please input "all" when you want to remove all packages, input "part"
when you want to remove only package(s) where "*" ds not adhere,
or input "no" when you want to interrupt the uninstallation.

Please select. [all, no or part]:
```

付録 H 修正パッチが適用されない場合

修正パッチに関する情報は、製品 CD-ROM パッチディレクトリ内の README.ja を参照してください。

1. パッチの適用中に以下のメッセージが出力され、パッチが適用されない場合があります。

a. パッチが存在しない場合

(xxxxxx-xx はパッチ ID)

```
One or more patch packages included in
xxxxxx-xx are not installed on this system.
WARNING: Skipping patch xxxxxx-xx
```

または、

```
None of the packages included in patch xxxxxx-xx
are installed on this system.
WARNING: Skipping patch xxxxxx-xx
```

これらのメッセージが出力された場合は、パッチの修正対象となるパッケージがインストールされていません。システムの環境を確認してください。

コンポーネントグループを指定したインストールを行い、パッチの修正対象となるパッケージがインストールされていない場合にこのメッセージが出力される場合がありますが問題ありません。

b. パッチが既に適用されている場合

```
Patch xxxxxx-xx has already been applied.
See patchadd(1M) for instructions.
WARNING: Skipping patch xxxxxx-xx
```

このメッセージが出力された場合、パッチは既にシステムに適用されています。システムの環境を確認してください。

本製品のアップグレードインストールを行った場合にこのメッセージが出力される事があります。

2. パッチの適用を再度行う場合には、以下の手順を実行してください。

1) FJSVbse パッケージを削除します

```
# pkgrm FJSVbse <Return>
```

2) “5.1.2 ソフトウェアのインストール” の手順 2.または、“5.2.2 ソフトウェアのインストール” の手順 2. から作業を行います。

付録 I カスタム JumpStart について

Enhanced Support Facility 2.4.1 より、カスタム JumpStart に対応しています。
カスタム JumpStart については、Sun Microsystems, Inc. 発行のドキュメントを参照してください。

I.1 環境

- 対応しているオペレーティング環境は以下のとおりです。

Solaris 9 Solaris10

- 対応している機種は以下のとおりです
 - PW-CMZ(FJSV,GPUZC-M) : PRIMEPOWER650(SPARC64™ V 搭載モデル)/850(SPARC64™ V 搭載モデル)
 - PW-CLZ(FJSV,GPUZC-L) : PRIMEPOWER900/1500(SPARC64™ V 搭載モデル)/2500/HPC2500
 - PW-P(FJSV,GPUZC-M) : PRIMEPOWER250/450

I.2 カスタム JumpStart 手順

この付録ではネットワークインストールのインストールサーバ上のCD-ROMドライブを使ってインストール手順を説明します。

I.2.1 インストールサーバの CD を他のシステムで使用可能に設定する

インストールサーバの CD-ROM を、他のシステムで使用可能にします。使用方法は、以下を参照してください。

- Solaris 9 System Administrator Collection – Japanese “Solaris のシステム管理 (基本編)” の “リムーバブルメディアへのアクセス (手順)”
- Solaris 9 System Administrator Collection “System Administration Guide: Basic Administration” の “Accessing Removable Media (Tasks)”

注意

ローカル CD を他のシステムで使用可能にする場合は、`/etc/rmmount.conf` ファイルに以下の行を追加してください。

```
share cdrom* -o ro,anon=0
```

"share cdrom*"を追加すると、`esfadd` コマンドが起動できません。

I.2.2 Enhanced Support Facility のインストールスクリプト

Enhanced Support Facilityのインストールはオペレーティング環境のインストール後のフィニッシュスクリプトで行います。

本項では、フィニッシュスクリプトにて記述、実行する内容について述べます。

- 1) Enhanced Support FacilityのCD-ROMをマウントします。
例ではインストールサーバのCD-ROMをマウントします。

- 2) Enhanced Support Facilityのインストール

以下のオプションで `esfadd` コマンドを実行します。

`-R <インストール先のディレクトリ>`

JumpStart では/a を指定します。

`-d <パッケージ格納ディレクトリ>`

必ず、機種とオペレーティング環境に合ったパッケージディレクトリをフルパスで指定してください。

パッケージ格納ディレクトリは、以下のとおりです。
 指定ディレクトリが違う場合、機器を破壊する恐れがありますので、注意してください。

プラットフォーム	OS バージョン	パッケージ格納ディレクトリ
PW-CLZ	Solaris 9	<マウントポイント>/Platform/C_L_Z/9
	Solaris10	<マウントポイント>/Platform/C_L_Z/10
PW-CMZ	Solaris 9	<マウントポイント>/Platform/C_M_Z/9
	Solaris10	<マウントポイント>/Platform/C_M_Z/10
PW-P	Solaris 9	<マウントポイント>/Platform/P/9
	Solaris10	<マウントポイント>/Platform/P/10

-n
 問い合わせを抑制します。カスタム JumpStart の時のみ使用してください。

例:PRIMEPOWER250/450 Solaris 9 の場合のフィニッシュスクリプト

```
mount -F nfs <インストールサーバのIP>:<インストールサーバのCDのマウントポイント> /a/mnt
/a/mnt/bin/esfadd -R /a -d /a/mnt/Platform/P/9 -n
```

I.3 注意

- 初期インストールのみ使用可能です。
 Install_type プロファイルキーワードには、initial_install または flash_install を指定してください。
 インストールに失敗した場合には、OS から初期インストールをやり直す必要があります。
- esfaddの-dオプションによる、パッケージディレクトリの指定は必須です。
 指定ディレクトリが違う場合、機器を破壊する恐れがありますので、注意してください。

付録 J DHCP サービスを使用した、Solaris のネットワークインストールを行った場合について

DHCP サービスを使用してネットワークインストールを行った場合、インストールを行ったマシンは DHCP クライアントとして設定されます。Enhanced Support Facility のインストールは、必ず、固定 IP アドレスに変更後に行ってください。

注意:

DHCP サービスを使用したネットワークインストールは Solaris 9 のみでサポートしています。詳しくはハードウェアプラットフォームガイドを参照してください。

誤って、DHCP クライアント運用で Enhanced Support Facility をインストールしてしまった場合の影響、および、対処方法は以下のとおりです。

- Web-Based Admin View

影響 : Web-Based Admin View に接続できません。
クライアントに以下のメッセージが表示されます。

0005 管理サーバに接続できません。再接続しますか？

対処 : 固定 IP アドレス運用に変更後、以下を参照して IP アドレスの設定を行ってください。
「Web-Based Admin View 操作手引き書」
6.1 業務 LAN の IP アドレスの変更

- リモートサポート

影響 : PtoP 接続(ISDN)を使ったリモート通報が行えません。
対処 : 固定 IP アドレス運用に変更後、当社技術員に、"REMCS PtoP 接続(ISDN)接続用ルータの設定変更"の作業を依頼してください。

付録 K Solaris Zone 対応について

注意 1

本製品は、global zone にインストールしてください。
non-global zone にはインストールできません。
non-global zone で esfadd を実行すると、以下のメッセージを表示して終了します。

```
esfadd: エラー: non-global zone にはインストールできません。
```

注意 2 ライセンスマネージャ

Solaris 10 において zone を作成した場合、ライセンスマネージャは global zone で起動します。FSUNlic パッケージは、global zone へのみインストールし、global zone で設定したライセンスファイルを non-global zone にコピーしてください。

```
global# cd /etc/opt
global# find FSUNlicense ! -name bin -print | cpio -pdm zone_path/root/etc/opt
```

注意 3 ライセンスサーバの登録

Solaris 10 において zone を作成した場合、サーバのノード名に global zone のノード名を入力してください。

注意 4 Dynamic Reconfiguration (DR)

Zone と組合せて使用する際には、以下にご注意ください。

- DR 操作は global zone からのみ実行可能です。non-global zone からの DR 操作は行えません。
- non-global zone に対して、物理デバイスを割当てた場合には、DR による切離し操作が失敗することがあります。DR と zone を組合せてご使用になる場合には、あらかじめ DR を考慮に入れたシステム設計を行ってください。

注意 5 PCI Hot Plug (PHP)

Zone と組合せて使用する際には以下にご注意ください。

- PCI Hot Plug 操作は global zone からのみ実行可能です。non-global zone からの PCI Hot Plug 操作は行えません。
- non-global zone に対して、物理デバイスを割当てた場合には、PCI Hot Plug による切離し操作が失敗することがあります。PCI Hot Plug と zone を組合せてご使用になる場合には、あらかじめ PCI Hot Plug を考慮に入れたシステム設計を行ってください。

参照先

Zone に関する詳細については、以下を参照してください。

- Solaris 10 System Administrator Collection
“System Administration Guide: Solaris Containers -- Resource Management and Solaris Zones “

付録 L FJVTS の注意事項

L1. Solaris 10 インストール時の注意事項

Solaris 10 のインストール時、次に示す画面で、SunVTS (Sun Validation Test Suite)をインストールするかどうか選択可能ですが、SunVTS はインストールしないで下さい。

[画面表示例]

```
- Select Products -----
Select the products you would like to install.

V [ ] Solaris 10 Extra Value Software..... 0.00 MB
  [ ]   Sun Validation Test Suite 6.0..... 68.46 MB
  [ ]   Sun Install Check 2.0.2..... 16.21 MB
  [ ]   SRS Net Connect 3.1..... 42.59 MB
> [ ] Solaris 10 Documentation..... 0.00 MB
> [ ] Java Enterprise System..... 0.00 MB
> [ ] Solaris Software Companion CD..... 0.00 MB

Press Return to hide components
-----
Esc-2_Continue   F3_Go Back   Esc-4_Product Info   F5_Exit   F6_Help
```

※SunVTS は、Enhanced Support Facility に収録しているものを使用しますので、ここではインストールしないで下さい。

上述の画面で、SunVTS を選択(インストール)した場合、FJVTS が起動できないことがあります。

[FJVTS の起動に失敗する例]

```
# /opt/FJSVvts/bin/fjvts
Now, FJVTS system is under construction.
Apr 20 14:58:20 katana SunVTS6.0: entry = .customtest
Apr 20 14:58:20 katana SunVTS6.0: entry = .customtest_OtherDevices
Apr 20 14:58:21 katana SunVTS6.0: dlopen() for probe shared library ../../lib/probe/sparcv9/jnifctest_probe.so failed. ld.so.1: ./vtsk: fatal: relocation error: file ../../lib/probe/sparcv9/jnifctest_probe.so: symbol vts_set_test_concurrency: referenced symbol not found

sunvts: Can't start vtsk properly. Stop.
#
```

L2. FJVTS が起動できなくなった場合の対処方法

対処方法として、以下の手順を実行してください。

1) FJVTS 関連プロセスの削除

FJVTS の起動に失敗した場合、システム上に FJVTS 関連のプロセスが残ることがあります。FJVTS 関連プロセスがシステム上に残っている場合、kill コマンド等によりそのプロセスを削除して下さい。

[実行例]

```
# ps -ef | grep -v grep | grep vts <Return>
root 3416 1 0 15:01:41 ? 0:00 ./vtsk
# kill -KILL 3416 <Return>
```

2) 環境設定ファイルの退避

環境設定ファイルを"5.1.1.2 環境設定ファイルの退避方法"または、"5.2.1.2 環境設定ファイルの退避方法"に従って退避します。

3) SunVTS/FJVTS 関連パッケージの削除

次に示すコマンドを実行し、SunVTS/FJVTS 関連パッケージを削除します。

```
# pkgrm FJSVvts SUNWvtsx SUNWvtsts SUNWvtsr SUNWvtsmn SUNWvts
<Return>
```

※本コマンドの入力後、次に示すメッセージが表示される場合がありますが、"y" を入力し、パッケージの削除処理を継続して下さい。

```
The following products depend on the package:
ID                                     Name
-----
XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX  XXXXXXX
XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX  XXXXXXX
XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX  XXXXXXX
Do you want to continue with the removal of this package [y,n,?,q] y <Return>
```

4) FJSVbse パッケージの削除

次に示すコマンドを実行し、FJSVbse パッケージを削除します。

```
# pkgrm FJSVbse <Return>
```

※その他のパッケージは削除する必要がありません。

5) Enhanced Support Facility の再インストール

シングルユーザモードへ移行後、"5.1.2 ソフトウェアのインストール"の手順 2. または、"5.2.2 ソフトウェアのインストール"の手順 2. から作業を行います。

6) 環境設定ファイルの復元

退避した環境設定ファイルを"5.1.3 インストール後の環境復元"または、"5.2.3 インストール後の環境復元"に従って復元します。